



TITLE:

# 京都大学結核胸部疾患研究所年報 (昭和 61 年度)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学結核胸部疾患研究所年報 (昭和 61 年度). 京都大学結核胸部疾患研究所紀要 1987, 20(1/2)

ISSUE DATE:

1987-08-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/52120>

RIGHT:

京 都 大 学

# 結核胸部疾患研究所年報

昭 和 6 1 年 度

(1 9 8 7 年 3 月)

京都大学結核胸部疾患研究所

# 京 都 大 学

## 結 核 胸 部 疾 患 研 究 所 年 報

昭 和 61 年 度

(1986 年)

---

### 京都大学結核胸部疾患研究所職員

---

(昭和62年3月30日現在)

所 長 教 授 大 島 駿 作

#### (内科学第一部門)

主任教授：久世文幸，助教授：川合 満，講師：倉沢卓也，助手：山本孝吉，網谷良一，村山尚子，田中栄作，  
講師(非常勤)：今井節朗，中井 準，田中健一，岩田猛邦，辻野博之，中西通泰，技官：本間トキエ，技術補佐  
員：片岡和美

#### (内科学第二部門)

主任教授：大島駿作，助教授：泉 孝英，講師：門 政男，助手：北市正則，松井祐佐公，平田健雄，講師(非  
常勤)：日置辰一郎，中島道郎，佐藤篤彦，杉本幾久雄，北 徹，今井弘行  
技官：今井保代，技能補佐員：谷岡文子，曾根千雅，奥田敦子

#### (胸部外科学部門)

主任教授：人見滋樹，助教授：和田洋己，講師：田村康一，助手：岡田賢二，青木 稔，講師(非常勤)：吉栖  
正之，秋山文彌，香川輝正，岡田慶夫，草川 實，玉井 直，事務補佐員：山本尚子，技術補佐員：高 淳恵，  
石橋浩一，寺本奈尾美

#### (病理学部門)

主任教授：竹田俊男，助教授：鈴木康弘

助手：細川昌則，樋口京一，講師(非常勤)：三ツ井洋司，馬場満男，江崎孝三郎，里内 清

技官：松下隆寿，小岸久美子，岩井昭一，技能補佐員：門田一美，医員：藤田葉子，(研修医)内木宏延

#### (細菌血清学部門)

主任教授：桂 義元，助教授：細野正道，助手：喜納辰夫，医員：魚住公治，講師(非常勤)：徳永 徹，湊  
長博，佐渡敏彦，技能補佐員：岡田洋子

#### (細胞化学部門)

主任教授：永田和宏，助教授：大川欣一

講師：前田道之

講師(非常勤)：穂積本男，矢原一郎

技官：島田道子，事務補佐員：坪田晴子

（臨床肺生理学部門）

主任教授：久野健志，助教授：大井元晴，佐藤公彦，講師：三嶋理晃，助手：李 勝弘，講師(非常勤)：山林一，仲田 祐，山田久和，太田和夫，中川正晴，加藤幹夫，阿部光幸，伊藤春海，小野公二，技能補佐員：服部央子，石田嘉子

（事務部）

事務部長：西村幸雄，管理課長：槌田義久，庶務掛長：中谷 章，同主任：生駒時秀，同事務官：野田芳子，乾 和巳，水原貞子，事務補佐員：杉山智美，二木富美子，經理掛長：佐野重信，同主任：野元頼子，同事務官：畑 勝，北野和男，安達康夫，梅田二郎，事務補佐員：中瀬安子，施設掛長：谷 泰雄，技官：進士 悟，松浦 康，藤木清文，小西喜一郎，業務課長：佐藤文宜，医事掛長：畠中秀雄，同主任：田原親，事務官：沢田佳也，田村長生，殿崎雅弘，久富丈志，技官：竹内孝子，事務補佐員：集治昌代，中村房枝，土井弘子，大谷小百合，橋本敏子，収入掛長：石井利和，事務官：藤井芳克，関 保子，事務補佐員：多田真由美

（附属感染免疫動物実験施設）

施設 長(兼)教授：桂 義元，助教授：西川伸一，技官：安岡倉一，大字雪雄，近藤照子，高沖悠子

（電子顕微鏡室）

技官：増田 稔

（附属病院）

病院長(兼)教授：久世文幸

（第一内科診療科）

科 長(兼)教授：久世文幸，外来医長(兼)助教授：川合 満，病棟医長(兼)講師：倉澤卓也，医員：鈴木克洋，河南里江子，(研修医)，新實彰男，富岡洋海，縄田隆平，多田公英，橋本 徹，池上裕美子

（第二内科診療科）

科 長(兼)教授：大島駿作，外来医長(兼)助教授：泉 孝英，病棟医長(兼)講師：門 政男，医員：長井苑子，荻原順一，(研修医)小澤佳広，小山 弘，川谷暁夫

（外科診療科）

科 長(兼)教授：人見滋樹，外来医長(兼)助教授：和田洋己，病棟医長(兼)講師：田村康一，医員：乾 健二，(研修医)李 美於

（理学呼吸器科診療科）

科 長(兼)教授：久野健志，外来医長(兼)助教授：佐藤公彦，病棟医長(兼)助教授：大井元晴，医員：平田博通，(研修医)松尾晃次，田中嘉人，中村吉法，関野 一

（検査部）

検査部長(兼)助教授：木野稔也，技師長：木津 啓，技官：前田清子，黒住真史，春名和代，岡部好恵，山根すま子，平井 要，技術補佐員：宮野和子，富田由美子，浅沼由美，技能補佐員：林すみ子，東 杏枝

（放射線部）

放射線部長(兼)教授：久野健志，技師長：濱川純一，同主任：藏岡信良，技官：大坂泰夫，曾我部康之，灘井智代子，田中龍蔵，技能補佐員：小林 忍，野間口明美

（麻醉部）

麻醉部長(兼)助教授：和田洋己

（輸血部）

輸血部長(兼)助教授：川合 満

（手術部）

手術部長(兼)教授：人見滋樹

（材料部）

材料部長(兼)助教授：和田洋己

## (薬劑部)

薬劑部長：武山正治，薬劑主任：澤岡平和，技官：藤原壽子，小林千代子，川田昌子，川勝一雄，薬劑師：中島英一，事務補佐員：芦田明子

## (看護部)

看護部長：平野照子，看護婦長：小林とよ，松田比佐子，和多田すみ子，西森三保子，山本喜美，副看護婦長：丘 恵子，齊藤千鶴子，末田恵子，技官：大山峯子，小林裕子，稲田ひろ子，山中祥子，柴田佐代子，松本敏枝，藤井喜代子，福田千恵子，濃野ヒロ子，岩佐純子，松原千里，川中マスコ，今西美千乃，小林富貴子，阿部喜代子，相川三千代，寺戸美枝子，山西順子，梅田正子，田尻春代，榊喜久子，高橋わさ子，北川繁子，小林梅野，永利明美，渡部幸子，安藤純子，水上絹子，荻田孝子，三宅重子，平畑早苗，内藤敏子，米沢カヨ子，松田初枝，村直西美，稲垣美智子，湯浅里恵，園田正子，坂東フサエ，滝野清子，谷内かおり，玄真利子，田中悦子，若村智子，原田芳香，能井美千代，内木カネ子，森朝子，片桐久江，山道美津子，渡辺ヒデ子，濱村初子，濱本初美，広瀬文代，技能補佐員：松本不二，秋本つたえ，田中綾子，技術補佐員：勇 免子，朴 貞子，秋里 梢，早川泉子，曾我部京子

---

## 教 官 人 事

---

## 細胞化学部門 永 田 和 宏 教 授

昭和61年4月1日付で退官された細胞化学部門市川康夫教授の後任として，同部門講師であった永田和宏氏の昇任が決定，昭和61年11月16日付で発令された。以下に同氏の略歴ならびに研究業績の概略を簡単に紹介します。

学 歴：昭和41年4月 京都大学理学部入学

昭和46年3月 京都大学理学部物理学科卒業

職 歴：昭和46年4月 森永乳業中央研究所入社

昭和51年10月 同上退社

昭和51年11月 京都大学結核胸部疾患研究所細胞化学部門研修員

昭和54年7月 同上講師

昭和59年5月 米国国立癌研究所へ留学

昭和61年5月 帰国

昭和61年11月 京都大学結核胸部疾患研究所細胞化学部門教授

## 研究業績概要：

永田氏のこれまでの研究は大きく分けて2つの領域に分けられよう。

1) まず恩師市川康夫先生の確立されたM1細胞株を用いて骨髓性白血病細胞から大喰細胞への分化過程に伴なう運動能の変化に着目し，この現象と細胞骨格系蛋白質特にアクチン，ミオシンに注目し，とくにアクチン分子の機能を制御していると思われる3つの新しい蛋白質を分離・精製，その作用を明かにされました。この仕事は細胞分化を分子レベルの仕事として擲えた先駆的な輝かしいもので世界的に高く評価されています。

2) 次は氏が米国 NCI 留学中になされた細胞外マトリックスと細胞膜上に存在する受容体に関する仕事で，この中でコラーゲンによるフィブロネクチン作用の抑制作用の発見，さらにフィブロネクチンとコラーゲン受容体の相互作用について新知見が加えられた。次にニワトリ胎児線維芽細胞の細胞膜に存在するコラーゲン結合性蛋白質（分子量 47K）がウイルスで癌化した細胞において，蛋白自体は減少するが蛋白の磷酸化が5～7倍に増加するという，細胞癌化とこの蛋白との関連につき極めて重要な発見となり，さらにこの研究の進展する中で，この蛋白が，最近，医学・生物学の領域でホットなトピックスになってきているいわゆる“heat shock protein”に属する新しい蛋白種であることを発見された。

以上、永田氏の仕事は先生が従来から志向されてきた細胞分化の現象を精緻な様々の方法論を駆使して分子レベルで着実に観察していこうとする大きな流れの中にあるものと理解されると共に、特に上記2)に示すように温熱と細胞分化あるいは癌化抑制等のいわば臨床と基礎の接点に新しい展望を与える可能性を大きく秘めたものと考えられ、本研究所にとっても意義あるものと思われる。

先生のお人柄は明朗潤達さと、その中に包まれたデリカシーにあると思います。これは、先生の御趣味がテニス、登山をはじめ色々のスポーツにある一方、短歌にも通じられ、折にふれ奥様と共に、すばらしい歌を詠まれるという面にもうかがい知れます。

今后先生が、巾広い、暖かい人間性にうらうちされた恵まれた才能と、若さを充分生かされて、より大きく、益々研究を発展させられ、細胞化学部門、胸部研の発展のために御健闘あらんことを祈ってやみません。

(竹田俊男)

#### 細胞化学部門 前田道之講師

昭和41年京大医学部卒。大学院（ウイルス研究所癌ウイルス部）を修了後、昭和46年ウイルス研究所の助手となり、市川康夫助教授のもとで、マウス骨髓性白血病細胞に対する分化促進因子の精製に携った。市川康夫氏が教授として本研究所に赴任されたのに伴ない、前田氏もウイルス研究所から移籍、引続き白血病細胞の分化に関する研究を続けた。昭和54年から2年間、米国国立がん研究所の R. C. Gallo 博士のもとへ研究出張し、帰国後は、成人T細胞白血病 (ATL) の細胞株を多く樹立している。ATLの研究は、現在日本の癌研究の中でもっともアクティブな分野の一つであるが、淀井淳司（免疫研）内山卓（内科第一）両氏らとの緊密な協力体制の上になされている前田氏の研究は、世界的にも高い評価を得ている。

(永田和宏)

#### 胸部外科 和田洋巳助教授

昭和44年京都大学医学部卒業、国立療養所宇多野病院、健保滋賀病院、大学院を経て、52年4月胸部外科助手に就任。55年9月から57年12月まで島田市民病院に呼吸器科新設のため赴任し、その基礎造りをしたのち、57年12月から胸部外科講師、病棟医長を務め、62年1月付けで助教授に昇任した。臨床面、研究面では膿胸の外科療法や胸線の外科療法の研究が多かったが、59年からは肺移植の研究を精力的に行ない、一段と幅が広がった。教室のデータのOA化にも力を入れ、実行力、行動力に長けている。ボート部出身で面交がよい。

(文責 人見滋樹)

#### 胸部外科 田村康一講師

昭和46年京都大学医学部卒業、国立療養所宇多野病院で肺外科を、静岡市立静岡病院で心臓血管外科を修め、56年1月胸部外科助手に就任し、62年1月1日付けで講師に昇任した。病棟医長を務め、医局の臨床面をリードしている。臨床面では気管気管支形成術や血管形成術に興味をもち、研究面では人工臓器、特に人工血管の開発を中心に研鑽を積んでいる。バレー部の私の後輩で、一緒に練習をしたこともあるがタフである。臨床面、研究面での一層の活躍を期待している。

(文責 人見滋樹)

#### 胸部外科 千原幸司助手

昭和53年京都大学医学部を卒業し、静岡市立静岡病院で心臓血管外科を、健保滋賀病院で呼吸器科の修練を積んできた。大学院では、胸部外科から見た呼吸運動、殊に横隔膜廓運動に関する研究を行ない、自発呼吸に同期する携帯用陰圧式人工呼吸器を開発した。これは、既に臨床応用の段階となっており、今後の成果が期待され

る。62年4月1日付けで助手に就任した。学生時代にラグビー部で鍛えた健康な身体に恵まれ、エネルギーを満載した機関車的存在である。  
(文責 人見滋樹)

### 胸部外科 岡田 賢二 助手

昭和54年3月に京都大学医学部を卒業し、静岡市立静岡病院で心臓血管外科を、関西電力病院で呼吸器科を、国療岐阜病院で肺外科と心臓外科を修めて、62年3月1日に助手に就任した。病理形態学に興味を持ち、研究テーマとしては肺癌、胸線を取り上げている。殊に、そのDNAパターンの解析を行なっている。旺盛な研究心が、大学という研究の場で発揮されることを、大いに期待している。後輩への指導性も豊かである。

(文責 人見滋樹)

### 臨床肺生理学部門 大井 元晴 助教授

昭和48年京大医学部を卒業し、直ちに当研究所の臨床肺生理学部門に入局、昭和49年より京都私立病院呼吸器科、及び国立療養所東京病院において呼吸器内科の臨床に従事したが、その間に呼吸不全を研究課題として選り臨床的研究を行ってその成果を大学に於ける研究と併せて昭和53年にCHESTに論文として発表している(Doxapram hydrochloride in the treatment of acute exacerbation of chronic respiratory failure. Chest 74: 453, 1978)。

その後、昭和55年12月16日当研究所助手に採用され、59年5月1日には講師に任命されて、当研究所附属病院において臨床に従事すると共に呼吸調節機能の研究に没頭し、特に睡眠時無呼吸症候群の研究においては学会の指導的立場にあることは周知の通りである。

その温厚な人柄は誰からも親しまれており、深い臨床的な知識を基礎として教室員の信頼を集めている。今後の教室のまとめ役としての活躍と共に、同君の研究の更なる飛躍発展により不明な部分の多い呼吸調節のメカニズムが解明されることを期待している。

### 理学呼吸器科 三嶋 理晃 講師

昭和52年京大医学部を卒業し、直ちに当研究所の臨床肺生理学部門に研修医として入局、53年10月1日から61年6月15日迄、兵庫県塚口病院の呼吸器科に勤務し、58年4月1日呼吸器科副部長に、60年4月1日には呼吸器科医長に任じられている。此の間、呼吸器科医として胸部外科及び呼吸器内科の臨床に従事し、胸部外科医として、又呼吸器内科医として十分な経験を積んでいる。61年6月15日付きで本研究所の理学呼吸器科の講師に任命された。

非常にエネルギーで且つ研究熱心であり、塚口病院で忙しい臨床に従事するかたわら、当時導入されたばかりのミニコンピュータのプログラミングを勉強研究して、新しいRIによる肺血流分布測定法や、換気力学検査法を開発して、昭和61年3月には京都大学医学博士の学位を授与されている。

活力にあふれたエネルギーと、誠実で暖かい人柄は、卓越した数学的才能と共に教室に新風を吹き込んで独創的な研究を展開してくれるものと期待している。

---

学術集会記録

---

## 昭和61年度 京大胸部研学術講演会抄録

## 高電圧パルスによる遺伝子導入と細胞融合

細菌血清学部門 平 芳 一 法

細胞融合法と遺伝子導入法は、現在の生命科学のあらゆる分野に於て、不可欠の技術となっている。

純化した DNA を外部より細胞に導入する方法は、DNA・リン酸カルシウム法など多数開発されてきた。しかし、いずれの方法も一長一短であり、特に浮遊細胞に適用できる方法が少なかった。ここに紹介する“高電圧パルスによる遺伝子導入法”は、浮遊細胞に対しても手軽に、しかも高頻度で遺伝子が導入できるという利点を備えている。

本法は、高電圧パルスによる膜離断に基づく細胞膜穿孔（電気穿孔, Electroporation）を原理としている。1～100  $\mu\text{sec}$  オーダーの短い高電圧パルスを与えると、形質膜に著しい透過性の亢進がみられる。これは、細胞膜の一部で臨界電圧（約1 V）を越えた膜電位差が発生し、その部位で静電的な膜圧縮が弾性力バランスを凌駕し、膜離断が起こり、穿孔することに原因する。

その孔の大きさは nm オーダーであり、パルス条件が過大でなければ、その孔は比較的短い時間（msec～min オーダー）で再シール、修復される。細胞融合は密着した隣接細胞間でこの修復を起こすことにより可能となる。

その孔の数と大きさは、印加電圧の大きさとパルス幅の両方に依存する。従って、適当な条件下では電気穿孔は可逆的であり、それによる透過亢進の程度と持続時間はコントロールすることができる。

本法の特長を最大限に引き出すため、従来使われてきたコンデンサー放電方式とパルストランス方式を組み合わせ、新しい装置を開発した。この装置を用い、 $2.5 \times 10^6$  cells/250  $\mu\text{l}$ , 10  $\mu\text{g}$  DNA/250  $\mu\text{l}$  という条件で、細胞に浮遊細胞であるマウスミエローマ細胞, J558L, 遺伝子に pSVV $\mu\text{l}$ （全長 20 kb の大きな遺伝子）を用いて、電気的な条件の定量実験を行った。付加する電圧、パルス幅の増大に伴いある範囲で導入効率も増加するが、この組み合わせでの optimal point である 3 KV, 150  $\mu\text{sec}$  という条件で、約  $2 \times 10^{-4}$  と高い効率で導入することができた。この効率は、現在まで浮遊細胞に対して最も有効とされてきたプロトプラスト融合法と同程度のものである。また、導入した遺伝子が安定に保持されているか否かについては、pSVV $\mu\text{l}$  が J558L 内で NP(4-hydroxyl-3-nitrophenacetyl) に specific な抗体を産生することを利用して、radioimmuno assay により検討した。その結果、導入した遺伝子が functional な遺伝子として、細胞内に維持されていることを確認した。

以上から、我々が開発した装置を用いた遺伝子導入法は、1. プロトプラスト融合法のような複雑な操作を必要としない、2. 導入効率が長大な遺伝子に於ても非常によい、3. 再現性よくかつ定量的である、等非常に有用であると考ええる。

なお、細胞融合に関しては定量的な実験が完了していないが、融合の困難な細胞に対してかなり有用なようである。

## 老化アミロイドーシス病態解明にむけて—老化促進モデルマウス（SAM）を用いた生化学的及び分子遺伝学的アプローチ

病理学部門 米 津 智 徳

アミロイドーシスは“a family of disease”であると考えられており、この family の中で老化アミロイドーシスは、年齢との関係が深く加齢に伴ってその沈着頻度が増し、続発性・AL・FAP などの他の全身性アミロイドーシスの原因になるような基礎疾患が見いだせないアミロイドーシスの総称である。



老化アミロイドーシスはヒトにおいても高齢者には一般的な病態であり、その好発臓器は、心・脾・精嚢・大動脈であるとされている。現在のところヒト老化アミロイドーシスのメカニズムは解明されておらず、この病態解明のためには実験動物における老化アミロイドーシスの詳細な研究の進展が重要であると思われる。我々が10数年の歳月をかけて、ようやく開発に成功した老化促進モデルマウス (SAM: Senescence Accelerated Mouse) に見られるアミロイド症は加齢に伴ってその頻度を増し、しかもほとんど全身に沈着する、いわゆる “age-associated systemic amyloidosis” であり、ヒトに見られる老化アミロイドーシスとの関連が示唆されている。SAM は促進老化を示す SAM-P(senescence prone: P/1, P/2, P/3, P/4, P/6, P/7, P/8) とこれに対し正常老化を示す SAM-R(senescence resistant: R/1, R/2, R/3) の2系統より成り、SAM-P/1, P/2, P/3 においては老化アミロイド症が早期にしかも重篤に発症する。このアミロイド沈着は骨髄と脳実質を除きすべての臓器に認められた。

SAM の肝臓より精製されたアミロイド蛋白は非常にユニークでその沈着が加齢に密接していることから AS<sub>SAM</sub> (senile amyloid in SAM) と名付けた。マウス血清中には AS<sub>SAM</sub> と共通抗原性を持った生理的物質 (SAS<sub>SAM</sub>) が存在することが確認され、AS<sub>SAM</sub> の前駆物質と考えられる血清蛋白を apo SAS<sub>SAM</sub> と呼んだ。AS<sub>SAM</sub> 及び apo SAS<sub>SAM</sub> について生化学的・分子遺伝学的検索を行ったところ以下のことが明確になった。1) AS<sub>SAM</sub> はN末端がピログルタミル基でブロックされており78個のアミノ酸よりなる分子量約8,700の一本鎖の単純タンパク質でいままでに報告されているすべてのアミロイドタンパク質と異なること。2) apo SAS<sub>SAM</sub> は、HDL の主要構成蛋白である apo A-II に相当すること。3) マウス老化アミロイドーシスは、血中の apo A-II が何ら酵素的分解を受けずアミロイド線維として組織に沈着してくる病態であること。4) SAM-P における重篤なアミロイド沈着の原因の一つとして、これらマウスにおける apo A-II の5番目のアミノ酸置換 [Pro(CCA)→Gln(CAG)], が示唆されたこと。

今後は、環境条件のアミロイド沈着に及ぼす影響についても検索を進めたいと思っている。

## マウス細胞マクロファージの活性酸素生成に関する検討

内科第一部門 村山 尚子

最近肺胞マクロファージが、呼吸器領域の防御に重要な役割を果していることが明らかにされつつある。そこで我々は、マウス肺胞マクロファージを用いて、殺微生物活性等に重要な活性酸素生成を中心に検討した。また、これまで詳細に検討がなされている腹腔マクロファージとの比較検討も行った。マウスは、specific pathogen free の ICR マウス、雌、6-8週齢を使用した。BCG 尾静脈静注は、6週齢で行い、その3-4週後に使用した。肺胞マクロファージ (AM) は気管気管支肺胞洗浄により、腹腔マクロファージ (PM) は腹腔洗浄により採取した。活性酸素のうち、最初に生成される superoxide anion を、cytochrome C 法により測定した。培養後、付着細胞の95%以上は、Non-specific esterase 染色陽性であり、Trypan blue で検討した viability は、95%以上を示した。Zymosan 刺激による AM の O<sub>2</sub><sup>-</sup> 放出量は、正常群においても有意の放出を認め、BCG 静注群では、更に増強が見られた。PM でも同様に、O<sub>2</sub><sup>-</sup> の放出は高値を示した。IgG 抗体で coat したヒツジ赤血球 (EIgG) を加え、O<sub>2</sub><sup>-</sup> の放出を検討した場合、BCG 静注群では、AM, PM 共に、O<sub>2</sub><sup>-</sup> 放出量が亢進していた。Phorbolmyristate acetate で刺激した場合、PM の O<sub>2</sub><sup>-</sup> 放出量は、BCG 静注群で著明な亢進がみられたが、AM を PMA で刺激した場合、正常群、BCG 静注群の O<sub>2</sub><sup>-</sup> 放出量は、いずれも低値を示した。BCG 静注 AM と PMA との反応時間を、15分より120分まで変え検討しても、O<sub>2</sub><sup>-</sup> の放出量は低値のままであった。また scopoletin 法による H<sub>2</sub>O<sub>2</sub> の測定でも、O<sub>2</sub><sup>-</sup> の測定結果に compatible な所見が見られた。このことは、マウス AM に於て、PMA receptor 活性が低い、PMA と Zymosan 等では、receptor から O<sub>2</sub><sup>-</sup> generating system の間の signal transduction system 活性が異なる等の可能性が考えられる。好中球等における検討で、PMA は protein kinase C の activator とされ、また、Diacylglycerol も、C kinase を活性化することが知られている。そこで Dioctanoyl glycerol を用いて、O<sub>2</sub><sup>-</sup> の放出を検討した。BCG 静注群の PM では、有意の O<sub>2</sub><sup>-</sup> 放出がみられたが、AM では、正常群、BCG 静注群共に O<sub>2</sub><sup>-</sup> の放出は低値であった。これらの所見は、膜表面から活性酸素生成に至るまでに、複数の pathway が存在する可能性を強く示唆するものと考えられ、今後 signal transduction system を中心に検討を重ねたいと

考えている。生体内における肺胞マクロファージの役割を考える場合、直接外界に触れる肺胞マクロファージが、あらゆる刺激に対し反応するのではなく、むしろ選択的に反応することは、活性酸素が組織傷害の面からも重要視されており、マクロファージの環境に対する適応、或は成熟という点で興味深いと考えられる。

## 慢性閉塞性肺疾患における気道感染の研究

内科第二部門 平 田 健 雄

一般に気道閉塞と気道感染の両者は悪循環を形成し、びまん性汎細気管支炎 (DPB) においてはこの関係は顕著であり、気道感染の抑制が気道閉塞軽減の唯一の方法である。しかしながら、DPB などの慢性気道感染症の治療成績は相次ぐ強力な化学療法剤の開発にもかかわらず決して満足の行くべきものではなく、近代呼吸器病学に残された重要な課題の一つとなりつつある。従来よりインフルエンザ菌の気道への親和性はよく知られた事実であり、DBP を含む副鼻腔気管支炎症候群においても未治療例に必ず検出され気道病変の成立に関与していることが予想されているが気道局所の感染の様態については合理的治療を確立し得る程の知見が集積されていないのが現状である。一般に細菌は生息環境に適応した代謝パターンを持ち、病原性も代謝パターンの反映であることから、DPB の病巣細気管支局所の感染の様態を明らかにする目的で DPB 患者由来のインフルエンザ菌の生物型を Kilian らの方法に準じて行った。その結果、DPB においてはインドル産生株の比率が80% (8/10) と肺炎種 (38%; 5/13) や急性肺炎 (30%; 3/10) に比較し高かった。又、インフルエンザ菌のインドル産生能は好気条件下では抑制され嫌気下で誘導されることも明らかとなり、これらの二つの事実は DPB の病変気道局所が嫌气的であることを示唆するものと考えられた。次に、嫌気条件という菌の生息環境が治療様式に与える影響を評価する目的で化学療法剤の抗菌力を嫌気・好気両条件で比較したところ、アミノ酸糖体系薬剤の抗菌力が嫌気下で低下するのに対して、テトラサイクリン系、マクロライド系薬剤の抗菌力は著明に増大することが明らかとなり、これらの薬剤が内服投与にかかわらず DPB にある程度有効であることの説明となるのではないかと考えられた。一方、DPB において寒冷凝集素価の上昇、エリスロマイシンの有効性などの所見より細菌感染に重複してマイコプラズマ感染症があるのではないかと考え、DPB 患者の喀痰よりマイコプラズマの検出を試みたところ DPB を含む副鼻腔気管支炎患者の64% (16/25) に検出され、その菌量は  $4.2 \pm 9.5 \times 10^4/\text{ml}$  であった。同定の結果では、5 例中4例が *M. fermentus* で従来報告にない種類であった。現時点ではマイコプラズマ感染の意義は不明であるが、気道クリアランスの低下、アレルギー反応の促進などを介してより強毒な細菌感染の基盤を形成する可能性も考えられた。このように慢性気道感染の様態は複雑であり合理的治療方針の確立のためには病変局所の病原体の種類、それらの相互干渉、生息環境と代謝パターン・生体の反応などの各要素についての正確な情報収集が必要であり、急性感染症とは異なる論理の導入が必要ではないかと考えられた。

## 肺移植—その臨床応用の可能性

胸部外科学部門 和 田 洋 己

1986年現在まで42例の肺移植臨床例が報告されている。1963年 Hardy, J. D. らによる最初の報告以来10年間に38例が行なわれたが全例とも技術的、免疫学的問題で死亡している。1983年カナダトロントグループが社会復帰が可能であった4例の一側肺移植症例を報告し再び肺移植が臨床的に注目を浴びるようになった。彼らの成功は新しい免疫抑制剤サイクロスポリンの使用と気管支吻合部のオメントペキシーによるものである。

我々が肺移植実験を犬で開始したのは1984年である。手術手技上の問題を解決するため1年半を要した。手技上の問題を除いても肺移植の臨床応用にはいくつかの解決すべきことがある。実験結果にもとづいて以下に問題点をあげる。

1) 温阻血時間 (WIT: warm ischemic time): 一側肺移植を行なうのに必要な時間は60-90分である。この間移植肺は虚脱状態で  $37^{\circ}\text{C}$  の環境におかれる。この状態を温阻血と呼ぶ。我々は肺がどれ位の WIT に耐えうるかを自家肺移植実験で検討した。WIT はヘパリン投与に関係なく2時間が限度であった。文献的にも WIT の限界

は含気肺で4時間であった。

2) 気管支吻合部の治癒状態の評価：吻合部離解は最も致死的な合併症である。拒絶反応を除いて評価するために気管支形成術の実験を行なった。気管・気管支の広汎剥離を行なった群では吻合部離解や高度狭窄が認められたが、オメントペキシーによる被覆を行ない血流の改善をはかるとそれらの所見はみられず良好な治癒状態を示した。プレドニゾン2 mg/kg/dayの4週間投与は治癒状態に影響を与えなかった。気管支粘膜血流をLaser Doppler Velocimetry (LDV) にて測定したが、LDVの値は治癒状態と良好な相関を示した。引き続き現在同種移植実験を行ない免疫抑制剤の効果を検討している。

3) 肺の長時間保存：長距離の輸送、キャダバーの早期返還、レシピエントドナーのマッチングなどからみて、肺移植を円滑に行なうにはビートングハートドナーからの直接移植より取り出しての長時間保存移植の方が有利である。我々はEuro Collins'液を用いて長時間4°C下に保存した肺の同種移植実験を行なっている。現在までに20時間保存に成功しているがより長時間保存が可能になるように努力している。

4) おわりに：サイクロスポリンが開発使用されだして移植の臨床は一変した。肺移植の分野ではドナーレシピエントの組織適合性のマッチングは血液A B O型のみで行なわれており、社会復帰可能な症例がひき続き出来てきている。今後乗り越えるべき問題点は多くあるが、日本においては社会的合意、医療システムの整備など社会的条件の解決が急務である。

## 睡眠時呼吸異常の治療

京都大学結核胸部疾患研究所 臨床肺生理学部門 平井正志

近年、ピックウィック症候群などの睡眠異常の研究により、睡眠時呼吸が停止する睡眠時無呼吸症候群の存在が明らかとなり、また非侵襲的モニターの発達、特にear oximeterによる動脈血酸素飽和度(SaO<sub>2</sub>)の連続測定が可能となったことにより、睡眠時無呼吸に伴う高度のSaO<sub>2</sub>の低下が明らかとなった。このSaO<sub>2</sub>の低下は、肺性心の増悪因子や夜間の突然死の原因と考えられ、睡眠時無呼吸に対する治療の必要性が認識されてきている。

無呼吸とは、口と鼻の気流の10秒以上の停止であり、閉塞型、混合型、中枢型の3つの型がある。一方、慢性閉塞性肺疾患(COPD)などの呼吸器疾患では、無呼吸の他に、REM(Rapid Eye Movement)睡眠時口や鼻の気流は認めるが、持続の長いSaO<sub>2</sub>の低下を認める低呼吸型が存在すると報告されている。今回、睡眠時無呼吸に対する治療を、一般的に認められる閉塞性無呼吸と、無呼吸と関連してREM睡眠時に認められる低呼吸型の二つの睡眠時呼吸異常に対する治療を主に解説する。

1) 閉塞性無呼吸は、胸部と腹部の動きは存在するが、口および鼻の気流が停止する無呼吸で、原因としては、第一に扁桃肥大やアデノイドの過形成などの上気道の物理的な狭窄、第二に咽頭周囲筋群の睡眠による筋緊張の低下のため、吸気時の陰圧による上気道の閉塞がある。二番目の症例としては肥満の例が多く、激しいいびきや昼間の睡眠を訴える。

治療法としては、軽症や中等症では呼吸刺激剤や酸素投与が、重症では気管切開や鼻CPAPが適応となると思われ、以下に結果を述べる。まず、呼吸刺激剤としては、AcetazolamideやMedroxyprogesteroneなどが使用されているが、我々の結果では有効な例もあり軽症例ではまず試みるべき治療法と思われる。酸素投与は、SaO<sub>2</sub>の低下に対しては、一番確実な治療法で、手術や機械を必要としない最も一般的に行なえる治療法であるが、閉塞性無呼吸の無呼吸時には気流が停止しているため、酸素投与が間欠的となるので、SaO<sub>2</sub>の改善に限界がある。Smithらの報告にあるように、酸素投与でApnea indexの減少を認め、酸素投与の血流ガス改善以外に無呼吸自体に対する有効性の報告が有り、我々も同様の結果を得た。重症例に対しては気管切開や、鼻CPAPが行なわれるが、まず、気管切開は、最も一般的に行なわれている外科的治療法であり、狭窄部位である上気道のバイパスを目的としており、SaO<sub>2</sub>の低下を防止し、いびき等も消失する直接的な治療法であるが、一方、問題点としてつぎの事が挙げられる。まず、肥満例では短頸や頸部の脂肪沈着のため気管切開自体が困難であったり、術後の気管切開部の管理の問題としての、感染や、感染による咳などである。また、切開口の外見上の問題で拒否する例があることなども挙げられる。一方、鼻CPAPは、気管切開で上気道の狭窄部を直接バイパスする代わり

に、機械的にコンプレッサーで鼻を通して Continuous Positive Airway Pressure (CPAP) を、上気道と肺に圧をかけることにより、上気道の狭窄を防止し、閉塞型無呼吸を防ぐ方法であり、気管切開による合併症の心配もなく、有効な例では  $\text{SaO}_2$  の低下の改善、REM 睡眠増加による睡眠の質の改善を期待でき、我々も6例で行ない有意な改善を認めており、気管切開を行なう前に一度は試みるべき方法と思われる。

2) 低呼吸型の睡眠時呼吸異常は、無呼吸と異なり、口と鼻の気流は認めるが、持続の長い  $\text{SaO}_2$  の低下を REM 睡眠時に認める型で、換気量低下が主な原因で起こる  $\text{SaO}_2$  の低下と考えられている。気流は存在するので、酸素投与が一番確実な治療法であるが、呼吸器疾患に多く認められるので、高炭酸ガス血症をとまなう例では、睡眠時の  $\text{CO}_2$  ナルコーシスの危険から、酸素投与量が制限される。

## 教授就任講演：Transformation-sensitive heat-shock protein

細胞化学 永田和宏

種々のストレスに対して、生体は細胞レベルで、その防御機構を備えている。ストレスには、熱や、毒素などの重金属、sulfhydryl reagents, アミノ酸アナログや、カルシウムイオノフォアなどがある。これらのストレスにさらされた時、細胞は比較的少数の一群の蛋白質をすみやかに合成する。動物細胞の場合、このような熱ショック蛋白質（広義にはストレス蛋白質）は、主に3種類（hsp90, hsp 70 および hsp 25）が報告されている。我々は、このような従来報告されている熱ショック蛋白質のほかに、新しい熱ショック蛋白質を発見した。分子量47,000のこの蛋白質は、コラーゲンに結合し、小胞体（endoplasmic reticulum）に局在しており、プロセッシングあるいは輸送などとの関与の可能性が考えられる。しかも、この蛋白質は、細胞の transformation によっても制御を受けていることがわかり、制御機構および機能の両面において興味深い蛋白質である。

1. hsp 47 の同定：ニワトリ胎児繊維芽細胞（CEF）を  $37^\circ\text{C}$ ,  $42^\circ\text{C}$  および  $45^\circ\text{C}$  に、1～4時間保温したのち、 $^{35}\text{S}$ -メチオニンでラベルする。NP-40可溶性画分を遠心によって集め、ゼラチン-セファロースにかけ、洗浄後、ゼラチン結合蛋白質を溶出する。SDS-PAGE によって分析すると、フィブロネクチンのほかに分子量47,000のバンドが、ゼラチンに結合することがわかった。ゼラチンだけでなく、I型コラーゲンにも同様に結合した。この47,000 Daの蛋白質は、細胞の熱処理によって合成が顕著に誘導され、熱ショック蛋白質（hsp 47）であることがわかった。NEPHGE (non-equilibrium pH gradient electrophoresis) を用いた2次元電気泳動にかけると、このコラーゲン結合蛋白質は、等電点の極めて高い ( $\text{pI}=9.0$ ) スポットに対応していることが明らかとなった。

hsp 47 のスポットは、熱処理によって4-5倍に増加していた。またその増加は一過性であり、 $42^\circ\text{C}$  で処理した場合、ほぼ5時間で最大に達し、以後徐々に減少した。

2. hsp 47 の結合特性：hsp 47 は、I型コラーゲンに結合するだけでなく、IV型コラーゲンにも結合すると報告されている。ゼラチンへの結合性は高く、高塩濃度のバッファーで洗っても、hsp 47 は溶出されなかったが、一方バッファーの pH を6.3に落とすことにより、特異的に溶出することができ、未変性の蛋白質を容易に得ることができる。

3. hsp 47 の characterization：hsp 47 は、mannose を多量に含む糖蛋白質であり、ツニカマイシンで処理することにより分子量は41,000 Daに減少する。未変性の hsp 47 の、ゲル濾過法による分子量も、SDS-PAGE によるものとはほぼ同じであり、hsp 47 は内部に s-s 結合をもたない分子として単量体の状態で存在していると考えられる。アミノ酸分析の結果、hsp 47 はグリシンを多く含み、また塩基性のアミノ酸に富んでいることも判明した。また、hsp 47 は、リン酸化した蛋白質であることが、放射性の無機リンを取り込むことから、あきらかとなった。

4. in vitro translation/processing: CEF を、 $37^\circ\text{C}$ ,  $42^\circ\text{C}$  および  $45^\circ\text{C}$  で4時間処理したのち、mRNA を分離精製し、reticulocyte lysate 系を用いて、in vitro で翻訳させ、ゼラチン-セファロースで hsp 47 およびその前駆体を精製する。in vitro の翻訳産物は、分子量が約42,000 Daであった。ミクロソーム膜画分を加えて、前駆体の processing を行くと、分子量が41,000 Daになり、ツニカマイシンで処理した場合と一致した。これは、

hsp 47 の前駆体が signal peptide をもつ蛋白質であることを示唆している。熱ショックによる誘導が、このような in vitro の翻訳系でも同様にみられることから、hsp 47 の誘導は、他の熱ショック蛋白質と同じように、mRNA の転写の段階で制御されていることが示唆された。

5. 局在性：未変性の hsp 47 を家兎に接種することにより、抗体を得た。affinity-purify したのち、CEF を間接蛍光抗体法により染めると hsp 47 は小胞体 (endoplasmic reticulum) を特異的に染めることがわかった。hsp 47 が、小胞体に局在するという結果は、この蛋白質の前駆体が signal peptide をもつ事実ともよく符合する。

6. transformation-sensitivity：CEF をラウス肉腫ウイルスによって transform し、正常細胞と形質転換細胞のそれぞれについて、hsp 47 の合成量を比較した。転換細胞における hsp 47 の合成量は、正常細胞のそれに較べて半分以下に低下していた。一方、hsp 47 の磷酸化の程度は、転換細胞の方が約 7 倍も高くなっていることがわかった。

この蛋白質の本来の機能はまだあきらかではないが、分泌蛋白質に結合すること、および小胞体中存在することから、蛋白質のプロセッシングあるいは分泌蛋白質のキャリア蛋白質として機能している可能性が考えられる。あるいは、この蛋白質が熱によって誘導されることから、熱によって変性を受けた蛋白質の分解に関した機能、また他の熱のショック蛋白質について言われている様に変性した蛋白質に結合してそれらの aggregation を抑えるような機能が考えられるかもしれない。熱ショックによってその分布がどのように変わるかについては、まだ調べられていない。この蛋白質とコラーゲンとの結合が、比較的温和な pH 6.3 付近で制御されていることは、この結合が生理的に意味のあるものであることを示唆している。今後この熱ショック蛋白質の機能について、更に詳しく調べてゆきたい。

## 招請講演「非定型抗酸菌症について」

名古屋市立大学・第2内科 山本正彦

近年、非定型抗酸菌症は、結核の減少に従って結核に対する比率が増加し、結核病院の入院患者の 5～6%、施設によっては10%以上は本症となっている。また本菌は、気管支拡張症、びまん性汎細気管支炎など慢性気道感染症や肺気腫のプラに二次感染することが多く、本症は一般呼吸器内科での重要な疾患となっている。本菌はまたエイズの重要な感染菌として注目されている。

我国では *M. avium*-complex が依然重要であるが、最近 *M. kansasii* が全症例の20%を超えるようになり、日本各地で観察されるようになった。また *M. szulgai*, *M. nonchromogenicum*, *M. fortuitum*, *M. Chelonae* など各種の菌種による症例が報告されるようになり、本症の多様化現象が観察されている。

本菌の起源は自然界に求められ、土壌、水、塵埃からの感染が最も考えられる。気管支の排泄機構が減退した場合、菌が気管支に停滞し、時には肺に invasive な態度をとると考えられている。

非定型抗酸菌の同定には最近同定セットが利用されることが多いが、この場合はセットに指示されているすべての形質を満足する場合にのみ結果を信用し、一部の結果が異なる場合や我が国では極めて珍しいか報告されたことのない菌種との結果が出たら、結論を保留し、専門施設に再同定を依頼したほうが良い。非定型抗酸菌症には、各種の診断基準があるが、最近比較的緩やかな国立療養所非定型抗酸菌症共同研究班の基準が利用されることが多い。これは先行肺疾患のない一次感染型と、肺に先行する異常があり、そこに非定型抗酸菌症が感染したと思われる二次感染型にわけて取扱っている。

*M. avium* complex 症の治療は一般に困難であるが、ストレプトマイシン、カナマイシン、エンビオマイシンのうち1剤の注射とエタンブトール、リファンピシン、ヒドラジッド、エチオナミド、サイクロセリン、ピラジナミドのうち、2ないし3剤の内服を組合せた、3ないし4剤併用療法が推薦されており、初回治療の一次感染型では、60%以上の菌陰性化がえられている。二次感染型では菌陰性化率は低いが、菌量が減少したら有効と考え1年間は治療を続ける。排菌が続く場合、肺機能が許せば、時期を失わずに、肺切除を行なうべきである。隔離のみのための入院は必要ないが、進展例の予後は必ずしも良好ではなく、出来れば入院治療が望ましい。

*M. kansasii* 症、*M. szulgai* 症、*M. nonchromogenicum* 症はリファンピシン、エタンブトールにカナマイシンま

たはエチオナミドを加えた治療が有効である。

*M. fortuitum* 症や *M. chelonae* 症には有効な薬剤が少なく、治療は困難であるが、*M. fortuitum* 症にはオフロキサシンが有効なことがあり試みるべきである。

非定型抗酸菌症には、肺疾患以外に頸部リンパ節炎、皮下膿瘍、全身播種型、骨・関節疾患などの肺外疾患があり、極めて多彩な病態を示すので、これらを十分に理解し対処することが必要である。

## 胸部研特別ゼミナール

131回 61年10月2日 Induction of Macrophage Growth by Lipids (帝京大, 薬) 山崎 正利

132回 62年2月6日 B細胞の分化増殖と腸内常在菌との相互関係(熊本大, 医) 浴野 成生

133回 62年3月27日 マウス骨髄性白血病細胞の分化誘導因子(埼玉県がんセンター) 富田 幹夫

### Seminar

to

Welcome Prof. George M. Martin

on

Senescence Accelerated Mouse (SAM)

1. Opening Remarks Prof. T. Takeda, M. D.,
  2. Introduction; Development of several new strains in SAM. (5 min.)  
Masanori Hosokawa, M. D., Mafumi Kurozumi, C. T.
  3. Senile osteoporosis in SAM, (15 min.)  
Tadao Tsuboyama, M. D., Wen-Hsi Chen, D. D.,  
Katsuji Shimizu, M. D.,
  4. Biochemical and Molecular-genetic studies on SAM amyloidosis, (15 min.)  
Tomonori Yonezu, B. Agr., Atsushi Utani, M. D.,
  5. HDL metabolism in SAM with special reference to the relationship between apo-A-II clearance and ASSAM deposition, (15 min.)  
Hironobu Naiki, M. D. Keigo Hanada, M. VM.
  6. Age-related deterioration in learning and memory and spongiform degeneration of the brain stem in SAM-P/8, (15 min.)  
Hideo Yagi, Ph. D. Makiko Umezawa, M. DS.  
Seigo Tanaka, M. D.
  7. Morphological changes in the central nervous system in SAM, (15 min.)  
Haruhiko Akiyama, M. D. Toshio Kawamata, M. D.  
Ichiro Akiguchi, M. D.
  8. Special Comments Prof. G. M. Martin, M. D.
- Discussion
9. Closing Remarks

At 3:30 P. M., October 21, 1986

The Conference Room of Chest Disease Research  
Institute, Kyoto University

---

 業 績 目 録
 

---

## 内 科 学 第 一 部 門

## 〔学 会 発 表〕

## 1. 結核・非定型抗酸菌症

桜井信男, 田中栄作, 村山尚子, 山本孝吉, 網谷良一, 久世文幸: 実験マウス結核症を対象とした肺洗滌細胞の動態, 第61回日本結核病学会総会 (1986. 4. 10. 福岡).

望月吉郎, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 田中善夫, 藤本憲弘, 南部静洋: 剖検例を中心とした随伴感染症としての肺結核症の臨床的検討, 同上 (1986. 4. 10. 福岡).

倉沢卓也, 新実彰男, 加藤元一, 岡崎美樹, 久保嘉朗, 鈴木克洋, 桜井信男, 李 啓充, 田中栄作, 村山尚子, 網谷良一, 山本孝吉, 川合 満, 久世文幸: 初回治療患者の胸部 XP 所見の検討, 同上 (1986. 4. 10. 福岡).

岡崎美樹, 倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸: 中葉舌区領域を主病変とする肺結核9例の臨床的検討, 同上 (1986. 4. 10. 福岡).

久世文幸: シンポジウム 1 結核の医学教育はいかにあるべきか, 第2部 現場からの提言——大学から——, 第61回日本結核病学会 (1986. 4. 11. 福岡).

桜井信男, 戸川真一, 久世文幸: *M. avium-intracellulare* マウス感染モデルの検討——ページマウスについて——, 第34回日本化学療法学会総会 (1986. 6. 6. 倉敷).

倉沢卓也, 石田 直, 久世文幸, 水野 浩, 安部隆二: 金属工に発症した *M. Kansasii* の1症例, 第57回日本結核病学会・第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 6. 28. 大阪).

倉沢卓也, 岡崎美樹, 加藤元一, 久世文幸, 池 修, 田村康一: 繰り返す肺炎に続発した *M. intracellulare* 症の1例, 同上 (1986. 6. 28. 大阪).

倉沢卓也, 久世文幸: 気管支結核症の気管支鏡所見 (シンポジウムⅢ 気管支所見のとらえ方をめぐって), 第9回日本気管支学会総会 (1986. 7. 16. 京都).

河北誠三郎, 藤村直樹, 白川太郎, 梅宮正志, 川添隆司, 田中 茂, 加藤幹夫, 日置辰一郎: 血性心嚢液で心タンポナーデを呈した結核性心膜炎の1例, 第58回日本結核病学会・第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

藤村直樹, 田中 茂, 川添隆司, 白川太郎, 梅宮正志, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 後藤研三, 吉岡卓治, 小林正直, 千福貞治: びまん性肺散布影を伴った結核性腹膜炎の1症例, 第58回日本結核病学会, 第28回日本胸疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

## 2. 腫 瘍

Sawahata, T., Tanaka, K., Iro, T.: Mutagenicity of benzidine and its congeners: a biochemical and quantum mechanism approach, Toxicity Mechanism Symposium, (July, 18, 1986, Tokyo).

沢幡 正, 沢野聡子, 田中健一: イオン交換繊維を用いたタバコタール変異原性成分の分離, 第15回日本環境変異原学会 (1986. 10. 2. 東京).

Kaechoong Lee and Fumiyuki Kuze: Evaluation of the Combination Chemotherapy Including Cis-platinum by the Checker Board Analysis——第24回日本癌治療学会総会 (1986. 10. 8. 松江).

岩崎博信, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 梅田文一, 中井 準: 高令者肺癌の予後因子に関する検討, 第44回日本肺癌学会関西支部会 (1986. 2. 8. 大阪).

片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 肺癌症例における Cisplatin を用いた BAI と Radiation との併用, 第44回日本肺癌学会関西支部会 (1986. 2. 8. 大阪).

坂本廣子, 片上信之, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 本院における肺小細胞癌に対する CONP-CONP 療法と CONP-VAD 療法の治療成績, 第44回日本肺癌学会関西支部会 (1986. 2. 8. 大阪).

片上信之, 長谷川 幹, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: エコーガイド下心嚢ドレナージ法による肺癌に合併した癌性心嚢炎の治療, 第26回, 日本胸部疾患学会総会 (1986. 4. 8. 福岡).

長谷川 幹, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: エコーガイド下経皮針生検による縦隔腫瘍の術前診断, 第26回日本胸部疾患学会総会 (1986. 4. 8. 福岡).

中原保治, 中原由紀子, 牛田伸一, 松山栄一, 桂 栄孝: 胸・腹水細胞診における脂肪染色, 第27回日本臨床細胞学会総会 (1986. 4. 25. 宇都宮).

岩井一宏, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 石原 隆: SIADH を呈した細胞癌の1例, 第57回日本結核病学会, 第27回日本胸部疾患学会近畿地方 (1986. 6. 28. 大阪).

郡 義明, 久保嘉朗, 南部静洋, 藤本憲弘, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄: 気管支鏡検査にて by chance に発見された endobronchial hamartoma の1症例, 第57回日本結核病学会, 第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 6. 28. 大阪).

倉沢卓也, 久保嘉朗, 久世文幸, 五十部 潤, 田村康一, 人見滋樹: 多発性気管支内軟骨腔の一治験例と本邦報告例の検討, 第9回日本気管支学会総会 (1986. 7. 16. 京都).

坂本廣子, 片上信之, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 本院で経験した肺良性腫瘍の臨床像について, 第45回日本肺癌学会関西支部会 (1986. 7. 26. 京都).

片上信之, 長谷川幹, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 進行肺癌における MAC 療法 (MMC, ADR, CDDP) と MVC 療法 (MMC, VDS, CDDP) の Phase II study, 第45回日本肺癌学会関西支部会 (1986. 7. 26. 京都).

岩崎博信, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 梅田文一, 中井 準: 非切除肺腺癌の予後因子に関する検討, 第45回日本肺癌学会関西支部会 (1986. 7. 26. 京都).

石田 直, 中原由紀子, 中原保治, 牛田伸一, 杉山栄一, 田村忠雄, 横見瀬裕保, 桂 栄孝: CYVADIC 療法によって著効を呈した縦隔腫瘍の1例, 第45回日本肺癌学会関西支部会 (1986. 7. 26. 京都).

望月吉郎, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 田口善夫, 藤本憲弘, 南部静洋, 久保嘉郎, 八田和大, 市島国雄, 小橋陽一郎: 肺癌治療後に生じ, 放射線肺臓炎と鑑別を要した PS 肺炎の一剖検例, 第45回日本肺癌学会関西支部会 (1986. 7. 26. 京都).

李 啓充, 久世文幸: Evaluation of the combination chemotherapy including Cis-platinum by the checker Bord Analysis, 第24回日本癌治療学会総会 (1986. 10. 8).

李 啓充, 久世文幸: 形質転換増殖因子ベータ (TGF  $\beta$ ) の A549 細胞増殖に及ぼす影響——, 第45回日本癌学会総会 (1986. 10. 23. 札幌).

片上信之・長谷川 幹, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 非小細胞肺癌に対する cisplatin を含む多剤併用療法の phase II study, 第27回肺癌学会総会〔ワークショップ 非小細胞癌の化学療法(Ⅲ)〕 (1986. 10. 30. 東京).

南部静洋, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 田口善夫, 藤本憲弘, 久保嘉郎, 牧田泰正: 癌性髄膜炎に対する Ommaya reservoir の使用検討, 同上 (1986. 10. 30. 東京).

長谷川 幹, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 当院での肺癌手術症例における術前病期分類の検討, 同上 (1986. 10. 30. 東京).

種田和清, 南部静洋, 藤本憲弘, 田口善夫, 郡 義明, 望月吉郎, 岩田猛郎, 小橋陽一郎, 市島国雄: 肺癌剖検例での剖検診断と臨床診断の対比検討, 同上 (1986. 10. 30. 東京).

李 啓充, 久世文幸, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹: 胸部悪性腫瘍における Human Tumor Clonogenic Assay (HTCA) 改良の試み, 同上, 〔ワークショップ 感受性テスト (in vitro & in vivo) (1)〕 (1986. 10. 30. 東京).

岩崎博信, 長谷川 幹, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 梅田文一, 中井 準: 高齢者肺癌の予後因子に関する検討, 同上 (1986. 10. 30. 東京).



李 啓充, 久世文幸, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹: 胸部悪性腫瘍における Human Tumor Clonogenic Assay (HTCA) 改良の試み——, 第27回日本肺癌学会総会 (1986. 10. 30. 東京).

中原保治, 中原由紀子, 牛田伸一, 石田 直, 松山栄一, 宮本好博, 横見瀬祐保, 桂 栄孝: 喀痰細胞診における脂肪染色併用の有用性, 第27回日本肺癌学会総会 (1986. 11. 東京).

李 啓充, 久世文幸: 胸・腹水中の形質転換増殖因子 (TGF) 活性及び TGF の腫瘍細胞増殖に及ぼす影響, 第27回日本肺癌学会総会 (1986. 10. 31. 東京).

岩崎博信, 長谷川 幹, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 梅田文一, 中井 準: 非切除肺腺癌の予後因子に関する検討, 同上 (1986. 10. 31. 東京).

川添隆司, 田中 茂, 梅宮正志, 白川太郎, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 鈴木康弘: Malignant schwannoma のびまん性肺転移と考えられた 1 症例, 第58回日本結核病学会, 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

久保嘉明, 日村好宏, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 田口善夫, 藤本憲弘, 南部静洋: 著明な発熱と全身性炎症反応を呈し, 放射線治療が著効を示した large cell carcinoma の 1 例, 第58回日本結核病学会, 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

郡 義明, 久保嘉明, 南部静洋, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 北野司久, 小橋陽一郎, 市島国雄: 気胸にて発症し, 予後良好な肺リンパ管筋腫症の 1 例, 第58回日本結核病学会, 第28回日本胸部疾患学会近畿地方 (1986. 11. 15. 大阪).

中原由紀子, 中原保治, 牛田伸一, 松山栄一, 桂 栄孝, 西園寺正士: 悪性線維性組織球腫の 2 例, ——肺原発及び縦隔転移例, 第25回日本臨床細胞学会秋期大会 (1986. 11. 21. 東京).

### 3. 感 染 症

田口善夫, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 藤本憲弘, 南部静洋, 高橋 浩, 相原雅典, 福本 晃: Legionella bozemanii による激症肺炎の 1 例, 第60回日本感染症学会総会 (1986. 4. 25. 東京).

望月吉郎, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 田口善夫, 藤本憲弘, 南部静洋, 市島国雄, 小橋陽一郎, 上田善道: サイトメガロウィルス肺炎の臨床的検討, 第60回日本感染症学会総会 (1986. 4. 26. 東京).

田中栄作, 網谷良一, 久世文幸: ムコイド型緑膿菌によるマウス患急性気管支肺炎モデルの作成, 第34回日本化学療法学会総会 (1986. 6. 6. 倉敷).

新実彰男, 田中栄作, 川合 満, 久世文幸, 山尾 哲: てんかん発作時の誤嚥が原因と考えられた肺化膿症の 1 例, 第119回日本内科学会近畿地方会 (1986. 6. 21. 尼崎).

田口善夫, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 藤本憲弘, 南部静洋, 高橋 浩, 相原雅典, 福本 晃: Legionella bozemanii による激症肺炎の 1 例, 第57回日本結核病学会・第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 6. 28. 大阪).

鈴木雄二郎, 堀川禎夫, 西山秀樹, 前川暢夫: 抗痙攣剤によると考えられる低  $\gamma$ -グロブリン血症で肺炎をくり返した 1 例, 第22回日本赤十字社医学総会 (1986. 11. 6. 長崎).

南部静洋, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 田口善夫, 藤本憲弘, 久保嘉明, 西和田誠: 重症肺炎に合併した ARDS に重畳式 HFJV を行い, 著明な ABG の改善をみた 1 例, 第58回日本結核病学会, 第28回日本胸部疾患学会近畿地方 (1986. 11. 15. 大阪).

望月吉郎, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 田口善夫, 藤本憲弘, 南部静洋, 八田和大, 久保嘉明, 市島国雄, 小橋陽一郎: PC 肺炎に対する予防投与法の検討, 第58回日本結核病学会, 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

岡 裕也, 松井保憲, 濱戸教行, 天野博之, 高橋 豊, 南部静洋, 田口善夫, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 相原雅典: IgG- $\lambda$  型多発性骨髄腫に合併し, 生前に診断し得た本邦初の Legionella dumoffi 肺炎の 1 例, 第121回日本内科学会近畿地方会 (1986. 11. 29. 大阪).

#### 4. 気管支喘息, アレルギー疾患

奥泉仁一, 田中健一: TDI 処理モルモットに観察された電気生理学的変化について, 第56回日本衛生学会, (1986. 3. 30. 津).

井野隆光, 沢幡 正, 丸井昭吾, 田中健一: ベンジン及びその N-アセチル化物の N-水酸化体の電子状態と代謝との関係について, 第59回日本産業衛生学会 (1986. 4. 2. 広島).

小林節雄, 川合 満, 倉沢卓也, 西山秀樹, 他15名: 気管支喘息に対する柴朴湯エキス剤の長期投与効果の検討——多施設共同試験結果について——, 第26回日本胸部疾患学会総会 (1986. 4. 9. 福岡).

白川太郎, 田中 茂, 川添隆司, 梅宮正志, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 日下幸則, 市川陽子, 後藤 稠: 超硬合金喘息の原因物質の検討 (Ⅲ), 第57回日本結核病学会, 第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 6. 28. 大阪).

Tanigawara, Y., Kishimoto, I., Yamamura, M., Okumura, K., Hori, R., Kawatatsu, K., Nishimura, K., Kawai, M., Chikuma, M., Takeyama, M., Hamaoka, K.: Population pharmacokinetics of Theophylline following intravenous infusion, III World Conference on Clinical Pharmacology & Therapeutics (July, 31. 1986. Stockholm).

田中健一, 竹岡明美, 花田 哲, 岡本 豊, 奥泉仁一, 川合 満: TDI による実験的アレルギーに関する研究 (第12報), MDI による C57BL/6 マウス接触過敏症 (CS) モデル, 第36回日本アレルギー学会総会 (1986. 9. 23. 岐阜).

川合 満, 加藤元一, 河南里江子, 桜井信男, 倉沢卓也, 田中健一, 久世文幸, 大瀧雅一, 若松茂幹: パーソナルコンピューターによる閉塞性肺疾患患者の管理の試み, 同上 (1986. 9. 24).

山田栄一, 川合 満, 岩田猛邦: ケチフェン長期投与の気道過敏性に及ぼす影響, 同上 (1986. 9. 25).

田中健一, 長屋佳子, 花田 哲, 岡本 豊, 奥泉仁一: TDI による実験的アレルギーに関する研究 (第11報) 鼻アレルギーにみられた抗原特異的即時型皮膚反応について, 第37回日本アレルギー学会 (1986. 10. 23. 岐阜).

山田栄一, 川合 満, 岩田猛邦, 種田和清: ケチフェン長期投与の気道過敏性に及ぼす影響, 第36回アレルギー学会総会 (1986. 10. 25. 岐阜).

坂本廣子, 長谷川 幹, 片上信之, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 救命しえた重症喘息発作症例の検討 (第2報), 第28回日本胸部疾患学会, 第58回日本結核病学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

白川太郎, 田中 茂, 川添隆司, 梅宮正志, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 鈴木克洋, 三尾直士, 川合 満, 泉 孝英: 気道過敏性測定法の比較検討, 第58回日本結核病学会, 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

田口善夫, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 藤本憲弘, 八田和大, 南部静洋, 久保嘉朗, 堀 健次郎, 岡部憲二郎: 右心不全を繰り返した重症気管支喘息の1例, 第58回日本結核病学会, 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

田中 茂, 梅宮正志, 川添隆司, 白川太郎, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎: リンパ球刺激テストにより, セファゾリン (CEZ) による薬剤誘起性肺臓炎と推定された1例, 第58回日本結核病学会, 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

#### 5. 心身医学

河野博臣(会長): 第10回日本心身医学会近畿地方会 (1986. 1. 神戸).

河野博臣: 医学と科学と宗教, 第1回陽光文明国際会議 (1986. 11. 高山).

河野博臣(座長): Holistic Medicine. 同上国際会議 (高山).

河野博臣: 末期癌患者のターミナルケア——外科の立場より——, 第48回日本臨床外科学会 (1986. 11. 大阪).

## 6. そ の 他

田中栄作, 久保嘉郎, 村山尚子, 網谷良一, 久世文幸, 竹田俊男, 岩田猛邦, 上田善道, 小橋陽一郎, 市島国雄: BOOP (Bronchiolitis obliterans organizing pneumonia) 3 症例の臨床的・病理学的検討, 第26回日本胸部疾患学会総会 (1986. 4. 7. 福岡).

石原享介, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 中島吉彦, 太田仁八, 浅香隆久, 石井昌生: 酸素濃縮器による在宅酸素療法の臨床的検討——在宅率, 急性増悪因子の変化を中心に——, 第26回日本胸部疾患学会総会 (1986. 4. 8. 福岡).

岩崎博信, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 梅田文一, 中井 準: 運動負荷からみた間質性肺炎のステロイド療法効果に関する検討, 第26回日本胸部疾患学会総会 (1986. 4. 8. 福岡).

川添隆司, 白川太郎, 藤村直樹, 高田範男, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 北市正則, 泉 孝英, 土井俊夫, 末広文彦: びまん性肺出血の1 症例 (肺, 腎生検とその免疫抗体法による検討), 同上 (1986. 4. 8. 福岡).

網谷良一, 久世文幸, 藤本憲弘, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 奥村敦子: 胸水の鑑別診断における胸水 ACE 活性測定の意義, 第26回日本胸部疾患学会総会 (1986. 4. 9. 福岡).

加藤元一, 村山尚子, 山本孝吉, 網谷良一, 倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸, 北市正則: 両側肺上野が進行性に縮少し自胸気胸を繰返した同胞4 例の検討, 第26回日本胸部疾患学会総会 (1986. 4. 9. 福岡).

中西通泰, 柴田安宅他: 最近の自然気胸, 第22回京都病院学会 (1986. 6. 15. 京都).

中西通泰, 柴田安宅他: 呼吸器の MRI 第22回京都病院学会 (1986. 6. 15. 京都).

山本孝吉, 鈴木克洋, 村山尚子, 倉沢卓也, 久世文幸, 久保明美, 笹田昌孝: ヒト肺胞マクロファージの活性酸素生成に及ぼす組み換え型インターフェロンガンマの効果, 第14回日本臨床免疫学会総会 (1986. 6. 19. 東京).

冨田誠人, 岸田慶子, 大草知子, 牛田伸一, 中原保治, 中原由紀子, 馬場泰人: 抗 T<sub>3</sub> 自己抗体の出現を認めた1 症例, 第14回日本臨床免疫学会総会 (1986. 6. 19. 横浜).

石田 直, 中原由紀子, 中原保治, 門屋 誠, 牛田伸一, 松山栄一, 網谷良一, 鈴木康弘: 気管支線毛運動及び微細構造を観察した Kartagener 症候群の1 例, 第119回日本内科学会近畿地方会 (1986. 6. 21. 尼崎).

長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 十二指腸潰瘍の穿通に合併した右横隔膜下気管支瘻の1 例. 第57回日本結核病学会, 第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 6. 28. 大阪).

辻 直子, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 岡田行功, 庄村東洋: 結核性病変を伴う気管支結石症の1 手術例. 第57回日本結核病学会, 第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 6. 28. 大阪).

岩崎博信, 橋平 誠, 岡本文二, 西内 素, 庄村東洋, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 梅田文一, 中井 準: 肺分画症 (Pryce 1 型) の1 症例. 第57回日本結核病学会, 第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 6. 28. 大阪).

李 英徹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: Radiation related pleuropericarditis と考えられる1 例. 第57回日本結核病学会, 第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 6. 28. 大阪).

田口善夫・岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 藤本憲弘, 南部静洋, 市島国雄, 小橋陽一郎: Sarcoidosis 発症10年後 Mycetoma 形成に伴う大咯血を繰返した1 例. 第57回日本結核病学会, 第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 6. 28. 大阪).

南部静洋, 久保嘉郎, 藤本憲弘, 田口善夫, 郡 義明, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛郎, 向賀幹二: 肺動脈狭窄症による右肺低形成症の1 例. 第57回日本結核病学会, 第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 6. 28. 大阪).

田口善夫, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 藤本憲弘, 南部静洋, 田淵圭作, 北村博之, 網谷良一: 10年後の気管支造影を検討し得た Kartagener syndrome の1 例. 第57回日本結核病学会, 第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 6. 28. 大阪).

望月吉郎, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 田口善夫, 藤本憲弘, 南部静洋, 北野司久, 藤尾 彰: モルガニー孔ヘルニアの臨床的検討——気腹撮影にて診断しえた1 症例を中心に——. 第57回日本結核病学会, 第27回日

本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 6. 28. 大阪).

梅宮正志, 川添隆司, 白川太郎, 田中 茂, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 川上賢三, 中川正清: Inflammatory Pseudotumor の1例. 第57回日本結核病学会, 第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 6. 28. 大阪).

堀川禎夫: Acetazolamide が奏効した閉塞型睡眠時無呼吸症候群の1例. 第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 6. 28).

大草知子, 石田 直, 富田哲也, 岡田幾太郎, 中原由紀子, 中原保治, 富田 誠, 牛田伸一, 門屋 誠, 松山栄一: 発作性心房細動に対する MS-5075 注射薬の効果. 第61回日本循環器病学会近畿地方会 (1986. 6. 28. 和歌山).

伊藤春海, 村田喜代史, 藤堂義郎, 鳥塚莞爾, 泉 孝英, 北市正則, 西村浩一, 大島授作, 人見滋樹, 久世文幸: CT によるびまん性肺病変の解析〜気管支・血管系を中心に〜 (シンポジウム I 気管・気管支の画像診断の進歩). 第9回日本気管支学会総会 (1986. 7. 15. 京都).

片上信之, 長谷川幹, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 喀血症例に対する気管支動脈塞栓術の臨床的検討. 第9回日本気管支学会総会 (1986. 7. 16. 京都).

Yamamoto K, Murayama T, Sasada M, Kuze F: Effect of recombinant interferon-on human alveolar macrophages, 14th International Cancer Congress (Budapest, Hungary, August 25, 1986).

Kuze F, Amitani R, Sakurai N, Tigawa S: Murine models of Mycobacterium avium complex infection, (ヨーロッパ肺疾患学会, 臨床肺生理学会合同会議), (Paris, France, September 5, 1986).

Amitani R, Kuze F, Taguchi Y, Mochizuki Y, Oida K, Iwata T.: Liquid-filled alveolography —A new diagnostic procedure for assessing peripheral airway and lung parenchyma, Convergences SEP/SEPCR (ヨーロッパ肺疾患学会, 臨床肺生理学会合同会議), (Paris, France, September 6, 1986).

富田哲也, 石田 直, 中原由紀子, 中原保治, 牛田伸一, 松山栄一, 田村忠雄: 姫路市東部に流行したA型肝炎炎についての検討. 第120回日本内科学会近畿地方会 (1986. 9. 6. 大阪).

李 英徹, 長谷川 幹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: Benign Asbestos Pleurisy の1例. 第28回日本胸部疾患学会, 第58回日本結核病学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

石原享介, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 平佐昌弘, 太田仁八, 浅香隆久, 石井昌生: 在宅酸素療法施行中死亡症例の問題点. 第28回日本胸部疾患学会, 第58回日本結核病学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

片上信之, 長谷川 幹, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 胸部疾患におけるエコーガイド下経皮針生検 100 例の臨床的検討. 第28回日本胸部疾患学会, 第58回日本結核病学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

網谷良一, 倉沢卓也, 鈴木康弘, 高橋晴雄, 西山秀樹: 気管支粘膜線毛の内側 dynein arm 欠損を呈したびまん性汎細気管支炎と考えられる2例. 第58回日本結核病学会, 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

石田 直, 富田哲也, 中原由紀子, 中原保治, 牛田伸一, 松山栄一, 田村忠雄, 網谷良一: 気管支線毛の dynein arm の欠損を認めた DPB の1例. 第58回日本結核病学会, 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

網谷良一, 田中栄作, 李 啓充, 村山尚子, 山本孝吉, 倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸: Culture Plate の直接顕鏡による気管粘膜上皮線毛運動周波数の測定. 第58回日本結核病学会, 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

河南里江子, 田中栄作, 網谷良一, 倉沢卓也, 久世文幸, 荏原順一: Propionibacterium Acnes との関連が示唆された線状花陰影を呈したサルコイドーシスの1例. 第58回日本結核病学会, 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 同上).

橋本 徹, 池上裕美子, 多田公英, 富岡洋海, 縄田隆平, 新実彰男, 河南里江子, 加藤元一, 鈴木克洋, 桜井信男, 田中栄作, 李 啓充, 村山尚子, 網谷良一, 山本孝吉, 倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸: 円形無気肺の3

症例. 第58回日本病学会, 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

加藤元一, 倉沢卓也, 網谷良一, 久世文幸: 多発性ポリープを呈した気管支内異物の1例. 第58回日本結核病学会, 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

縄田隆平, 網谷良一, 久世文幸, 五十部 潤, 青木 稔, 田村康一, 人見滋樹, 鈴木康弘: 多発性肺嚢胞とびまん性異常線状影を伴った Von Recklinghausen 氏病の1症例. 第58回日本結核病学会, 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

冨田哲也, 石田 直, 中原由紀子, 中原保治, 牛田伸一, 松山栄一, 田村忠雄, 横見瀬裕保, 宮本好博, 桂栄孝: インコの羽毛より証明し得た肺クリプトコッカスの1例. 第25回日本胸部疾患学会近畿地方会 (1986. 11. 15. 大阪).

大瀧雅一, 若松茂幹, 川合 満, 三宅浩之: 医療用データベースの開発とその臨床応用. 第6回医療情報学連合大会 (1986. 11. 29).

望月吉郎, 岩田猛邦, 種田和清, 郡 義明, 田口善夫, 藤本憲弘, 南部静洋, 久保嘉朗: 低肺機能患者の急性増悪時の感染因子の検討. 第34回日本化学療法学会西日本支部総会 (1986. 12. 4. 名古屋).

## 〔誌 上 発 表〕

### 1. 結核・非定型抗酸菌症

佐川弥之助, 大島駿作, 久世文幸, (司会)人見滋樹: 主題Ⅰ 非定型抗酸菌症をめぐって (第4回京都呼吸器疾患シンポジウム記録). 呼吸, 5(3): 355-356, 1986.

久世文幸: 非定型抗酸菌症の治療術式の検索. 昭和60年度科学研究費補助金 (一般研究C) 研究成果報告書, 1986.

中西通泰, 結核患者に対する薬物療法. 薬局, 37: 21-26, 1986.

池田宣昭: 主要抗結核薬の性能比較に関する試験管内実験的検討. 結核, 61(5): 285-292, 1986.

岩崎博信, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 梅田文一, 中井 準, 青山 博, 黒木輝夫, 白根博文, 浅香隆久, 石井昌生: 小腸結核による穿孔性腹膜炎を併発した肺結核の1例. 結核, 61(6): 351-355, 1986.

久世文幸: 肺結核 (免疫からみた呼吸器感染症). medicina, 4(7): 1136-1140, 1986.

久世文幸: 非定型抗酸菌症 (免疫からみた呼吸器感染症). medicina, 4(7): 1141-1143, 1986.

桜井信男, 久世文幸: Mycobacterium avium-intracellulare 症治療術式の検討. (1)感染確立後から開治するマウス治療モデル. 結核, 61(6): 333-339, 1986.

久世文幸, 桜井信男, 荻野文章, 戸川真一: Mycobacterium avium-intracellulose に対する抗結核薬併用効果の小川培地による検討. 結核, 61(6): 341-349, 1986.

久世文幸: 肺結核 (難治感染症の治療). 臨牀と研究, 63(7): 2168-2172, 1986.

久世文幸: 肺結核 (特集・処方計画法). 総合臨床, 35 (増刊号): 1692-1695, 1986.

久世文幸: 非定型抗酸菌症. 日本医事新報, No. 3259, 8-15, 1986.

久世文幸: 結核性髄膜炎. 化学療法の領域, 2(12): 1893-1898, 1986.

倉沢卓也, 新実彰男, 加藤元一・岡崎美樹, 久保嘉朗, 鈴木克洋, 李 啓充, 田中栄作, 村山尚子, 網谷良一, 山本孝吉, 川合 満, 久世文幸: 初回治療患者の胸部X線所見. 結核, 61(11): 557-565, 1986.

久世文幸: 肺結核 (結核性肺炎). Pharma medica, 4: 53-58, 1986.

### 2. 腫 瘍

Kaechoony Lee, Takayuki Hashimura, Nobuhiko Tanigawa and Fumiyuki Kuze: A Simple Colorimetric Method for the Evaluation of Growth and Chemosensitivity of Tumor Cells in Soft Agar Culture. Bull. Chest Dis. Res. Inst., Kyoto Univ. 19: 1-8, 1986.

望月吉郎, 岩田猛邦, 種田和清, 群 義明, 田口善夫, 藤本憲弘, 南部清洋, 市島国雄, 小橋陽一郎, 上田善

道・北野司久, 藤尾 彰: 気管支カルチノイド6例の臨床的検討——全身転移をきたした非定型カルチノイド症例を中心に——. 日胸, 45(9): 747~753, 1986.

李 英徹, 片上信之, 坂本廣子, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 谷口郷美, 白根博友, 内田博也, 和田洋己, 人見滋樹: 喉頭・気管乳頭腫症の1例. 気管支学, 8(1): 97~102, 1986.

坂本廣子, 片上信之, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 非観血的肺癌治療例における長期生存例の検討. 肺癌, 26(4), 373~379, 1986.

岩崎博信, 平本憲孝, 藺 潤, 埴岡啓介, 西内 素, 泰 紘, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 梅田文一, 中井 準: 検診で発見された15才女子肺腺癌の1切除例. 肺癌, 26(6), 681~686, 1986.

城 泰子, 片上信之, 長谷川 幹, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 岡本交二, 庄村東洋, 白根博文: 胸壁原発 Giant Cystic Schwannoma の1摘除例. 日本胸部臨床, 45(12): 1047~1051, 1986.

中西通泰: 臨床における癌患者のプロセス——末期の身体的なものを中心に——. 末期癌の医療, 68~79, 1986.

網谷良一, 久世文幸, 山辺博彦, 小橋陽一郎: 広汎な多発結節性肺転移を呈した右大腿原発 alveolar soft part sarcoma の1例. 日胸, 45(8): 685~689, 1986.

長野 豊, 石田 直, 冨田哲也, 岡田幾太郎, 岸田慶子, 大草知子, 中原由紀子, 中原保治, 冨田誠人, 牛田伸一, 門屋 誠, 桂 栄孝: 十二指腸メラノーマの1例. 胃と腸, 21(10): 1113~1116, 1986.

### 3. 感染症の化学療法

前川暢夫, 中西通泰, 鈴木雄二郎, 李 啓充, 他 (共同研究): 呼吸器感染症に対するセフトリアキソンとセフトキシムの薬効比較試験. 感染症学雑誌, 60: 102~124, 1986.

小林宏行, 久世文幸, 川合 満, 網谷良一, 山本孝吉, 西山芳樹, 岡崎美樹, 他58名: 細菌性肺炎に対する T-2588 と Bactampicillin の薬効比較試験. 感染症学雑誌, 60(9): 1078~1106, 1986.

吉田康子, 西山秀樹, 久世文幸, 柴田安宅, 中西通泰, 池田宣昭, 長谷光雄, 鈴木雄二郎, 武藤 真, 鍵岡朗, 荻野文幸, 戸川真一, 小田芳郎, 稲葉定雄, 種田和清, 岩田猛邦, 坂本憲司, 辻野博之: 呼吸器感染症に対する T-2588 の臨床効果の検討. Chemotherapy, 34(S-2), 224~454, 1986.

小林宏行, 久世文幸, 川合 満, 網谷良一, 山本孝吉, 西山秀樹, 岡崎美樹, 他58名: 慢性気道感染症に対する T-2588 と Cefaclor の薬効比較試験. 感染症学雑誌, 60(9): 1052~1077, 1986.

中西通泰, 山本孝吉, 石田 真, 久保嘉朗, 久世文幸, 池田宣昭, 辻野博之, 稲葉宣雄, 小田芳郎, 鍵岡 朗, 岩田猛邦: 呼吸器感染症に対する BRL 28500 (Clavulanic acid-Ticarcillin) の臨床的検討. Chemotherapy, 34 (S-4): 594~601, 1986.

中西通泰, 前川暢夫, 他 (共同研究): 呼吸器感染症由来の臨床分離菌に対する各種  $\beta$ -Lactam 系抗生物質の抗菌力の推移について (第II報). Jap. J. Antibiotics, 39: 2914~2925, 1986.

岩田猛邦, 望月吉郎: ニューモシスチス・カリニー肺炎. Medicina, 23(7): 1150~1152, 1986.

田口善夫, 岩田猛邦, 相原雅典, 福本 晃: Legionella bozemanii による激症肺炎の1例. 感染症学雑誌, 60(1): 81~82, 1986.

副島林造, 西山秀樹, 中井 準, 種田和清, 池田宣昭, 辻野博之, 長谷光雄, 久世文幸, 他183名: 呼吸器感染症に対する MK-0787/MK-0791 と Piperacillin の薬効比較試験成績. 感染症学雑誌, 60(4): 345~377, 1986.

小林宏行, 西山秀樹, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 長谷光雄, 鈴木雄二郎, 池田宣昭, 藤野昇三, 松本鉄也, 辻野博之, 坂東憲司, 黒田直明, 久世文幸: 慢性気道感染症に対する BAYo 9867 (ciprofloxacin) と Cefaclor の薬効比較試験. Chemotherapy, 34(10): 1011~1037, 1986.

原 耕平, 西山秀樹, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 長谷光雄, 鈴木雄二郎, 池田宣昭, 藤野昇三, 松本鉄也, 辻野博之, 坂東憲司, 黒田直明, 久世文幸, 他160名: 細菌性肺炎に対する BAYo 9867 (Ciprofloxacin) と Bacampicillin の薬効比較試験成績. Chemotherapy, 34(7): 629~653, 1986.

副島林造, 久世文幸, 村山尚子, 西山秀樹, 加藤元一, 他192名: 細菌性肺炎・肺化膿症に対する Cefuzonam

(CZON) と Cefotiam (CTM) の薬効比較試験. 感染症学雑誌, 60(8) : 885~910, 1986.

副島林造, 久世文幸, 村山尚子, 西山秀樹, 加藤元一, 他192名: 慢性呼吸器感染症に対する Cefuzonam (CZON) と Cefmenoxime (CMX) の薬効比較試験. 感染症学雑誌, 60(8) : 865~884, 1986.

#### 4. 気管支喘息・アレルギー疾患

川合 満, 川勝一雄, 武山正治: 気管支拡張薬の進歩と治療の現況. Therapeutic Research, 4(6) : 1158~1177, 1986.

川合 満: 治療手段とその選択 (気管支喘息・治療). Medical Practice, 3(5) : 815~819, 1986.

田中健一, 長屋佳子, 岡本 豊, 竹岡明美, 花田 哲: TDI 鼻アレルギーモデルに観察された抗原特異的即時型皮膚反応. 耳鼻咽喉科免疫アレルギー, 4, 24~25, 1986.

田中健一, 丸井昭吾, 岡本 豊, 花田 哲, 西村富美子, 長屋佳子: TDI 鼻アレルギーモデルに観察された鼻粘膜表面粘液の形態学的研究. 耳鼻咽喉科免疫アレルギー, 4, 26~27, 1986.

田中健一, 岡本 豊, 長屋佳子, 花田 哲: モルモット TDI 喘息モデルにみられた発作死の検討. 京大胸部研紀要, 19, 71~79, 1986.

田中健一: TDI によるアレルギー性疾患モデル. 皮膚科紀要, 81, 456~469, 1986.

田中健一, 丸井昭吾, 沢幡 正, 井野隆光: 炭素繊維の気管内注入によるラット肺の形態学的変化について. 産業医学, 28, 288~289, 1986.

川合 満: ステロイド薬長期連用の問題点と対策. 医学のあゆみ, 137 : (5) : 398~400, 1986.

川合 満: 気管支喘息. 図説臨床看護医学, 呼吸器 (分担執筆), 178~183, 同朋舎出版, 1986.

川合 満: 喘息の薬物療法<喘息における各薬剤の用い方>「非特異的療法剤」. 臨床医療情報, 5(3) : 365~371, 1986.

川合 満: 気管支喘息. 薬物療法の実際 (第3版), (分担執筆), 502~508, アサヒメディカル, 1986.

川合 満, 河南里江子, 久世文幸: 抗アレルギー薬 DSCG の上手な使い方. クリニカ, 14(2) : 88~92, 1986.

川合 満: 薬物ならびに干渉低周波による去痰. 呼吸器疾患の治療 (分担執筆), 179~190, 羊土社, 1986.

川合 満: 難治性気管支喘息の治療法にはどんなものがあるのか? 免疫の新しい考え方 Q & A (分担執筆), 386~387, 協和企画, 1986.

可部順三郎, 川合 満, 他86名: 成人気管支喘息に対する新規抗アレルギー薬 MY-5116 の臨床評価——封筒法による至適用量の検討——. 診療と新薬, 23(2) : 229~249, 1986.

牧野莊平, 石崎 達, 長野 準, 川合 満, 前川暢夫, 他116名: E-0659 (azelastine) の気管支喘息に対する臨床的検討——多施設二重盲検法による Ketotifen との比較——. 臨床と研究, 63(2) : 609~635, 1986.

信太隆夫, 川合 満, 他78名: 成人気管支喘息に対する DSCG エアゾルの治療効果——DSCG 粉剤を対照とした比較試験——. 診療と新薬, 23(9) : 1963~1976, 1986.

信太隆夫, 川合 満, 他81名: 気管支喘息に対する Ba598 の臨床評価——多施設二重盲検群間比較法による検討——. Therapeutic Research, 5(1) : 93~118, 1986.

可部順三郎, 信太隆夫, 浜田朝夫, 川合 満, 他72名: 全国38施設共同研究によるプロカテロール吸入剤の薬効検討. 現代医療, 17 : 1645~1660, 1986.

浜田朝夫, 信太隆夫, 可部順三郎, 宮本昭正 (川合 満, 久世文幸, 他74名参加): 気管支喘息に対する pro-caterol 吸入薬の臨床評価, salbutamol 吸入薬を対照薬とした全国39施設共同による二重盲検群間比較試験成績. 医学のあゆみ, 137(11) : 939~957, 1986.

小林節雄, 谷本普一, 佐野靖之, 川合 満: 他疾患を有する喘息患者の治療 Part I (座談会). メディカル・メリビュン, 1986.

滝島 任, 可部順三郎, 川合 満, 無江季次: 気管支喘息と  $\beta$  刺激剤の動向 (座談会). メディカル・トリビュン, 1986.

岸本 進, 宮本昭正, 信太隆夫 (川合 満, 前川暢夫, 他75名参加): 気管支喘息に対する AA-673 錠の用量

比較試験. 薬理と治療, 14(4): 2895~2911, 1986.

川上保雄, 高橋昭三 (川合 満, 他123名参加): KC-404 の成人気管支喘息に対する臨床的検討——トラニラストを対照とした多施設二重盲検比較試験——. 臨床評価, 14(2): 373~407, 1986.

## 5. 心身医学

河野博臣: Quality of Life のあるべき姿. 癌患者の生を考える, 8~23, 有斐閣, 1986.

河野博臣: 人のいのちにかかわるにあたって. "Quality of Life" をどう考えるか. 月刊ナーシング, 5(13): 8~14, 1985.

河野博臣: 老人癌患者のセルフ・ケア. 治療, 68(2): 423~425, 1986.

河野博臣: うつ病に対する一般医の関心. Medical way, 3(7): 163~166, 1986.

河野博臣: 癌末期患者の在宅ケア. 日本医師会雑誌, 96(5): 790~794, 1986.

河野博臣編著: 末期癌患者のケア. 金原出版, 1986.

河野博臣編著: 末期癌患者の医療. 金原出版, 1986.

## 6. その他

Kusaka, Y., Ichikawa, Y., Shirakawa, T., Goto, S.: Effect of hard metal on ventilatory function, Brit. J. Indust. Med., 43: 486~489, 1986.

Kusaka, Y., Yokoyama, K., Sera, Y., Yamamoto, S., Sone, S., Kyono, H., Shirakawa, T., Goto, S.: Respiratory diseases in hard metal workers: an occupational hygiene study in a factory, Brit. J. Indust. Med., 43: 474~485, 1986.

Akemi Kubo, Masataka Sasada, Kohkichi Yamamoto, Hideki Nishiyama, Toshiro Nishimura, Toru Nakamura and Haruto Uchino: The role of phagosome formation in hydroxyl radical generation by human polymorphonuclear leukocytes: Studies with normal and cytochalasin B-treated cell. Acta Haematologica Japonica, 49(1): 34~42, 1986.

川合 満, 久世文幸: 呼吸器疾患 (特集内科最近の動き). 内科, 57(1): 4~8, 1986.

網谷良一, 久世文幸, 種田和清, 岩田猛邦, 天野博之, 西田 修, 荒木恒治: 胸水中アンギオテンシン変換酵素 (ACE) の異常高値を呈した肺吸虫症の2例. 日胸, 45(11): 936~941, 1986.

藤原拓樹, 飯田健一, 田中秀武, 黒田直明: Neuron-Specific Enolase (NSE)・RIA シオノギの基礎的・臨床的検討. 医学と薬学, 15(6): 1949~1957, 1986.

堀川禎夫: Acetazolamide が有効であった閉塞型睡眠時無呼吸症候群の1例. 和歌山赤十字病院医学雑誌 (Vol. 4). 62~67, 1986.

田口善夫, 田中栄作, 藤本憲弘, 郡 義明, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 上田善道, 小橋陽一郎, 市島国雄: SAB 所見を検討し得た肺好酸球性肉芽腫症の1例. 日本胸部臨床, 45(2): 159~163, 1986.

望月吉郎, 南部静洋, 藤本憲弘, 田口義夫, 郡 義明, 種田和清, 岩田猛邦, 黒田康正, 左野 明, 今中一文: 心内奇形を伴わない右肺動脈起始部離断症の1成人例. 日本胸部疾患学会雑誌, 24(9): 1028~1033, 1986.

川合 満: 喀痰. 図説臨床看護医学, 呼吸器 (分担執筆), 64~70, 同朋舎出版, 1986.

川合 満: 喘鳴. 図説臨床看護医学, 呼吸器 (分担執筆), 74~75, 同朋舎出版, 1986.

川合 満: 縦隔気腫. 図説臨床看護医学, 呼吸器 (分担執筆), 280~281, 同朋舎出版, 1986.

田中栄作, 南部静洋, 藤本憲弘, 田口善夫, 郡 義明, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄: 移動する PIE 症候群様の陰影と両側胸水を呈した Bronchiolitis obliterans organizing pneumonia (BOOP) の1例. 日本胸部臨床, 45(6): 532~537, 1986.

石原享介, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 岡田行功, 庄村東洋, 白根博文: 診断的気腹により横隔膜部分欠損の存在を知り得た月経随伴性気胸の1例. 日本胸部臨床, 45(5): 423~427, 1986.



加藤元一, 倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸, 溝井一敏, 坂本邦彦, 清田隆二, 大山 勝: Reometer の開発とその臨床応用. *Therapeutic Research*, 4(6): 1229~1240, 1986.

網谷良一: Liquid-filled Alveolography (LFA) による末梢気道病変の形態学的検討. *日胸疾会誌*, 24(7): 719~728, 1986.

石原享介, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 石井昌生: 気管支ファイバースコープによる気管支結石の摘出とその適応——摘出後気管支造影を中心に——. *日本胸部臨床*, 45(8): 658~665, 1986.

片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 気管支造影時のモニタリングおよび呼吸不全患者の呼吸管理におけるフィンガーオキシメーターの有用性. *呼吸*, 5(9), 1032~1038, 1986.

長岡 滋, 川合 満, 池田宣昭, 山鳥英世, 今井節朗, 倉沢卓也, 丸井康子, 東向一郎, 江部康二, 他58名: 急性上気道炎に対するトルフェナム酸の臨床的薬効評価—イブプロフェンを対象薬とした全国的多施設二重盲検法による第Ⅲ相試験. *臨床医薬*, 2(2): 221~249, 1986.

中西通泰: 内科要点整理問題演習(分担執筆). 編集・後藤文男, 亀田治男, 主要症候, 病態生理, 金原出版, 東京, 1986.

前川暢夫, ほか: 抗結核剤 Rifampicin の病巣局所移行に与える去痰薬 Ambroxol の影響についての研究. *Antibiotics and Chemotherapy* 2(11): 1817~1829, 1986.

長岡 滋, 平賀洋明, 岡安大仁, 野口英世, 倉沢卓也, 東向一郎, 池田宣昭, 今井節朗, 江部康二, 坂東憲司, 黒田直明, 川合 満, 他50名: 非酸性鎮痛消炎薬 Emorfazone の急性上気道炎に対する臨床評価——Aspirin を対照薬とした二重盲検比較試験——. *薬理と治療*, 14(9): 5883~5900, 1986.

谷本普一, 前川暢夫, 川合 満, 稲葉宣雄, 辻野博之, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 中井 準, 他110名: 慢性閉塞性肺疾患に対する Ba598 の臨床的検討——多施設二重盲検法による Ipratropium bromide との比較——. *Progress in Medicine*, 6(6): 1203~1299, 1986.

前川暢夫, 川合 満, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 他76名: 気管支喘息ならびにその他の慢性閉塞性肺疾患に対する Flutropium Bromide (Ba598) の臨床的検討——特に長期投与における安全性の検討について——. *Therapeutic Research*, 5(2): 379~414, 1986.

大草知子, 岸田慶子, 長野 豊, 石井賢二, 中原由紀子, 中原保治, 冨田誠人, 牛田伸一, 門屋 誠, 松山栄一, 加納 正: 多発性骨髄腫に合併したびまん性肺胞中隔型肺アミロイド症のまれな1例. *日本内科学会雑誌*, 75(7): 925~930, 1986.

田中 茂, 中田敬吾, 江部康二, 渡辺一幹, 玉置 勉, 中野勝輝: 老人疾患と漢方療法. *漢方診療*, 5(6): 2~18, 1986.

#### 〔研究会・講演会〕

##### 1. 結核・非定型抗酸菌症

久世文幸, 戸川真一, 桜井信男: 小川培地上における抗結核薬の併用効果——M. intracellulare——. 第9回臨床抗酸菌談話会 (1986. 4. 9. 福岡).

岡崎美樹, 加藤元一, 倉沢卓也, 久世文幸: 反復する肺炎と M. intracellulare の分離. 第18回非定型抗酸菌症研究協議会 (1986. 4. 10. 福岡).

戸川真一, 桜井信男, 久世文幸: マウスを用いた M. intracellulare 感染モデル——ページ・マウスの検討——. 第56回実験結核研究会総会 (1986. 4. 9. 福岡).

前川暢夫, 久世文幸, 桜井信男: 実験的マウス抗酸菌症を対象とした肺洗滌細胞の動態〔Ⅱ〕. *日結研総会報告* (1986. 6. 13).

久世文幸: 特別講演「非定型抗酸菌症の臨床」. 第27回滋賀呼吸器疾患談話会 (1986. 11. 8. 大津).

## 2. 腫瘍

李 啓充：胸・腹水中における形質転換増殖因子 (TGF) 活性に関する検討。第22回京大癌研究会 (1986. 1. 21. 京都)。

中嶋安彬, 小川勝彦, 山辺博彦, 内田貞夫, 栗野道治, 琴浦良彦, 網谷良一, 田中紘一：Alveolar Soft Part Sarcoma——8例の臨床病理学的検討——。第22回京大癌研究会 (1986. 1. 21)。

李 啓充, 久世文幸, 橋村孝幸, 谷川允彦：Simple Colorimetric Method による Human Tumor Clonogenic Assay (HTCA) 評価の試み。第19回制癌剤適応研究会 (1986. 2. 22. 広島)。

李 啓充, 久世文幸, 橋村孝幸, 谷川允彦：胸・腹水中における腫瘍増殖因子活性に関する検討。第19回制癌剤適応研究会 (1986. 2. 22. 広島)。

金丸洋史, 橋村孝幸, 吉田 修, 李 啓充, 谷川允彦：Clonogenic assay による尿路上皮腫瘍の制癌剤感受性。第19回制癌剤適応研究会 (1986. 2. 22. 広島)。

鶴田真理, 岩井一宏, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 石原 隆, 早稻田則雄, 倉八博之：SIDHと呈した肺小細胞癌の1例。第34回兵庫県肺癌懇話会 (1986. 3. 19. 神戸)。

前川暢夫：肺癌の早期診断。赤十字県民大学, (1986. 4. 5. 和歌山)。

久世文幸：肺癌の胸部X線読影(1)。西陣医師会 (1986. 5. 21. 京都)。

久世文幸：肺癌の胸部X線読影(2)。西陣医師会, (1986. 7. 23. 京都)。

李 啓充, 久世文幸：Cisplatin を含む制癌剤併用療法の効果——Checker Board Analysis による検討——。第23回京大癌研究会 (1986. 8. 28. 京都)。

倉沢卓也, 石田 直, 山本孝吉, 久世文幸, 田村康一, 人見滋樹, 樋口佳代子：レーザー照射後の気管支肺動脈瘤により咯血死した1例。第28回近畿気管支鏡懇話会 (1986. 9. 4. 大阪)。

加藤元一, 倉沢卓也, 網谷良一, 久世文幸：多発性ポリープを呈した気管支内異物の1例。第28回近畿気管支鏡懇話会 (1986. 9. 4. 大阪)。

田中健一：職業に起因するがんの発生を防ぐために。京都工場保健会産業衛生研究会 (1986. 9. 9. 京都)。

久世文幸：肺癌の胸部X線読影(3)。西陣医師会 (1986. 10. 22. 京都)。

牛田伸一：当院における経皮肺針生検。第13回姫路市医師会秋期大学 (1986. 10. 22. 姫路)。

中原保治, 桂 栄孝：肺癌発見の一手法——脂肪染色について——。第13回姫路市医師会秋期大学 (1986. 10. 24. 姫路)。

前川暢夫：肺癌の診断と治療。田辺市医師会 (1986. 11. 8. 田辺)。

久世文幸：肺癌の胸部X線読影(4)。西陣医師会 (1986. 11. 12. 京都)。

秦 紘, 橋平 誠, 荻野 均, 岡本交二, 岡田行功, 宮本 覚, 西内 素, 立道 清, 庄村東洋, 梅田文一, 中井 準：体外循環を用いて切除しえた Malignant carcinoid tumor の1治験例。第36回兵庫県肺癌懇話会 (1986. 11. 19. 神戸)。

富岡洋海, 山本孝吉, 倉沢卓也, 久世文幸, 大井和春：急速に消退した気管支内腫瘍の1例。第29回近畿気管支鏡懇話会 (1986. 12. 17. 大阪)。

## 3. 感染症の化学療法

岩田猛邦：慢性気道疾患の診断と治療。吉野郡医師会 (1986. 1. 11. 下戸町)。

川合 満, (司会・久世文幸)：フルマーク Phase I Study と臨床経験。京都・滋賀フルマーク新発売記念講演会 (1986. 2. 1. 京都)。

田口善夫, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 藤本憲弘, 南部静洋, 高橋 浩, 相原雅典, 福本 晃：Legionella bozemanii による激症肺炎の1例。第1回奈良県感染症研究会 (1986. 2. 8. 奈良)。

前川暢夫：呼吸器感染症の化学療法。大阪市東区医師会 (1986. 3. 15. 大阪)。

岩田猛邦：慢性気道疾患の診断と治療。八尾市医師会 (1986. 3. 25. 八尾市)。

山田栄一：最近の呼吸器感染症の話題から。神戸市西区医師会 (1986. 3. 29. 神戸)。

岩田猛邦：慢性気道疾患の診断と治療。堺市医師会（1986. 4. 15. 堺市）。  
前川暢夫：呼吸器感染症の化学療法。新宮市医師会（1986. 6. 21. 新宮市）。  
岩田猛邦：慢性気道疾患の診断と治療。大阪東成区医師会（1986. 7. 16. 大阪）。  
岩田猛邦：肺感染症。金沢市内科研究会（1986. 8. 9. 金沢）。  
岩田猛邦：慢性気道疾患の診断と治療。新居浜市医師会（1986. 9. 18. 新居浜）。  
山田栄一：慢性気道疾患の急性増悪期の OFLX の効果。タリビット研究会（1986. 9. 27. 神戸）。  
三上理一郎，久世文幸（司会）：特別講演・呼吸器感染症—病態からみた治療。ムコダイン学術講演会（1986. 10. 4. 京都）。

岩田猛邦：慢性気道疾患の診断と治療。河内長野市医師会（1986. 10. 14. 河内長野）。  
岩田猛邦：慢性気道疾患の診断と治療。北九州市小倉地区内科研究会（1986. 10. 23. 小倉）。  
岩田猛邦：慢性気道疾患の診断と治療。岸和田市医師会（1986. 11. 14. 岸和田）。  
田中栄作：緑膿菌によるマウス肺感染モデル。第38回国立大学附置研究所結核及び胸部疾患談話会（1986. 11. 17. 金沢大学がん研究所）。

岩田猛邦：慢性気道疾患の診断と治療。大垣市内科研究会（1986. 11. 19. 大垣）。  
久世文幸（司会）：タリビットの臨床検討。ニューキノロンの基礎と臨床。タリビット発売一周年記念講演会（1986. 11. 29. 大阪）。  
前川暢夫：呼吸器感染症の診断と治療。田辺市医師会（1986. 12. 6. 田辺）。  
前川暢夫：呼吸器感染症，最近の話題。（1986. 12. 11. 和歌山）。  
久世文幸（司会）：京都・滋賀タリビット新発売1周年記念講演会（1986. 12. 13. 京都）。  
田中栄作：慢性気道感染症に対するタリビットの使用経験，同上講演会（1986. 12. 13. 京都）。  
川合 満：老人と肺炎（ラジオ放送：兵庫県高令者放送大学）ラジオ関西（1986. 12. 27）。

#### 4. 気管支喘息・アレルギー疾患

田中健一：TDI によるアレルギー性疾患モデル。第1回京滋皮膚科懇話会（1986. 2. 22. 京都）。  
川合 満：アレルギー性肺疾患の病態と治療。加古川市医師会（1986. 3. 8. 加古川）。  
川合 満：喘息の治療——特にテオフィリン剤に関連して——。北関東アレルギー協会（1986. 3. 13. 宇都宮）。  
田中健一，長屋佳子，岡本 豊，竹岡明美，花田 哲：TDI 鼻アレルギーに観察された抗原特異的即時型皮膚反応。第4回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー研究会（1986. 3. 28. 東京）。  
川合 満：老年気管支喘息患者に対する紫朴湯の投与経験。京都臨床東洋医学研究会（1986. 3. 29. 京都）。  
川合 満：気管支喘息の病型に応じた治療法について。仲多度郡善通寺医師会（1986. 6. 24. 多度津）。  
川合 満：アレルギー性疾患の診断と治療。西陣医師会（1986. 6. 28. 京都）。  
川合 満：気管支喘息の治療——最近の動向——。第246回大杏会（1986. 7. 20. 大阪）。  
川合 満：気管支喘息の病態と治療——アレルギー疾患の病態と治療学術講演会（1986. 8. 30. 京都）。  
川合 満：気管支拡張薬の進歩と治療の現況。スピロベント講演会（1986. 9. 6. 京都）。  
川合 満：気管支喘息の病態と治療。青森市医師会（1986. 10. 11. 青森）。  
川合 満：気管支喘息の治療——最近の研究と治療の進歩——。佐迫地区医師会（1986. 10. 21. 広島）。  
川合 満：気管支喘息と気管支炎。（ラジオ放送：アレルギー診療室）ラジオ大阪（1986. 10. 26）。  
川合 満：気管支喘息の治療——最近の進歩——。中部臨床研究会（1986. 10. 30. 麻植）。  
川合 満：難治性喘息の治療——特にステロイド依存性喘息について——。喘息研究会（1986. 11. 1. 神戸）。  
牛田伸一：気管支喘息について。神崎郡老人大学（1986. 11. 20. 市川町）。  
川合 満：気管支喘息および閉塞性肺疾患の臨床。高槻市医師会（1986. 11. 22. 高槻）。  
川合 満：気管支喘息の発症機序と治療。草津市医師会（1986. 11. 25. 草津）。  
川合 満：気管支喘息治療の進歩。飯塚医師会（1986. 11. 27. 飯塚）。  
川合 満：プライマリーケアに於ける気管支喘息の治療。大東市医師会（1986. 12. 11. 大東市）。

奥泉仁一, 田中健一, 吉田治弘, 池本卯典: アレルギー性鼻炎モデルの涙液タンパクについて. 第6回細管式等速電気泳動シンポジウム (1986. 12. 12. 名古屋).

## 5. 心身医学

河野博臣: 特別講演・死の臨床研究10年の歩み. 第10回死の臨床研究会 (1986. 11. 東京).

## 6. その他

光田猛邦: 臨床診断“DPB”剖検例の病理形態学的検討. DPB 研究会 (1986. 1. 18. 東京).

南部静洋, 藤本憲弘, 田口善夫, 郡 義明, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 大野陽一郎, 上田善道, 小橋陽一郎, 布島国雄: 多発性骨髄腫の治療中に発熱とともに胸部 X-P 上びまん性陰影を呈した1例. 第32回びまん性肺疾患研究会 (1986. 2. 22. 大阪).

川合 満: 閉塞性肺疾患の治療. アトック講演会 (1986. 3. 27. 京都).

郡 義明, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄: 全剤使用中に間質性肺炎をきたし呼吸不全にて死亡した RA の一剖検例, 間質性肺疾患研究会 (1986. 5. 16. 東京).

岩井一宏, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 内田博也, 中島吉彦, 太田仁八, 浅香隆久, 石井昌生: 労作性呼吸困難にて発症し, 糖尿病を合併, CEA 高値を示し, 胸部 X-P 上びまん性陰影を呈した1症例. 第33回びまん性肺疾患研究会 (1986. 6. 7. 大阪).

田口善夫, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 藤本憲弘, 南部静洋, 市島国雄, 小橋陽一郎: びまん性肺疾患経過中に大咯血を繰返した1例. 第33回びまん性肺疾患研究会 (1986. 6. 7. 大阪).

川合 満: 閉塞性肺疾患の治療. 舞鶴医師会 (1986. 6. 19. 舞鶴).

川合 満: 閉塞性肺疾患の治療. 兵庫区医師会 (1986. 6. 27. 神戸).

鈴木雄二郎, 堀川禎夫, 西山秀樹, 前川暢夫: 気管支動脈法影の治療的応用. 第15回和歌山脈管研究会 (1986. 7. 21. 和歌山).

川合 満: 閉塞性肺疾患の診断と治療. 下京東部医師会 (1986. 7. 17. 京都).

川合 満: 閉塞性肺疾患の診断と治療. 北海道医師会 (1986. 7. 24. 札幌).

川合 満: 閉塞性肺疾患の治療について. 塩筑・松本医師会 (1986. 7. 26. 松本).

川合 満: 気道閉塞性疾患の治療——最近の進歩. 北丹・与謝医師会 (1986. 9. 16. 大宮町).

河南里江子, 田中栄作, 橋本 徹, 多田公英, 縄田隆平, 富岡洋海, 池上裕美子, 新実彰男, 加藤元一, 鈴木克洋, 李 啓充, 桜井信男, 村山尚子, 網谷良一, 山本幸吉, 倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸, 竹田俊男: 定期検診にて発見され, 胸部X線上, 辺像不明瞭な多発性結節を呈したびまん性肺疾患の1症例. 第34回びまん性肺疾患研究会 (1986. 9. 20).

西山秀樹, 堀川禎夫, 鈴木雄二郎, 前川暢夫, 静木厚三: 微熱, 湿性咳嗽, 労作性呼吸困難を主訴とし, 胸部 X-P 上, びまん性陰影を呈した RA の1症例. 第34回びまん性肺疾患研究会 (1986. 9. 20. 大阪).

南部静洋, 久保嘉朗, 藤本憲弘, 田口善夫, 郡 義明, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄: 労作時呼吸困難, 乾性咳嗽を主訴として胸部X線上びまん性陰影を呈した1例. 第34回びまん性肺疾患研究会 (1986. 9. 20. 大阪).

坂本廣子, 城 泰子, 檜田博史, 平佐昌弘, 太田仁八, 浅香隆久, 石井昌生, 長谷川幹, 片上信之, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 発熱で発症し著明な好酸球増多をきたした胸部異常陰影の1例. 第34回びまん性肺疾患研究会 (1986. 9. 20. 大阪).

川合 満 (司会・久世文幸): レオメーターの開発とその臨床応用. ムコダイン学術講演会 (1986. 10. 4. 京都).

牛田伸一, 中原由紀子, 中原保治, 石田 直, 門屋真知子: 視神経乳頭肉芽腫を来したサルコイドーシスの1例. 第6回サルコイドーシス研究会 (1986. 10. 17. 松本).

藤本憲弘, 八田和大, 南部静洋, 田口善夫, 郡 義明, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦, 沖波 聡, 庄司和彦,

矢倉俊洋, 橋本 修, 小橋陽一郎, 市島国雄: 耳鳴, 発熱で発症し多彩な症状を呈したサルコイドーシスの1症例. 第6回サルコイドーシス研究会総会 (1986. 10. 18. 松本).

田口善夫, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 藤本憲弘, 南部静洋, 八田和大, 北野司久, 辰己明利, 小橋陽一郎, 市島国雄: Sarcoidosis 発症10年後, Mycetoma 形成に伴う大咯血を繰り返した1例. 第6回サルコイドーシス研究会 (1986. 10. 18. 松本).

川合 満: 呼吸器における老年性変化ならびに主な疾患について. 京都薬科大学卒業教育 (1986. 10. 19. 京都).

望月吉郎, 久保嘉朗, 南部静洋, 田口善夫, 郡 義明, 種田和清, 岩田猛邦, 相原雅典: COPD 急性増悪に関与する感染因子の検討. 第18回奈良県呼吸器疾患研究会 (1986. 11. 8. 橿原).

南部静洋, 岩田猛邦, 小橋陽一郎, 市島国雄: 発熱, 呼吸困難で急性に発症し好酸球増多を伴った肺疾患の2例. 間質性肺疾患研究会 (1986. 11. 21. 東京).

石原享介, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 本院における自然気胸の内科的治療成績. 第6回京阪神呼吸器勉強会 (1986. 12. 1. 大阪).

前川暢夫, 久世文幸, 村山尚子: マウス肺胞マクロファージの活性酸素生成に関する検討. 日結研総会報告 (1986. 12. 5. 東京).

岡部純弘, 石原享介, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準, 矢部博樹, 永井謙一, 中田康則: 労作時呼吸困難を主訴に胸部X線上非特異的異常陰影をきたした例. 第35回びまん性肺疾患研究会 (1986. 12. 6. 大阪).

牛田伸一, 石田 直, 中原由紀子, 中原保治, 松山栄一, 岩崎博信: 13年の経過で上肺野より進行した胸部異常影の1例. 第35回びまん性肺疾患研究会 (1986. 12. 6. 大阪).

網谷良一, 倉沢卓也, 久世文幸, 鈴木康弘, 高橋晴雄, 西山秀樹: 滲出性中耳炎, 慢性副鼻腔炎, 不妊症を合併し, 胸部 X-P 上びまん性陰影を呈した1例. 第35回びまん性肺疾患研究会 (1986. 12. 6. 大阪).

石原享介, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準: 気道の炎症性ポリープと思われる2症例. 第29回近畿気管支鏡懇話会 (1986. 12. 17. 大阪).

#### 京大胸部研内科 I 合同研究発表会 [第2回]

(1986. 12. 20. 京都)

松本鉄也, 池田宣昭 (国立療養所南京都病院): 京都府南部の結核再発例について 1) 保健所統計より

池田宣昭, 松本鉄也, 足立嘉之, 井上修平, 藤野昇三, 山鳥英世, 森 一弥 (国立療養所南京都病院): 京都府南部の結核再発例について 2) 入院患者の分析より

岡崎美樹, 大野暢宏, 武藤 真, 長谷光雄, 高島義光 (福井赤十字病院 呼吸器科): 気管支性嚢腫の5例

田中栄作, 加藤元一, 網谷良一, 久世文幸 (京大胸部研 内科1): Mouse 緑膿菌感染モデルを使った慢性気道病変のメカニズムの検討

網谷良一, 田中栄作, 村山尚子, 倉沢卓也, 川合 満, 久世文幸 (京大胸部研 内科1): 慢性気道疾患における気管, 気管支線毛の機能および超微形態の検討

岡本 豊, 田中健一 (東レ安全性試験室): TDI 鼻アレルギーモデルを用いた抗アレルギー剤薬効検定の試み

西山秀樹, 南方良章, 堀川禎夫, 鈴木雄二郎, 前川暢夫 (和歌山赤十字病院 呼吸器科): RA に合併した細気管支炎の1症例

郡 義明, 野村信介, 久保嘉朗, 南部静洋, 田口善夫, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦 (天理よろず相談所病院 呼吸器内科), 小橋陽一郎, 市島国雄 (ク病理): 金剤使用中に間質性肺炎を来し呼吸不全にて死亡した RA の1剖検例, 田口善夫, 岩田猛邦, 種田和清, 望月吉郎, 郡 義明, 南部静洋, 久保嘉朗 (天理よろず相談所病院 呼吸器内科), 黒田康正, 定藤規弘 (ク放射線科), 種田基一郎, 足立和彦 (神戸労災病院 内科): 金剤による肺臓炎のX線 CT 像について

牛田伸一 (国立姫路病院 内科): 過去2年間の経皮肺針生検の成績 (同手技にて診断し得たクリプトコッカス症について)

坂本廣子, 長谷川幹, 片上信之, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準 (神戸市立中央市民病院 呼吸器内科): 当科における重症喘息発作および喘息死の臨床検討

白川太郎, 藤村直樹 (高槻赤十字病院 呼吸器科): 金属と喘息

石原享介, 長谷川幹, 片上信之, 坂本廣子, 李 英徹, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準 (神戸市立中央市立病院 呼吸器内科): 石井昌生, 浅香隆久 (神戸市立玉津病院): 在宅酸素療法の現状と問題点

中原由紀子 (国立姫路病院 内科): 肺原発と考えられる悪性線維性組織球腫 (MFH) の1例

坂東憲司, 黒田直明, 倉沢卓也, 辻野博之 (大阪府済生会中津病院 呼吸器科): 縦隔腫瘍で発見された Malignant Melanoma の1例

南部静洋, 久保嘉朗, 田口善夫, 郡 義明, 望月吉郎, 種田和清, 岩田猛邦 (天理よろず相談所病院 呼吸器内科): 多発性骨髄腫, 腎不全に合併した metastatic lung carcinosis の1剖検例

西山秀樹, 南方良章, 堀川禎夫, 鈴木雄二郎, 前川暢夫 (和歌山赤十字病院 呼吸器科): 肺感染を繰り返した Pre-ATL の1症例

片上信之, 長谷川幹, 坂本廣子, 李 英徹, 石原享介, 岩崎博信, 梅田文一, 中井 準 (神戸市立中央市民病院 呼吸器内科), 倉沢卓也, 久世文幸 (京大胸部研 内科1): 当院における非小細胞癌の最新化学療法及び肺癌治療の共通プロトコールについて

## 特 別 講 演

福岡正博先生 (大阪立羽曳野病院 第2内科部長): 進行肺癌の化学療法

Guest Discussor:

伊藤春海先生 (京大医学部放射線・核医学科)

長坂行雄先生 (近畿大学医学部第4内科)

北市正則先生 (京大胸部研 内科2)

## 内科学第一部門主催

## 学 術 講 演 会

Mayer B. Goren, Ph. D., Senior Research Scientist, Division of Molecular and Cellular Biology, National Jewish Hospital, Prof. of Microbiology, University of Colorado, School of Medicine. 「Phagosome-lysosome fusion—最近の知見」(1986. 9. 22. 胸部研大会議室) 主催: 胸部研内科学第一部門. 後援: 藤原記念財団.

Leonid Heifets, M. D., Ph. D., Sc. D., Director, Mycobacteriology Laboratory, National Jewish center for Immunology and Respiratory Medicine: 「*In vitro* activity of antimicrobial agents against *M. avium*, determined by rapid method(BACTEC system)」(1986. 11. 21. 胸部研大会議室) 主催: 胸部研内科学第一部門

## 内 科 学 第 二 部 門

〔著書・分担執筆〕

大島駿作, 北市正則: 肺の線維化. 滝島 任編「臨床医のための病態生理学講座 呼吸器」, p. 240~247, メジカルビュー社, 東京, 1986.

大島駿作, 寺松 孝, 佐川弥之助, 前川暢夫編「臨床呼吸器病学 (第2版)」, 金芳堂, 京都, 1986. (分担執筆).

大島駿作: I 編 2 章 呼吸器系における防御機構, p. 13~16, II 編 7 章 血液検査, 血液の化学検査. p. 103~105, IV 編 1 章 感染性疾患, 急性気管支炎, 細菌性肺炎, 肺膿瘍, マイコプラズマ肺炎, リケッチア肺炎, クラミジア肺炎, ウイルス感染症, 寄生虫による肺疾患, p. 167~180. 大島駿作, 伊藤春海: II 編 コンピュータ

一断層撮影, p. 70~71. 泉 孝英: II編 7章 免疫学的検査, p. 105~108. IV編 4章 慢性閉塞性肺疾患・細気管支炎. 5章 肺線維症およびびまん性間質性肺炎, p. 223~244. 6章 免疫学的疾患, サルコイドーシス. 過敏性肺臓炎, 外因性アレルギー性肺炎, 慢性ベリリウム肺, グッドパスチャー症候群, ウェゲナー肉芽腫症, PIE 症候群, 膠原病の肺病変. 7章 産業性肺疾患, p. 251~278. 10章 全身性疾患における肺病変. 11章 薬剤による肺疾患, p. 317~329. 木野稔也: IV編 6章 1. 気管支喘息, p. 245~251, 9章 その他の気管支肺疾患, 気管支結石症, 肺泡微石症, 肺血鉄症, 肺硝子膜症, 肺胞蛋白症, 呼吸促進症候群, 組織球増殖症, リポイド肺炎, 放射線肺臓炎または放射線肺炎, p. 307~313.

泉 孝英: 過敏性肺臓炎, 肺好酸球増加症, 織田敏次他編 内科学書 (6). 呼吸器疾患, p. 551~556, 中山書店, 東京, 1986.

Callen, J. P., Izumi, T.: Sarcoidosis. Rook, A., Parish, L. C., Beare, J. M. ed. Practical Management of the Dermatologic Patient. p. 184~186, J. B. Lippincott, Philadelphia, 1986.

泉 孝英: 川上義和編「図説臨床看護医学第1巻 呼吸器」免疫学的検査, p. 122~123, 気管支肺胞洗浄, p. 138~139, びまん性汎細気管支炎, p. 188~189, サルコイドーシス, p. 228~231, 同朋舎, 東京, 1986.

泉 孝英, 松井祐佐公: 呼吸器ウイルス感染症. 螺良英郎監修「ウイルス感染症」p. 51~59, 医薬ジャーナル社, 大阪, 1986.

泉 孝英, 中沢次夫, 河合 健, 近藤有好編集, 小林節雄, 村尾 誠監修「アレルギー性肺疾患」南江堂, 1986. (分担執筆). 泉 孝英: アレルギー性肺疾患の診断方法, 気管支肺胞洗浄のアレルギー性肺疾患における診断学的意義, p. 83~86. Goodpasture 症候群, p. 123~126, 過敏性肺炎, 病態生理, 発症機序, p. 204~208. 特発性間質性肺炎, 発症機序, p. 255~261, サルコイドーシス, 診断, 病態生理—サルコイドーシスの発症機序, p. 299~306. 職業性肺疾患, 総論. p. 313, 過敏性肺炎, p. 324. 木野稔也: 抗原物質昆虫, p. 11~14, アレルギー性気管支肺アスペルギルス症, p. 135~142. 藤村直樹: イソシアネートにする過敏性肺炎, p. 233~236. 珪肺症, 石綿肺, 慢性ベリリウム肺, p. 325~337.

北市正則: アレルギー性肺疾患の病理, p. 63~82.

泉 孝英, 古江増裕: 免疫学的検査法 白石 透編「呼吸器疾患診療の実際」p. 50~59, 文光堂, 東京, 1986.

門 政男: 気管支—肺胞洗浄 (BAL), 古瀬清行, 福岡正博, 人見滋樹編「気管支ファイバースコピーの実際」, p. 133~137, 金芳堂, 京都, 1986.

Itoh, H., Todo, G., Murata, K., Nakano, Y., Senda, M., Yonekura, Y., Torizuka, K., Itoh, T., Furuta, M., Kanaoka, M., Asamoto, H., Nishida, H., Tokunaga, S., Izumi, T., Kitaichi, M., Nishimura, K., Oshima, S.: Recent progress of chest imaging. Hayaishi, O., Torizuka, K. ed. Biomedical imaging. p. 249~271. Academic Press Inc. New York. 1986,

中島道郎: 山での病気とけが. 山洋社, 東京, 1986.

Asamoto, H: Histologic and immunologic changes in NOD mice. Tarai S et al. ed. Insalitis and typel diabetes—Lessons from the NOD mouse. Academic press, p. 61~71, 1986.

## 〔総 説〕

大島駿作, 北市正則: 結核性リンパ節炎, 臨床と研究, 63 (10): 3173~3177, 1986.

大島駿作, 荏原順一, 黒住真史: マクロファージの機能, 肺胞マクロファージを中心として. 検査と技術, 14 (12): 1246~1250.

大島駿作, 長井苑子: 特集「免疫抑制療法—そのメカニズムと治療の進歩」呼吸器疾患. 最新医学, 41 (11): 2585~2587, 1986.

泉 孝英: 「ステロイド剤の臨床」サルコイドーシス, Medical Companion, 6 (4): 529~534, 1986.

泉 孝英: 特集「呼吸器疾患—最近の診断・研究をめぐって」気管支肺胞洗浄の臨床的・病態生理学的意義. 最新医学, 41 (6): 1292~1302, 1986.

泉 孝英: 臨床診断図解Ⅶ サルコイドーシス (70歳以上の高齢サルコイドーシス) 内科, 58 (1): 152~156, 1986.

泉 孝英：今月の主題「呼吸器と免疫・アレルギー」呼吸器と免疫・アレルギー. *medicina*, 23 (7) : 1116～1119, 1986.

泉 孝英：今月の主題「呼吸器と免疫・アレルギー」アレルギー性肺疾患の分類. *medicina*, 23 (7) : 1160～1161, 1986.

泉 孝英, 長井苑子, 竹内 実, 渡辺和彦, 北市正則：今月の主題「呼吸器と免疫・アレルギー」気管支肺胞洗浄. *medicina*, 23 (7) : 1166～1171, 1986.

泉 孝英, 田中 茂, 長井苑子：Current topics「呼吸器疾患領域におけるグルココルチコイド」, *medicina*, 23 (7) : 1259～1270, 1986.

泉 孝英, 長井苑子：「臨床検査の最前線」呼吸器疾患における BAL の診断学的意義. *内科*, 58 (3) : 688～690, 1986.

泉 孝英, 長井苑子：講座「病気の生化学」(CXXIV) 肺サルコイドーシス. *代謝*, 23 (9) : 837～845, 1986.

泉 孝英：サルコイドーシスの免疫学. *抗研誌*, 37 (3.4 新津泰孝教授退官記念号) : 53～62, 1986.

泉 孝英：夏型過敏性肺臓炎の病因をめぐって. *感染・炎症・免疫*, 16 (4) : 217～224, 1986.

泉 孝英：特集「肺」肺の損傷と修復：肺炎から肺線維症. *臨床検査*, 31 (2) : 147～153, 1987.

泉 孝英：特大号「機能検査法の進歩—その選択と評価—」気管支肺胞洗浄液 (BALF) 検査. *診断と治療*, 75 (3) : 598～599, 1987.

Izumi, T (ed.): *Sarcoidosis. Clinics in Dermatology*, 4 (4), 1986.

11. Pathology of pulmonary sarcoidosis (Kitaichi M.), 108～115, 12. Activity of pulmonary sarcoidosis (Izumi, T.), 116～120, 17. Sarcoidosis in various organs (Izumi, T.), 150～153.

泉 孝英：薬剤誘起性肺臓炎. *日本臨牀* 1987春季増刊 (555), 広範囲症候群 新訂版 : 420, 1987.

木野稔也, 荏原順一, 福田康二：今月の主題「呼吸器と免疫・アレルギー」・肺真菌症. *medicina*, 23 (7) : 1144～1146, 1986.

木野稔也：今月の主題「呼吸器と免疫・アレルギー」アレルギー性気管支肺アスペルギルス症. *medicina*, 23 (7) : 1192～1194, 1986.

Kino, T: The roles of insect inhalant allergens in respiratory allergic diseases. in *Internal Medicine Today and Tomorrow* (Oda, T., Hamaguchi, K., Homma, M., and Kawai, C., eds.), pp. 94～98, Elsevier Science Publishers B.V., The Netherlands, 1986.

荏原順一, 木野稔也：今月の主題「呼吸器と免疫・アレルギー」好酸球性肺炎. *medicina* 23 (7) : 1188～1190, 1986.

荏原順一：今月の主題「呼吸器と免疫・アレルギー」薬剤性肺臓炎. *medicina*, 23 (7) : 1212～1213, 1986.

長井苑子：BALF 細胞の動態 マクロファージ 最新医学 41(6) : 1303～1321, 1986.

長井苑子：今月の主題「呼吸器と免疫・アレルギー」Ⅳ型アレルギーを基盤とする疾患 サルコイドーシス *medicina*, 23 (7) : 1184～1185, 1986.

西村浩一, 泉 孝英：「薬物療法の実際—処方例とその解説」びまん性汎細気管支炎. *治療*, 67 (2), 353～354, 1985.

西村浩一, 北市正則, 泉 孝英, 伊藤春海：胸部の CT「肺末梢病変の CT 像と伸展固定肺標本との比較検討」. *臨床放射線* 31 (11) : 1345～1355, 1986.

藤村直樹：今月の主題「呼吸器と免疫・アレルギー」, 塵肺症. *medicina*, 23 (7) : 1196～1198, 1986.

今井弘行：今月の主題「呼吸器と免疫・アレルギー」Ig E (総 Ig E と特異的 Ig E). *medicina*, 23 (7) : 1162～1163, 1986.

伊藤春海, 村田喜代史, 千田道夫, 佐藤仁一, 米倉義晴, 鳥塚莞爾, 西村浩一, 泉 孝英, 大島駿作：特集「肺病変の新しい RI 診断法」新しい肺の換気検査法 —N-13 ガスを用いた Position Emission Tomography (PET)— 呼吸と循環. 35 (1) : 21～29, 1987.

伊藤春海, 岡岡正樹, 村田喜代史, 野間恵之, 西村浩一, 北市正則, 泉 孝英, 大島駿作, 人見滋樹, 伊藤剛, 浅本 仁, 古田睦広, 故倉 恵：びまん性肺疾患の CT 診断—総論—. *呼吸*, 6 (2) : 153～160, 1987.



## 〔原 著〕

木野稔也, 荏原順一, 古江増裕, 福田康二, 西村浩一, 藤村直樹, 松井祐佐公, 泉 孝英, 大島駿作, 今井弘行: 原因不明の PIE 症候群における臨床的アレルギー学的研究, 真菌に対する沈降抗体検出の意義. 日胸疾会誌, 24(6): 668~674, 1986.

門 政男, 泉 孝英, 長井苑子, 北市正則, 平田健雄, 大島駿作, 藤村直樹: びまん性肺疾患における BAL と TBLB の適応と限界. 気管支学, 8: 501~508, 1986.

松井祐佐公, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: 塵肺症における免疫グロブリン増加に関する臨床的および実験的検討. 日胸疾会誌, 24(4): 361~370, 1985.

荏原順一, 木野稔也, 福田康二, 古江増裕, 西村浩一, 安場広高, 江村正仁, 三尾直士, 泉 孝英, 大島駿作, 黒住真史: PIE 症候群の成立機序に関する研究—気管支肺胞洗浄細胞所見による検討—. 日胸疾会誌, 24(10): 1105~1112, 1986.

西村浩一, 三尾直士, 古江増裕, 荏原順一, 門 政男, 泉 孝英, 大島駿作, 田中龍蔵, 曾我部康之, 浜川純一, 村田喜代史, 伊藤春海: Fuji Computed Radiography および X 線 CT を使用した SAB 像の検討. 気管支学, 8(2): 237~242, 1986.

竹内 実: びまん性汎細気管支炎症例における末梢血 Natural Killer 細胞活性に関する検討. 日胸疾会誌, 24(9): 959~969, 1986.

中島道郎, 安田 武: 植村直己氏の死因に関する一考察—その衣料システムの面から—. 登山医学, 5: 109~116, 86.

浅本 仁, 故倉 恵, 沢野哲重, 佐々木義行: ファモチジンのテオフィリンのクリアランスに及ぼす影響. 基礎と臨床, 20(9): 4763~4766, 1986.

浅本 仁, 故倉 恵: I 型糖尿病の骨髄移植による治療—実験モデルマウス (NOD) を用いて. 医療, 40(5): 413~416, 1986.

辻 重行, 大野聖子, 中山昌彦, 北市正則他: Colony stimulating factor 産生悪性胸膜中皮腫の一例. 肺癌, 26(2): 195~202, 1986.

澤野哲重: 肺結核症例における気管支肺胞洗浄細胞成分, 特にモノクローナル抗体を用いた細胞サブセットに関する検討. 京大胸部研紀要, 19(1・2): 80~92, 1986.

Murata, K., Itoh, H., Senda, M., Noma, S., Todo, G., Yonekura, Y., Nishimura, K., Izumi, T., Oshima, S., Torizuka, K.: Stripe sign in pulmonary perfusion scintigraphy: central pattern of pulmonary emphysema, work in progress. Radiology 160: 337~340, 1986.

富田由美子, 木津 啓, 木野稔也, 荒谷信一: フローサイトメトリーによるリンパ球サブセットの解析 CS-20 (昭和電工社製) と ORTHOSPECTRUM III による測定値の比較試験. 京大胸部研紀要, 19(1・2): 93~99, 1986.

梅枝愛郎, 松井 茂, 色川正貴, 片貝重之, 中沢次夫, 飯塚邦彦, 三浦 進, 笛木隆三, 小林節雄, 北市正則: 「蚕 (カイコ)」体成分の吸入に起因する過敏性肺炎 (養蚕肺症) の 1 例. 日胸疾会誌(7), 24: 804~809, 1986.

川勝純夫, 岸本 肇, 今井弘行, 佐藤篤彦: Radio immunoassay PRIST, Enzyme Immunoassay PRIST による血清 Ig E の正常値に関する研究. アレルギー, 35(4), 238~244, 1986.

Matsumoto, T., Mizutani, S., Nishimura, K., Oshima, S.: An enzyme-linked immunosorbent assay for desmosine. 京大胸部研紀要, 19(1・2): 9~22, 1986.

久保嘉雄, 村山尚子, 網谷良一, 倉沢卓也, 久世文幸, 荏原順一, 北市正則, 小笹晃太郎: 移動する浸潤影を呈し開胸肺生検で診断された Bronchiolitis Obliterans Organizing Pneumonia (BOOP) の 2 例. 日胸臨45(12): 1062~1071.

古田睦広, 伊藤 剛, 小原安喜子, 北市正則, 金岡正樹, 祖開克彦, 牧 和夫, 田中郁子, 横田博子, 吉村誠之, 徐 志堅, 溝 暁, 楠木秀和, 糸山光磨, 沢田茂夫: I 型 HSV を分離同定し得たヘルペス感染症病理解剖の 4 症例. 医療41(2): 129~134, 1987.

〔学会記録, 報告書, 会議録〕

大島駿作, 泉 孝英, 長井苑子: 気管支肺胞洗浄液中のマクロファージ, サブセットの研究—喫煙の影響について—. 昭和60年度日米医学協力計画報告書結核専門部会, p. 409~416, 1986.

大島駿作, 田村昌士: BAL か TBLB か, その適応と限界 (第9回日本気管支学会シンポジウムⅡ 座長コメント). 気管支学, 8(4): 475, 1986.

泉 孝英: 膠原病における肺病変. Minophagen Medical Review 31(4): 173~183, 1986.

泉 孝英, 長井苑子, 大島駿作: サルコイドーシス中年女子発症例の予後について. サルコイドーシス研究会誌, 5: 102~103, 1985.

泉 孝英, 長井苑子, 竹内 実, 北市正則, 渡辺和彦, 大島駿作, 沢野哲重, 三尾直士, 橋本圭司: 喫煙のサルコイドーシスに及ぼす影響に関する検討. サルコイドーシス研究会誌, 5: 104~105, 1985.

泉 孝英, 長井苑子, 北市正則, 竹内 実, 渡辺和彦, 大島駿作: 喫煙のサルコイドーシス症例の気管支肺胞洗浄液細胞所見に及ぼす影響に関する検討. 厚生省特定疾患問題性肺疾患調査研究班, 昭和60年度研究報告書. p. 219~225, 昭和61年3月.

泉 孝英, 長井苑子, 竹内 実, 北市正則, 大島駿作: 喫煙のサルコイドーシス症の発症, 進展に及ぼす影響に関する検討—喫煙の BALF 細胞所見に及ぼす影響—. 昭和60年度喫煙と健康に関する研究報告, p. 409~413, 喫煙科学研究財団, 昭和61年4月.

泉 孝英: 肺の肉芽腫. 厚生省特定疾患系統的脈管障害調査研究班, 昭和61年度第一回シンポジウム報告書, p. 24~28, 1986.

長井苑子: BALF 細胞からみた過敏性肺炎の免疫学的考察. 第24回 FLD シンポジウム No. 4, 呼吸, 5(7): 805~813, 1986.

長井苑子: 4. サルコイドーシスの活動度の評価および病態生理検討方法としてのモノクローナル抗体の応用 第61回結核病学会シンポジウム, 結核および周辺疾患の免疫学的背景, モノクローナル抗体によるリンパ球, 単球サブセットの解析. 結核 61(9): 481~484, 1986.

岸本育子, 安原真人, 谷川原祐介, 奥村勝彦, 堀口了平, 川勝一雄, 西村浩一, 川合 満, 千熊正彦, 山岡清: 点滴静注時における Theophylline の Population Pharmacokinetics. 臨床薬理, 17(1): 81~82, 1986.

中島道郎, 橋本圭司, 浜本康平, 岡田英彦, 谷口隆司ほか31名: 京都市ならびに近郊における在宅酸素療法患者の実態. 厚生省特定疾患呼吸不全調査研究班, 昭和60年度研究報告, p. 235~238.

〔学会, 研究会発表〕

大島駿作: 特別講演「呼吸器疾患と肺胞マクロファージ」第50回日本胸部疾患学会東海地方会 (61. 11. 30).

泉 孝英, 長井苑子, 西村浩一, 松井祐佐公, 大島駿作: 特発性間質性肺炎, 肺気腫症例における末梢血単核細胞の NK 細胞活性と Leu -7<sup>+</sup> 細胞%, Leu -11<sup>+</sup> 細胞%に関する検討. 第83回日本内科学会講演会 (61. 4. 4).

泉 孝英: パネルディスカッション「COPD をどのように把握すべきか」. 4. 慢性気管支炎, 細気管支炎. 第26回日本胸部疾患学会総会 (61. 4. 8).

泉 孝英, 長井苑子, 竹内 実, 北市正則, 渡辺和彦, 大島駿作, 沢野哲重, 三尾直士, 橋本圭司: 喫煙の健康人およびサルコイドーシス症例における BALF 細胞所見に及ぼす影響に関する検討. 第26回日本胸部疾患学会総会 (61. 4. 7).

Izumi T: Chronic beryllium disease in Japan. Chronic Beryllium Disease. A diagnostic workshop (1986. 5. 8. Cleveland).

泉 孝英, 長井苑子, 竹内 実, 北市正則, 大島駿作: 喫煙のサルコイドーシス症の発症, 進展に及ぼす影響に関する検討—喫煙の BALF 細胞所見に及ぼす影響—. 第1回喫煙と健康に関する研究発表会 (61. 7. 18).

泉 孝英: シンポジウム「サルコイドーシスをめぐって」難治化の要因—難治症例から—. 第28回 FLD シンポジウム (61. 9. 6).

Izumi, T., Nagai, S.: Spontaneous immunoglobulin secreting cells in BALF as an indicator of the evaluation of activity and the prediction of prognosis in idiopathic pulmonary fibrosis.. Markfield symposium on interstitial lung disease: pulmonary fibrosis (1986. 10. 21. Chicago).

泉 孝英, 長井苑子, 竹内 実, 渡辺和彦, 北市正則, 三尾直士, 江村正仁, 大島駿作, 沢野哲重, 橋本圭司, 藤村直樹: サルコイドーシスにおける BALF 細胞所見と予後—健康診断発見例における検討—. 第6回サルコイドーシス研究会総会 (61. 10. 17).

泉 孝英: 報告 Markfield symposium on interstitial lung disease: Pulmonary fibrosis, 第35回間質性肺疾患研究会 (61. 11. 21).

泉 孝英, 西村浩一, 長井苑子, 竹内 実, 渡辺和彦, 北市正則, 三尾直士, 江村正仁, 大島駿作, 健康人喫煙者の BAL 細胞所見と肺気腫症例における喫煙状態. 第34回閉塞性肺疾患研究会 (62. 1. 25).

泉 孝英, 長井苑子, 竹内 実, 北市正則, 平田健雄, 大島駿作, 藤村直樹: 特発性間質性肺炎症例における BALF 活性化 B リンパ球測定の臨床的, 病態生理学的意義に関する検討. 昭和61年度厚生省特定疾患間質性肺疾患調査研究班々会議 (62. 2. 13).

泉 孝英: 特発性間質性肺炎と膠原病性間質性肺炎. 第24回肺の免疫と代謝の研究会 (62. 2. 21).

木野稔也, 福田康二, 荏原順一, 大島駿作: 昆虫による気管支喘息のアレルギー学的研究(Ⅷ)大気中に浮遊する昆虫抗原のアレルギー学的検出と季節的変動の観測. 第26回日本胸部疾患学会総会 (61. 4. 8).

木野稔也, 福田康二, 荏原順一, 大島駿作: アレルギー学的測定法による大気中に浮遊する昆虫抗原量の季節的消長の観測. 第36回日本アレルギー学会総会 (61. 10. 25).

門 政男, 泉 孝英, 長井苑子, 北市正則, 平田健雄, 大島駿作, 藤村直樹: シンポジウムⅡ, びまん性間質性肺疾患における BAL と TBLB の適応と限界. 第9回日本気管支学会総会 (61. 7. 15).

門 政男, 小山 弘, 川谷暁夫, 小沢佳広, 三尾直士, 江村正仁, 松井祐佐公, 泉 孝英, 大島駿作: 集団検診および自覚症状で発見された肺癌の年代別比較検討. 第27回日本肺癌学会総会 (61. 10. 30).

門 政男, 荏原順一, 平田健雄, 松井祐佐公, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: 化学療法中, 多発性結節状の胸膜肥厚を認めた結核性胸膜炎の1例. 第58回日本結核病学会近畿地方会 (61. 11. 15).

松井祐佐公, 田中 茂, 朝枝哲也, 佐竹範夫, 榎原利恵子, 西村浩一, 福田康二, 荏原順一, 長井苑子, 北市正則, 平田健雄, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: 肺癌患者における CA-15-3 の検討. 第26回日本胸部疾患学会総会 (61. 4. 8).

松井祐佐公, 西村浩一, 長井苑子, 泉 孝英, 大島駿作: 特発性間質性肺炎, 膠原病性間質性肺炎における血清中 CEA-Z, CA19-9, IAP の検討. 第26回日本胸部疾患学会総会 (61. 4. 8).

松井祐佐公: 当教室肺癌における治療成績と将来の展望. 第6回京都呼吸器疾患シンポジウム (61. 8. 10).

松井祐佐公, 小山 弘, 川谷睦夫, 小沢佳広, 三尾直士, 安場広高, 江村正仁, 西村浩一, 福田康二, 長井苑子, 荏原順一, 北市正則, 平田健雄, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: 当教室17年間の肺癌の軌跡—特に治療内容と予後について—. 第27回日本肺癌学会総会 (61. 10. 30).

平田健雄: DPB における喀痰中のマイコプラズマとインフルエンザ菌の治療学的立場からの研究. 第6回びまん性汎細気管支炎をめぐる研究会 (62. 2. 14).

北市正則: 報告「DPB とその周辺疾患をめぐる米欧の見解」第6回びまん性汎細気管支炎をめぐる研究会 (62. 2. 14).

荏原順一, 木野稔也, 福田康二, 石江増裕, 泉 孝英, 大島駿作: PIE 症候群の成立機序に関する免疫学的考察—肺好酸球の Hypodense eosinophil と Hypersegmented nuclei の観察を中心に—. 第26回日本胸部疾患学会総会 (61. 4. 9).

荏原順一, 木野稔也, 福田康二, 石江増裕, 三尾直士, 泉 孝英, 大島駿作: PIE 症候群症例の骨髓像に関する検討. 第26回日本胸部疾患学会総会 (61. 4. 9).

荏原順一, 木野稔也, 福田康二, 泉 孝英, 大島駿作: ECF-A, ヒスタミンによる, PIE 症候群の肺好酸球の特徴—核の Hypersegmentation—の in vitro における誘導について. 第14回日本臨床免疫学会総会 (61. 6. 19).

荏原順一, 木野稔也, 福田康二, 西村浩一, 松井祐佐公, 門 政男, 泉 孝英, 大島駿作: Semi-invasive

pulmonary aspergillosis の1例. 第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (61.6.28)

J., Chihara, Kino, T., Yasuba, H., Furue, M., Fukuda, K., Izumi, T., Oshima. S.: Increases of pulmonary hypodense eosinophils and eosinophils with hypersegmented nuclei in patients with PIE syndrome. Workshop f eosinophil in immunological reactions. IVth International Congress of Immunology. (1986.7.10).

荏原順一: シンポジウム「好酸球とその動態」PIE 症候群の成立機序. 第2回肺と免疫研究会 (61.9.6).

荏原順一: シンポジウム「アレルギー反応における細胞間相互作用—顆粒球, 血小板を中心にして」座長指名発言, PIE 症候群の好酸球. 第36回日本アレルギー学会総会 (61.10.25).

荏原順一, 木野稔也, 福田康二, 安場広高, 榎原利恵子, 泉 孝英, 大島駿作: 気管支喘息患者の好中球のヒト肺線維芽細胞に対する cytotoxicity についての検討. 第36回日本アレルギー学会総会 (61.10.23).

荏原順一, 木野稔也, 福田康二, 古江増裕, 安場広高, 泉 孝英, 大島駿作: PIE 症候群における肺好酸球の特徴—hypodense eosinophil と hypersegmented nudei—の各種 chemotactic agents による in vitro の誘導について. 第36回日本アレルギー学会総会 (61.10.23).

荏原順一, 木野稔也, 福田康二, 泉 孝英, 大島駿作: in vitro にて誘導した hypodense eosinophil の cytotoxicity についての検討. 第36回日本アレルギー学会総会 (61.10.23).

荏原順一, 松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 大石賢二: 胸部異常陰影を呈し,  $\alpha_2$ -macroglobulin 欠損症を伴った前立腺癌の一例. 第27回日本肺癌学会総会 (61.10.30).

荏原順一, 安場広高, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: 肺結核症患者の肺胞マクロファージの cytotoxicity に関する検討. 昭和61年度日米医学協力計画結核部会研究会 (62.2.24).

荏原順一, 木野稔也, 福田康二, 安場広高, 大島駿作: 好酸球性肺炎 (PIE 症候群) 症例血清の好酸球におよぼす作用について. 第7回臨床アレルギー研究会 (62.3.7).

長井苑子: シンポジウム「結核および周辺疾患の免疫学的背景—モノクローナル抗体によるリンパ球, 単球サブセットの解析」サルコイドーシスの活動度の評価および病態生理学的検討方法としてのモノクローナル抗体の応用. 第61回結核病学会総会 (61.4.).

長井苑子, 泉 孝英, 竹内 実, 渡辺和彦, 北市正則, 大島駿作: 肺胞マクロファージの immunoregulatory function に関する検討. 第26回日本胸部疾患学会総会 (61.4.9).

Nagai, S., Izumi, T.: Immunological findings, especially BALF findings and pathogenesis in chronic beryllium disease Chronic Beryllium Disease A diagnostic workshop (1986.5.7 Cleveland).

長井苑子, 泉 孝英, 竹内 実, 北市正則, 荏原順一, 渡辺和彦, 大島駿作: 慢性ベリリウム肺 (CBD) の BALF 細胞所見—特にサルコイドーシスとの鑑別について—. 第36回アレルギー学会総会 (61.10.17).

長井苑子: シンポジウム「サルコイドーシスをめぐって」追加発言 アンギオテンシンⅡの BALF マクロファージの accessory function におよぼす影響. 第28回 FLD シンポジウム (61.9.6)

長井苑子, 泉 孝英, 竹内 実, 渡辺和彦, 平田健雄, 江村正仁, 三尾直士, 大島駿作: Angiotensin Ⅱ のサルコイドーシス症例における BALF マクロファージおよび末梢血単球の accessory function に及ぼす影響について. 第6回サルコイドーシス研究会総会 (61.10.17).

長井苑子: シンポジウム「肺疾患診断のトピックス」BALF. 第66回国際胸部医学会日本支部会定期講演会 (62.3.14).

西村浩一, 松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 松本隆志: ELISA による尿中デスモン排出量測定についての検討. 第26回日本胸部疾患学会総会 (61.4.8).

西村浩一, 泉 孝英, 北市正則, 三尾直士, 長井苑子, 荏原順一, 松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 大島駿作, 村田喜代史, 伊藤春海, 藤村直樹: X 線 CT 像と剖検肺所見との対比—特発性間質性肺炎, 膠原病肺8例の検討—. 第26回日本胸部疾患学会総会 (61.4.9).

西村浩一, 泉 孝英, 三尾直士, 北市正則, 松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 大島駿作: 肺野陰影を伴った気管支拡張症と考えられた5例—X 線 CT 像の検討—. 第5回びまん性汎細気管支炎をめぐる研究会 (61.7.5).

西村浩一, 三尾直士, 安場広高, 江村正仁, 福田康二, 長井苑子, 荏原順一, 北市正則, 平田健雄, 松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 村田喜代史, 伊藤春海: 気道閉塞を示す疾患における肺の内外層疾患変分布についての検討. 第9回日本気管支学会総会 (61.7.15).

西村浩一, 泉 孝英, 福田康二, 長井苑子, 荏原順一, 北市正則, 平田健雄, 松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 大島駿作, 村田喜代史, 伊藤春海: 慢性肺気腫・びまん性汎細気管支炎における肺の内外層疾患分布についての比較検討. 第33回閉塞性肺疾患研究会 (61. 8. 3).

西村浩一, 荏原順一, 北市正則, 松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 村田喜代史, 伊藤春海: 癌性リンパ管症の X 線 CT 像と剖検肺所見との比較検討. 第27回日本肺癌学会総会 (61. 10. 30).

西村浩一, 泉 孝英, 長井苑子, 荏原順一, 北市正則, 門 政男, 大島駿作, 村田喜代史, 伊藤春海, 本田和徳, 藤村直樹: サルコイドーシス X 線 CT 像 (high resolution CT 像) の検討および伸展固定肺標本との対比. 第6回サルコイドーシス研究会総会 (61. 10. 17).

西村浩一, 平田健雄, 松井祐佐公, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 渡部良広, 松本隆志: ELISA 法を使用した肺気腫患者血清中デスモンシン量測定についての検討. 第34回閉塞性肺疾患研究会 (62. 1. 25).

福田康二, 荏原順一, 木野稔也, 大島駿作: 気管支喘息患者の末梢血好中球機能 (ルミノール依存性化学発光) についての検討. 第36回日本アレルギー学会総会 (61. 10. 23).

福田康二, 木野稔也, 荏原順一, 安場広高, 小沢佳広, 川谷暁夫, 小山 弘, 三尾直士, 江村正仁, 西村浩一, 長井苑子, 北市正則, 平田健雄, 松井祐佐公, 門 政男, 泉 孝英, 大島駿作: 毎年同時期に発症を繰り返すアレルギー性気管支肺真菌症の1例. 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (61. 11. 15).

安場広高, 江村正仁, 荏原順一, 松井祐佐公, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作: 副心臓支 (accessory cardiac bronchees) の4例. 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会.

竹内 実, 泉 孝英, 西村浩一, 長井苑子, 渡辺和彦, 大島駿作: びまん性汎細気管支炎症例における末梢血 NK 細胞活性低下の機序に関する検討. 第26回日本胸部疾患学会総会 (61. 4. 7).

竹内 実, 泉 孝英, 長井苑子, 渡辺和彦, 北市正則, 大島駿作: 喫煙の肺の NK 細胞に及ぼす影響について一健康人, 非喫煙者および喫煙者の BALF 細胞を用いての検討一. 第14回日本臨床免疫学会総会 (61. 6. 20).

竹内 実, 泉 孝英, 長井苑子, 渡辺和彦, 大島駿作: 喫煙の末梢血 NK 細胞に及ぼす影響について. 第36回日本アレルギー学会総会 (61. 10. 23).

小山 弘, 西村浩一, 長井苑子, 北市正則, 平田健雄, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 金岡正樹, 伊藤春海: BHL を伴って蜂窩肺像を示した慢性の間質性肺炎の1例. 第35回びまん性肺疾患研究会 (61. 12. 6).

小山 弘, 西村浩一, 北市正則, 泉 孝英, 金岡正樹: 砥石製造従事者にみられたびまん性間質性肺炎 (UIP) の1例. 日本産業衛生学会近畿地方会第28回じん肺研究会 (62. 3. 14).

川谷暁夫, 北市正則, 西村浩一, 長井苑子, 泉 孝英, 大島駿作, 金岡正樹, 島田一恵: 肉芽腫性病変により BHL と両肺野のびまん性陰影を呈したガラス原料溶解工の1例. 産業衛生学会近畿地方会, 第28回じん肺研究会 (62. 3. 14).

中島道郎, 浜本康平, 岡田英彦, 橋本圭司, 谷口隆司, 河原崎茂孝: 気管支喘息に対する金ゾル療法の検討. 第26回日本胸部疾患学会総会 (61. 4. 9).

中島道郎, 斎藤淳生, 松林公蔵: 高所登山における肺機能の変化. 第6回日本登山医学シンポジウム (61. 5. 31).

中島道郎, 浜本康平, 岡田英彦, 橋本圭司, 谷口隆司, 河原崎茂孝: 関西地域における酸素濃縮装置の現況について. 厚生省特定疾患呼吸不全調査研究班. 昭和61年度第2回総会 (61. 12. 26).

中島道郎, 浜本康平, 岡田英彦, 橋本圭司, 谷口隆司, 河原崎茂孝: 京都市ならびに近郊における在宅酸素療法患者の実態 (第2報). 厚生省特定疾患呼吸不全調査研究班. 昭和61年度第2回総会 (61. 12. 26).

Nakashima, M., Saito, A., Matsubayashi K.: Platelet aggregability and prostaglandin metabolites at high altitude: The 5th International Hypoxia Symposium (1987. 2. 10).

福岡謙助: 各臓器を支配する迷走神経間の拮抗作用の検討. 第23回日本小児アレルギー学会 (61. 11. 7).

福岡謙助, 滝野増市, 滝野義忠: EIA の研究 (第4報) 気管支収縮性迷走神経, 心臓迷走神経, 蠕動促進神経の相互拮抗作用と運動誘発喘息の関係について. 第36回日本アレルギー学会総会 (61. 10. 23).

中山昌彦: 「肺癌治療の進歩と反省」一腫瘍発育速度よりみた肺癌治療の効果判定について一. 第6回京都呼吸器疾患シンポジウム (61. 8. 9).

今井弘行, 鏑田利恵子, 楠田 馨, 西村浩一, 長井苑子, 北市正則, 泉 孝英, 大島駿作: 第36回びまん性肺疾患研究会 (62. 2. 28).

藤村直樹, 白川太郎, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 北市正則, 長井苑子, 泉 孝英, 享野洋子: アルミニウムに対し, リンパ球刺激テスト陽性を示した溶接フラックス取り扱い者にみられたびまん性間質性肺炎の一症例. 第36回日本アレルギー学会総会 (61. 10. 23).

Fujimura N: Diagnosis of occupational lung diseases by bronchoalveolar lavage. The 3rd Korea-Japan Joint Conference on Occupational Health. (Masan 1986. 5. 16).

藤村直樹, 田中 茂, 川添隆司, 白川太郎, 梅宮正志, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 後藤研三, 吉岡卓治, 小林正直, 千福貞治: びまん性肺散布影を伴った結核性腹膜炎の1症例. 第58回日本結核病学会近畿地方会 (61. 11. 15).

橋本圭司, 谷口隆司, 河原崎茂孝, 岡田英彦, 浜本康平, 中島道郎: 一側肺動脈閉塞下肺胞洗浄などを用い繰返し肺胞洗浄を行った肺胞タンパク症の一例. 第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (61. 6. 28).

渡辺和彦, 泉 孝英, 長井苑子, 竹内 実, 三尾直士, 江村正仁, 北市正則, 大島駿作: 喫煙の BALF 細胞, 末梢血細胞に及ぼす影響に関する検討. 第36回日本アレルギー学会総会 (61. 10. 24).

田中 茂, 梅宮正志, 川添将司, 白川太郎, 森川敏男, 藤村直樹, 市川季男, 加藤幹夫, 日置辰一郎: 結核菌陽性の肺結核におけるツ反応検討. 第55回日本結核病学会近畿地方会 (61. 6. 28).

田中 茂, 松井祐佐公, 福田康二, 西村浩一, 長井苑子, 荻原順一, 北市正則, 平田健雄, 門 政男, 木野稔也, 泉 孝英, 大島駿作, 山下純宏, 飯田寛和, 佐々木義行: 孤立性形質細胞膜の術後3年で続発した IgM  $\lambda$  type の多発性形質細胞腫 (肋骨, 頭蓋骨, 頸椎, 腰椎, 大腿骨) の1症例. 第58回日本胸部疾患学会近畿地方会 (61. 11. 15).

田中 茂, 梅宮正志, 川添隆司, 白川太郎, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎: リンパ球刺激テストによりセファゾリン (CEZ) による薬剤誘起性肺臓炎と推定された1例. 第58回日本胸部疾患学会近畿地方会 (61. 11. 15).

田中 茂, 梅宮正志, 川添隆司, 白川太郎, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 鈴木康弘: 血中 VIP 高値を伴い, WDHA 症候群を呈した肺小細胞癌の1例. 第43回日本肺癌学会関西支部会.

川添将司, 白川太郎, 藤村直樹, 高田範男, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 北市正則, 泉 孝英, 土井俊夫, 末広文彦: びまん性肺出血の1症例—肺, 腎生検とその免疫抗体法による検討—. 第58回日本胸部疾患学会近畿地方会 (61. 4. 8).

川添隆司, 田中 茂, 梅宮正志, 白川太郎, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 鈴木康弘: Malignant schwannoma びまん性肺転移と考えられた一症例. 第58回日本胸部疾患学会近畿地方会 (61. 11. 15).

川添隆司, 田中 茂, 梅宮正志, 白川太郎, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 木野稔也: 経気管支鏡的空洞内アンフォテリシン B 注入による肺アスペルギローマの2治療例. 第58回日本胸部疾患学会近畿地方会 (61. 11. 15).

白川太郎, 藤村直樹, 日下幸則, 後藤 稔, 田代 実, 佐藤 隆, 中野エミ子: 超硬合金喘息のアレルギー学的検討. 第36回日本アレルギー学会総会 (61. 10. 23).

白川太郎, 田中 茂, 川添隆司, 梅宮正志, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 日下幸則, 市川陽子, 後藤 稔: 超硬合金喘息の原因物質の検討(Ⅲ). 第27回日本胸部疾患学会近畿地方会 (61. 6. 20).

白川太郎, 田中 茂, 川添隆司, 梅宮正志, 藤村直樹, 加藤幹夫, 日置辰一郎, 鈴木克洋, 三尾直士, 川合満, 泉 孝英: 気道過敏性測定法の比較検討. 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (61. 11. 15).

白川太郎, 日下幸則, 藤村直樹, 後藤 稔, 加藤幹夫, 日置辰一郎: 超硬合金喘息の原因物質の検討. 第26回産業衛生学会 (61. 4. 8).

河北誠三郎, 藤村直樹, 白川太郎, 梅宮正志, 川添隆司, 田中 茂, 加藤幹夫, 日置辰一郎: 若年性リュウマチ様関節炎に合併し, 心タンポナーデを呈した結核性心膜炎の1例. 第57回結核病学会近畿地方会 (61. 6. 28).

河北誠三郎, 藤村直樹, 白川太郎, 梅宮正志, 川添隆司, 田中 茂, 加藤幹夫, 日置辰一郎: 血性心嚢液で心タンポナーデを呈した結核性心膜炎の1例. 第58回結核病学会近畿地方会 (61. 11. 15).

山岡新八, 栗山隆信, 平井正志, 大井元晴, 陳 和夫, 久野健志, 佐川弥之助, 西村浩一, 米倉義晴, 鳥塚完爾: 肺性心の病態評価 ( $^{201}\text{Tl}$  心筋ミニ 4SPECT の導入). 第26回日本胸部疾患学会総会 (61. 4. 8).

伊藤春海, 村田喜代史, 藤堂義郎, 鳥塚莞爾, 泉 孝英, 北市正則, 西村浩一, 大島駿作, 人見滋樹, 久世文幸: シンポジウム「気管・気管支の画像診断の進歩」CT によるびまん性肺病変の解析—気管支・血管系を中心に—. 第9回日本気管支学会総会 (61. 7. 15).

山岡新八, 栗山隆信, 平井正志, 久野健志, 西村浩一, 米倉義晴, 小出敏治: 慢性肺気腫とびまん性汎細気管支炎の肺性心と肺循環諸量に関する検討. 第33回閉塞性肺疾患研究会 (61. 8. 3).

千熊正彦, 門 政男, 泉 孝英他: クロマズロール S を用いる気管支肺胞洗浄液中のアルブミンの蛍光定量. 日本分析化学会第35年会 (61. 10. 11).

千熊正彦, 門 政男, 泉 孝英他: クロマズロール S を用いる微量アルブミンの蛍光定量, 気管支肺胞洗浄液への応用. 第36回日本薬学会近畿支部大会 (61. 11. 1).

### 〔そ の 他〕

大島駿作: 健康と肺. 舞鶴市老人福祉センター健康講座 (61. 3. 23).

大島駿作: びまん性肺疾患の臨床. 第14回静岡胸部疾患懇談会 (61. 5. 17).

大島駿作: びまん性肺疾患の臨床. 西京医師会呼吸器疾患講演会 (61. 7. 9).

泉 孝英: 特発性間質性肺炎の概念, 診断, 治療. 名大一内, 二内合同呼吸器勉強会 (61. 4. 24).

泉 孝英: 肺の肉芽腫. 厚生省特定疾患系統的脈管障害調査研究班. 昭和61年度ゼミ公開シンポジウム特別講演 (61. 6. 13).

泉 孝英: 慢性呼吸器感染症について. 宇治久世医師会学術講演会 (61. 6. 25).

泉 孝英: 夏型過敏性肺臓炎. 日本短波放送「診療手帖」(61. 8. 14).

泉 孝英: 職業性アレルギー研究会特別企画「アレルギー性疾患の診断・治療の進歩」間質性肺疾患の診断と治療 (61. 9. 13).

泉 孝英: びまん性汎細気管支炎・閉塞性肺疾患. 京都呼吸器医会 (61. 9. 26).

泉 孝英: アレルギー性肺疾患. 科研生薬社員研修会 (61. 11. 4).

泉 孝英, 西村浩一: 閉塞性肺疾患. 浜松医大第二内科呼吸器セミナー (61. 11. 20).

泉 孝英: びまん性汎細気管支炎. 慢性閉塞性肺疾患—気管支喘息との鑑別点と問題点. 第22回大分喘息懇話会 (61. 11. 29).

泉 孝英: びまん性肺疾患の鑑別診断・下関市医師会学術講演会 (61. 12. 10).

泉 孝英: 免疫情報. 医学文摘 (内部参考資料) 40: 35~40, 大連市第一人民医院, 1985年6月.

泉 孝英: 日本結核病の現状と対策. 中華防疫通説, 8(3): 43~46, 1986.

泉 孝英: 慢性気道感染症の診断と治療. 門真市医師会 (62. 1. 15).

泉 孝英: 膠原病肺. 医科学大事典, Suppl 3, 最新の医療情報, 1987, p. 42~47, 講談社, 1986.

泉 孝英: サルコイドーシスと IPF. 大津赤十字病院内科カンファレンス (62. 1. 21)

泉 孝英: わだい「気管支肺胞洗浄法」. Medical Technology, 15(3): 206~207, 1987.

Izumi, T.: COPD in Japan, Special lecture in Siriray Hospital, Mahidol University, Bangkok (1987. 3. 10).

Izumi, T.: Diffuse panbronchiolitis, Special lecture in Tan Tock Seng Hospital, Singapore (1987. 3. 16).

木野稔也: 気管支喘息の成因と治療における最近の知見—学術講演会要旨—. 北医師会報, 第37号: 22~23, 1986.

木野稔也: 診察室「気管支喘息とロイコトリエンについて」. 京都医報, 第1174号: 14, 1986.

木野稔也: 昆虫による気管支喘息についての最近の知見. 第15回京滋アレルギー研究会 (61. 8. 31).

木野稔也: 気管支喘息の成因と治療における最近の知見. 京都市北区医師会学術講演会 (61. 8. 27).

木野稔也: 大気中に浮遊する 10  $\mu$ m 以下の昆虫抗原 (蝶, 蛾, トビケラ, ユスリカ) の免疫学的測定方法について, 第3回ユスリカアレルギー研究班連絡会議 (61. 10. 22).

木野稔也: 炎症と気管支喘息・アレルギー. サンド薬品講演会 (61. 12. 8).

松井祐佐公：肺癌の診断—特に胸部 X 線像を中心にして—, 京都市左京医師会学術講演 (61.7.19).

松井祐佐公：特別講演「肺癌の治療成績の現況と将来の展望」, 第28回滋賀呼吸器疾患談話会 (62.3.7).

松井祐佐公：肺癌の診断. 左京医報, 21(6) : 16~19, 1986.

Kitaichi, M.: Diffuse panbronchiolitis(DPB) and some related pulmonary disorders. Zentrum d. Inneren Meidzin Klinikum der Johann Wolfgang Goethe-Universität, Frankfurt am Main, West-Germany (61.9.8).

Kitaichi, M.: Diffuse panbronchiolitis(DPB) and some related pulmonary disorders, Robert-Koch-Klinik, Albert-Ludwigs-Universität, Freiburg, West-Germany (61.9.9).

Kitaichi, M.: Diffuse panbronchiolitis(DPB) and other airway disorders; a comparative pathological study, Ludwig-Aschoff-Haus, Pathologisches Institut, Albert-Ludwig-Universität, Freiburg, West-Germany (61.9.10).

Kitaichi, M.: Diffuse panbronchiolitis(DPB) and other airway disorders; a comparative pathological study. Institut für Pathologie der Berufsgenossenschaftlichen Krankenanstalten, "Bergmannsheil", Bochum-Universität-klinik, Bochum, West-Germany (61.9.16).

Kitaichi, M.: Diffuse panbronchiolitis(DPB) and other inflammatory airway disorders; a comparative pathological study. Pathologisches Institut der Stadtkliniken, Dortmund, West-Germany (61.9.19).

Kitaichi, M.: Diffuse panbronchiolitis. The Cardiothoracic Institute, Brompton Hospital, London, England (61.10.7).

北市正則：欧米における DPB についての検討. 碧翠会, 京都 (61.11.26).

北市正則：病理像からみたびまん性肺炎患. 第1回名古屋市立大学第2内科呼吸器談話会 (62.1.17).

北市正則：閉塞性細気管支炎を中心に. 第171回近中 Chest Conference, 国立療養所近畿中央病院 (61.1.22).

荏原順一：PIE 症候群の好酸球とその免疫学的機序について. 第7回秋田大学内科小児科合同アレルギー研究会 (61.12.5).

荏原順一：好酸球性肺炎における肺好酸球の特徴と免疫学的機序および PAF の作用について. 鹿児島大学内科講演会 (62.3.13).

長井苑子：“一冊の本” フォークナー短編集・Medicina 24(2) : 353, 1987.

西村浩一, 北市正則：第5回京都呼吸器疾患シンポジウム—Thomas V. Colloy 博士を迎えて—, 呼吸, 5(8) : 938~939, 1986.

竹内 実, 長井苑子, 泉 孝英：肺 NK 細胞の OK-432 による活性化. 第23回京滋腫瘍の免疫療法研究会(61.9.13).

日置辰一郎：論説「呼吸器疾患の動向と病院診療体制」. 日胸疾会誌, 24(8) : 825~826, 1986.

日置辰一郎：呼吸困難を主訴とする呼吸器疾患の診断と治療. 大阪保険医協会研究会 (61.11.26)

日置辰一郎：呼吸困難を主訴とする呼吸器疾患の診断と治療. 大阪保険医雑誌, 14(11) : 52~73, 1986.

チャールズ・S・ハウストン著, 中島道郎訳「高みをめざせ. 高所への挑戦の物語」, 「高山病—その2」. 岩と雪, 114 : 58~72, 1986. 「高山病—その3」. 岩と雪, 115 : 62~71, 1986. 「高所順応」. 岩と雪, 116 : 64~81, 1986. 「歴史—その1」. 岩と雪, 117 : 58~72, 1986. 「歴史—その2」. 岩と雪, 118 : 60~72, 1986. 「生理学—その1」. 岩と雪, 119 : 74~85, 1986.

中島道郎：喘息治療のコツ. 彦根医師会学術講演会, 彦根市 (86.11.22).

中島道郎：高所肺水腫について. 韓国山岳会登山医学講演会, 韓国ソウル市 (86.5.2).

中島道郎：高所肺水腫について. 啓明大学校文化祭招請講演会, 韓国テグ市 (86.5.3).

中島道郎：呼吸器感染症におけるタリビッドの効果について. 京都・滋賀タリビッド錠発売一周年記念講演会, 京都市 (86.12.13).

細田 裕, 泉 孝英, 岩井和郎, 平賀洋明, 三上理一郎, 山本正彦：座談会「サルコイドーシス」. 呼吸, 5(6) : 618~632, 1986.

螺良英郎, 泉 孝英, 長井苑子：座談会「呼吸器と免疫・アレルギー」. medicina 23(7) : 1214~1224, 1986.

久世文幸, 西村浩一：第4回京都呼吸器疾患シンポジウム記録. 呼吸, 5(3) : 355~356, 1986.



## 〔内科第二部門 主催講演会〕

Zwillich, C.W. (アメリカ, ペンシルベニア州立大内科教授) “The Treatment of Obstructive Lung Diseases in Practice” (61.9.18).

横山哲朗 (慶応大学医学部内科教授) “在宅酸素療法について” (61.10.4).

G. Rizzato (イタリア, ミラノ大内科助教授) “Respiratory Medicine in Italy” (61.11.6).

Shiu Yeh Yu (米セントルイス大, Veterans Administration Hospital) “Oxidants and Proteases in Lung Injury-Specific Reference to ARDS” (61.12.11).

## 胸 部 外 科 学 部 門

## 〔学 会 発 表〕

## シンポジウム・特別講演

寺松 孝：シンポジウム膿胸（司会）。第3回呼吸器外科研究会（61.5.23）。

倉田昌彦：肺癌を合併した胸腺腫（重症筋無力症）の1手術例。第3回【胸腺腫の生物学的的特性に関する研究】ワークショップ（61.4）。

池田貞雄：人工気管による気道再建の現況と将来（特別講演）。第9回日本気管支学会（61.7）。

人見滋樹：胸部悪性腫瘍に対する Adjuvant Surgery の現況と将来（特別講演）。第48回中部肺癌学会（61.7.5）。

人見滋樹：気管・気管支および肺生検の25年の経験（会長講演）。第9回日本気管支学会総会（61.7.15）。

人見滋樹：シネクリニック肺癌手術におけるリンパ節郭清術（座長）。第39回日本胸部外科学会総会（61.10.16）。

船津武志, 塙 健, 安田雄司, 榎堀 徹, 小鯖 覚, 宮本好博, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 池田貞雄：膿胸の治療方針とその成績（シンポジウム）。第3回日本呼吸器外科研究会（61.5）。

伊藤元彦, 瀧 俊彦：肺小細胞癌の外科療法——術前化学療法施行例の組織所見を中心に。第39回日本胸部外科学会総会パネルディスカッション・シンポ「肺小細胞癌の外科的治療（61.10）。

伊藤元彦：肺縦隔腫瘍。日本外科学会卒後教育セミナー「腫瘍マーカー」（シンポ）, (1986.11)。

松原義人, 畠中陸郎, 小鯖 覚, 安田雄司, 塙 健, 宮本好博, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄：人工気管による気道再建術（シネシンポジウム）。第86回日本外科学会総会（61.4）。

畠中陸郎, 塙 健, 安田雄司, 小鯖 覚, 宮本好博, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄：遠隔予後からみた肺癌外科治療の限界と将来（シンポジウム）。第29回日本胸部外科学会関西支部会（61.6）。

清水慶彦：気管気管支再建手術の基礎と臨床, 代用気管。第39回日本胸部外科学会総会シンポジウム（61.10）。

和田洋己, 千原幸司, 人見滋樹：慢性膿胸治療の問題点——胸部一横隔膜運動——呼吸機能の観点から。シンポジウム膿胸, 第3回日本呼吸器外科研究会, (61.5)。

田村康一, 青木 稔, 光岡明夫, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦：右開胸による肺癌縦隔リンパ節郭清術（シネクリニック）。第39回日本胸部外科学会総会（61.10）。

桑原正喜：肺癌の術後長期生存例。大阪から肺がんをなくす会シンポジウム（61.5）。

桑原正喜：バンコスト型肺癌。同上シンポジウム（61.11）。

小林 淳：無気肺陰影。同上シンポジウム（61.1）。

奥村典仁：肺のう胞症合併肺癌。同上シンポジウム（61.7）。

〔学 会 発 表〕

1. 腫 瘍

奥村典仁：slow growth を呈した肺癌の1例．第20回岐阜県肺癌研究会（61.1）．

伊藤元彦：肺小細胞癌の外科治療．厚生省がん研究助成金末舛班班会議（61.2）．

人見滋樹：肺癌の内視鏡診断——気管支ファイバースコープ，縦隔鏡，胸腔鏡——．香川県内科医会呼吸器疾患談話会（61.2.20）．

住友伸一，青木 稔，平田敏樹，古谷 信，山崎文郎，三宅正幸，五十部 潤，池 修，中村達雄，千原幸司，光岡明夫，渡部 智，田村康一，和田洋己，伊藤元彦，人見滋樹，他1名：胸膜肺全摘除術を行なったメゾテリオーマの1例．（同上学会）．

松井輝夫，朝倉庄志，辰巳明利，藤尾 彰，北野司久：手術及び化学療法が奏効した肺小細胞癌の2例．（同上学会）．

福瀬達郎，小林 淳，桑原正喜：肺癌を含む重複癌の臨床的検討．（同上学会）．

辰巳明利，松井輝夫，朝倉庄志，藤尾 彰，北野司久：最近経験した肺癌を含む重複癌の2例．（同上学会）．

池田貞雄，塙 健，安田雄司，小鯖 覚，宮本好博，二宮和子，畠中陸郎，松原義人，船津武志：T<sub>3</sub>手術例の術後再発様式の検討．（同上学会）．

安田雄司，塙 健，小鯖 覚，宮本好博，畠中陸郎，松原義人，二宮和子，船津武志，池田貞雄：肺の重複癌例の検討．（同上学会）．

小鯖 覚，塙 健，安田雄司，宮本好博，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：膿胸合併肺癌の一手術例．

塙 健，安田雄司，小鯖 覚，宮本好博，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，船津武志，池田貞雄：肺癌における血清 IAP の意義．（同上学会）．

和田洋己，人見滋樹，李 民実：寺田忠之：肺がん検診の組織化に関する研究．池田班々会議報告（61.3）．

室恒太郎，呉 俊雄，寺田泰二，松延政一，外村聖一，清水慶彦，肺癌による気道閉塞に対するレーザー治療の一経験．第25回滋賀呼吸器疾患談話会（61.3.22）．

糸井和美，高橋 豊，中野 豊，坂本益雄，乾 健二，カレッド・レシャード：早期肺癌に対する気管支形成術の1例．第137回静岡県外科医会（61.3）．

有安哲哉，篠崎 拓，島本光臣，上野陽一郎，河原崎茂孝，長谷川誠紀，田辺 一，秋山文弥：胸腔内に破裂出血を来した多発性骨髄腫の1例．同上医会（61.3）．

田村康一，三宅正幸，山崎文郎，河原崎茂孝，池 修，五十部潤，中村達雄，千原幸司，住友伸一，青木 稔，光岡明夫，和田洋己，伊藤元彦，人見滋樹，渡部 智，清水慶彦：肺癌再発例の再切除．第3回呼吸器外科研究会（61.5）．

小鯖 覚，塙 健，榎堀 徹，安田雄司，宮本好博，畠中陸郎，松原義人，二宮和子，船津武志，池田貞雄：肺癌再発例に対する再手術の検討．同上学会（61.5）．

塙 健，榎堀 徹，安田雄司，小鯖 覚，宮本好博，畠中陸郎，松原義人，二宮和子，船津武志，池田貞雄：特殊型胸腺腫4例の検討．同上学会（61.5）．

榎堀 徹，塙 健，安田雄司，小鯖 覚，宮本好博，二宮和子，畠中陸郎，松原義人，船津武志，池田貞雄：胃転移をきたした肺原原悪性線維性組織球腫の1例．同上学会（61.5）．

塙 健，榎堀 徹，安田雄司，小鯖 覚，宮本好博，松原義人，畠中陸郎，二宮和子，瀧 俊彦，立花秀一，竹田秋郎，倉田昌彦，三宅正幸，光岡明夫，伊藤元彦他4名：癌性胸水中のTリンパ球サブセットの検討．第26回胸部疾患学会総会（61.4）．

池 修，平田敏樹，吉谷 信，山崎文郎，五十部潤，三宅正幸，住友伸一，千原幸司，中村達雄，青木 稔，光岡明夫，渡部 智，田村康一，和田洋己，伊藤元彦，人見滋樹：最近5年間の縦隔腫瘍と重症筋無力症の切除胸腺についての検討．同上学会（61.4）．

和田洋己，古谷 信，平田敏樹，山崎文郎，五十部潤，三宅正幸，池 修，中村達雄，住友伸一，千原幸司，

青木 稔, 光岡明夫, 渡部 智, 田村康一, 伊藤元彦, 人見滋樹: びまん性胸膜中皮腫に対する胸膜肺全摘除術の評価. 同上学会 (61. 4).

船津武志, 池田貞雄: Silent empyema に合併した Mesothelioma の一例. 同上学会 (61. 5).

高嶋義光, 大野暢宏, 他 3 名: 肺癌治療の現況. 第65回福井県医学会 (61. 5).

田村康一, 三宅正幸, 乾 健二, 山崎文郎, 池 修, 五十部 潤, 千原幸司, 住友伸一, 青木 稔, 光岡明夫, 和田洋巳, 伊藤元彦, 人見滋樹, 中村達雄, 渡部 智, 清水慶彦, 平田敏樹: 気管癌に対し Sternal Tracheostomy をおこなった 1 治験例. 第29回日本胸部外科学会関西地方会 (61. 6).

瀧 俊彦, 辻 宏明, 竹田秋郎, 倉田昌彦, 伊藤元彦, 光岡明夫, 青木 稔, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹: III期肺小細胞癌に対する手術適応の検討. 同上学会 (61. 6).

小鯖 覚, 塙 健, 榎堀 徹, 安田雄司, 宮本好博, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌における縦隔鏡検査の意義および合併症の検討. 同上学会 (61. 6).

竹田秋郎, 倉田昌彦, 瀧 俊彦, 辻 宏明: 乳癌肺転移症例の手術適応. 同上学会 (61. 6).

寺田泰二, 室恒太郎, 呉 俊雄, 松延政一, 外村聖一, 清水慶彦: 超高令者 (80才以上) の肺癌手術 6 例の検討. 同上学会 (61. 6).

松井輝夫, 山下直己, 辰巳明利, 藤尾 彰, 北野司久: 横隔膜ヘルニアを合併した横隔膜上気管支性嚢腫の一治験例. 同上学会 (61. 6).

長谷川誠紀, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 田辺 一, 有安哲哉, 吉谷 信, 秋山文弥: 気管原発腺様嚢胞癌手術後の肺転移の 1 例. 同上学会 (61. 6).

高橋 豊, 平田敏樹, 森田 浩, 中野 豊, 糸井和美, 乾 健二, カレッド・レシャード: 乳児胸腺腫 2 切除例の検討. 同上学会 (61. 6).

寺町政美, 江崎 寛, 岡田賢二, 井上律子, 伊東正敏, 小林君美: 悪性神経鞘腫の 1 例. 同上学会 (61. 6).

和澤 仁, 玉田二郎, 千葉 渉, 小林 淳, 伊藤元彦, 神頭 徹: 小細胞癌と考えられる胸腺癌の一切除例. 同上学会 (61. 6).

呉 俊雄, 室 恒太郎, 寺田泰二, 松延政一, 外村聖一, 清水慶彦: 上大静脈再建を行った悪性胸腺腫の 1 手術例. 同上学会 (61. 6).

福瀬達郎, 桑原正喜, 奥村典仁, 人見滋樹, 小林 淳: 胸壁腫瘍 8 例の臨床的検討. 同上学会 (61. 6).

Masahiko Kurata, Akio Takeda, Toshihiko Taki, Hiroaki Tsuji, Katsuhiko Kubo, Hitoshi Muromoto, Keiko Tanaka, Testu mizutani, Hitoshi Kagioka: Tumor marker concentrations in the bronchoalveolar lavage (BAL) of lung cancer patients [Centering in paticular on CA19-9], 5th WORD CONGRESS FOR BRONCHOLOGY (1986.6).

清水慶彦: 肺がんの診断と治療, 手術療法の限界. 大津市医師会講演会 (61. 6).

鈴木 清, 平田敏樹, 高橋 豊, 中野 豊, 糸井和美, カレッド・レシャード: 胸水 TPA, B2 マイクログロブリンおよびシアル酸測定 of 臨床診断的意義. 第49回日本胸部疾患学会東海地方会 (61. 6).

青木 稔, 三宅正幸, 山崎文郎, 乾 健二, 五十部 潤, 池 修, 中村達雄, 千原幸司, 光岡明夫, 田村康一, 和田洋巳, 伊藤元彦, 人見滋樹, 他 1 名: 術前放射線治療に局所温熱療法を併用した肺小細胞癌 (T<sub>3</sub>) の 1 切除例. 第45回日本肺癌学会関西支部会 (61. 7).

辰巳明利, 北野司久, 山中 晃, 松井輝夫, 山下直己: 縦隔原発の非セミノーム型胚細胞性腫瘍の 2 手術例. 同上学会 (61. 7).

住友伸一, 榎堀 徹, 塙 健, 安田雄司, 小鯖 覚, 二宮和子, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 胸部 CT および縦隔鏡検査による縦隔リンパ節転移の検討. 同上学会 (61. 7).

小鯖 覚, 榎堀 徹, 塙 健, 安田雄司, 住友伸一, 二宮和子, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌全摘症例の検討. 同上学会 (61. 7).

池 修, 乾 健二, 山崎文郎, 五十部潤, 三宅正幸, 中村達雄, 千原幸司, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 渡部 智, 和田洋巳, 清水慶彦, 伊藤元彦, 人見滋樹: ACTH 産生胸腺カタルチノイドの 1 症例. 同上学会 (61. 7).

五十部潤, 三宅正幸, 乾 健二, 山崎文郎, 池 修, 中村達雄, 千原幸司, 青木 稔, 光岡明夫, 渡部 智,

田村康一, 和田洋己, 清水慶彦, 伊藤元彦, 人見滋樹, 鈴木康弘: 結核性慢性膿胸腔肺腫より発生した Pseudo-sarcomatous fibromatosis の1手術例. 同上学会 (61.7).

松井輝夫, 山下直己, 山中 晃, 辰巳明利, 北野司久: 高令者肺癌手術例の検討. 同上学会 (61.7).

奥村典仁, 桑原正喜, 福瀬達郎: 縦隔腫瘍49例の臨床的検討. 同上学会 (61.7).

塙 健, 榎堀 徹, 安田雄司, 小鯖 寛, 住友伸一, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 若年者肺癌26例の検討. 同上学会 (61.7).

辻 宏明, 瀧 俊彦, 竹田秋郎, 倉田昌彦, 藤田正憲, 田中螢子, 水谷 哲, 鍵岡 均: 興味ある臨床経過を呈した早期肺腺癌の1例. 同上学会 (61.7).

榎堀 徹, 塙 健, 安田雄司, 小鯖 寛, 住友伸一, 二宮和子, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: IV期肺癌手術例の検討. 同上学会 (61.7).

江崎 寛, 寺町政美, 岡田賢二, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美他2名: 術前細胞診で悪性と診断された良性胸部疾患の2例. 第48回中部肺癌学会 (61.7).

寺町政美, 江崎 寛, 岡田賢二, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 肺野型扁平上皮癌についての一考察. 同上学会 (61.7).

糸井和美, 平田敏樹, 森田 浩, 中野 豊, 高橋 豊, カレッド・レシャード: レトロスペクティブに見た自験例肺癌の検査法別診断率. 同上学会 (61.7).

鈴木 清, 高橋 豊, 平田敏樹, 中野 豊, 糸井和美, カレッド・レシャード: 胸水 PTA B<sub>2</sub> マイクログロブリン, およびシアル酸の臨床診断的意義 (第2報). 同上学会 (61.7).

平田敏樹, 森田 浩, 中野 豊, 高橋 豊, 糸井和美, カレッド・レシャード: 胸腺嚢腫, 2例の経験. 同上学会 (61.7).

田村康一, 山崎文郎, 三宅正幸, 池 修, 五十部潤, 中村達雄, 住友伸一, 千原幸司, 青木 稔, 光岡明夫, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦: 甲状腺癌の気管浸潤例に対する外科治療. 第9回日本気管支学会総会 (61.7).

桑原正喜, 福瀬達郎, 奥村典仁: 肺過誤腫8例の臨床的検討——特に小児例について——. 第6回阪神呼吸器疾患勉強会 (61.7).

高嶋義光, 大野暢宏, 他3名: パンコースト型肺癌の1手術例. 第20回日本肺癌学会北陸地方会 (61.7).

大野暢宏, 高嶋義光, 他3名: 巨大な mucoid impaction 像を呈した肺癌の1例. 同上学会 (61.7).

山崎文郎, 李 民実, 乾 健二, 神頭 徹, 青木 稔, 和田洋己, 人見滋樹: 犬自家肺移植における温阻血時間 (WIT) の影響. 第2回肺および心肺移植研究会 (61.7).

前里和夫, 源河圭一郎ほか4名: 原発性重複肺癌例の検討. 第19回日本胸部外科学会九州地方会 (61.8).

カレッド・レシャード, 高橋 豊, 糸井和美, 平田敏樹: 当院での肺癌の治療成績について. 第23回三重大学研究会 (61.8).

人見滋樹: 生野地域における開業医外来を利用した肺癌検診の成績と発見肺癌の胸部X線像. 大阪市生野区医師会学術講演会, (61.9.10).

人見滋樹: 胸部悪性腫瘍に対する Challenging Operation. 京都府医師会外科医会 (61.9.26).

高橋 豊, 平田敏樹, 森田 浩, 中野 豊, 糸井和美, カレッド・レシャード: 当院における肺癌の手術成績. 第139回静岡外科医会 (61.9).

平田敏樹, 森田 浩, 中野 豊, 高橋 豊, 糸井和美, カレッド・レシャード: 肺過誤腫の1切除例. 同上学会 (61.9).

渡部 智, 乾 健二, 山崎文郎, 三宅正幸, 池 修, 五十部潤, 中村達雄, 住友伸一, 千原幸司, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 清水慶彦: 慣性胸膜炎, 膿胸経過中に発生した胸部悪性腫瘍手術症例6例の検討. 第39回日本胸部外科学会総会 (61.10).

辰巳明利, 北野司久, 松井輝夫, 山中 晃, 山下直己: 外科治療を行い得た肺癌を含む重複癌の検討. 同上学会 (61.10).

倉田昌彦, 瀧 俊彦, 竹田秋郎, 辻 宏明, 藤田正憲, 田中螢子, 水谷 哲, 鍵岡 均, 他3名: 肺癌 (非小細胞癌) の骨転移例. 第27回日本肺癌学会総会 (61.10).

池田貞雄, 畠中陸郎, 塙 健, 榎堀 徹, 住友伸一, 小鯖 覚, 松原義人, 二宮和子, 船津武志; T<sub>3</sub> 肺癌の対応: その手術成績と再発様式. 同上学会 (61. 10).

北野司久, 山下直己, 松井輝夫, 山中 晃, 辰巳明利: In vivo 制癌剤感受性テスト. 同上学会 (61. 10).

源河圭一郎, 前里和夫ほか7名: TXNOMO 肺癌の治療. 同上学会 (61. 10).

船津武志, 松原義人, 塙 健, 榎堀 徹, 小鯖 覚, 住友伸一, 畠中陸郎, 二宮和子, 池田貞雄: 肺癌 N<sub>2</sub> 症例における対応. 同上学会 (61. 10).

二宮和子, 松原義人, 塙 健, 榎堀 徹, 住友伸一, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 小型進行肺癌の臨床的検討. 同上学会 (61. 10).

松原義人, 塙 健, 榎堀 徹, 住友伸一, 小鯖 覚, 二宮和子, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌における血清 SCC 抗原の意義. 同上学会 (61. 10).

和田洋己, 山崎文郎, 乾 健二, 五十部潤, 池 修, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 伊藤元彦, 人見滋樹, 他: 小細胞癌 T<sub>3</sub>, N<sub>2</sub> 手術症例の検討. 同上学会 (61. 10).

カレッド・レシャード, 鈴木 清, 糸井和美, 高橋 豊, 中野 豊, 平田敏樹: 胸水中 CEA, TPA, ADA, B<sub>2</sub> MG による悪性および結核性胸水の鑑別診断について. 同上学会 (61. 10).

小鯖 覚, 塙 健, 榎堀 徹, 住友伸一, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 再発肺癌の外科治療. 同上学会 (61. 10).

池田貞雄, 松原義人: 肺癌患者における血清 CA125 の意義. 第45回日本癌学会総会 (61. 10).

カレッド・レシャード, 鈴木 清: 胸水における腫瘍マーカー (CEA, TPA) の臨床的意義. 同上学会 (61. 10).

二宮和子, 松原義人, 池田貞雄, 榎堀 徹, 安田雄司, 小鯖 覚, 畠中陸郎, 船津武志; 末期肺癌の疼痛対策—Brompton Mixture の使用経験. 第24回日本癌治療学会 (61. 10).

小鯖 覚, 榎堀 徹, 塙 健, 安田雄司, 宮本好博, 二宮和子, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 高齢者肺癌の外科治療とその実態. 同上学会 (61. 10).

カレッド・レシャード, 糸井和美, 高橋 豊, 中野 豊, 平田敏樹, 森田 浩, 鈴木 清; 当院における肺癌の動向, 治療および研究成績について. 静岡肺癌研究会総会 (61. 10).

山中 晃, 山下直己, 松井輝夫, 辰巳明利, 北野司久: 胸部に転移した原発性肺癌の2手術例. 第140回近畿外科学会 (61. 11).

竹田秋郎, 瀧 俊彦, 辻 宏明, 倉田昌彦, 他2名: 乳腺腫瘍を初発症状とした悪性黒色腫の1例. 同上学会 (61. 11).

辰巳明利, 山下直己, 松井輝夫, 山中 晃, 北野司久: 食道平滑筋腫の2手術例. 同上学会 (61. 11).

塩田哲広, 船津武志, 李 永浩, 塙 健, 榎堀 徹, 小鯖 覚, 住友伸一, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 池田貞雄: 胸壁線維腫の1切除例. 同上学会 (61. 11).

李 美於, 乾 健二, 光岡明夫, 青木 稔, 田村康一, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹: 術前化学療法が著効を示した前縦隔 Yolk sac tumor の1例. 同上学会 (61. 11).

清谷哲也, 光岡明夫, 古谷 信, 青木 稔, 田村康一, 渡部 智, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹: 血管再建を要した重症筋無力症合併の浸潤性腺腫の1例. 同上学会 (61. 11).

岡田賢二, 寺町政美, 江崎 寛, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美他1名: 喀痰中に砂粒体をみとめた肺乳頭状腺癌の1例. 第68回日本結核病学会東海地方学会, 第50回日本胸部疾患学会東海地方学会 (61. 11).

高橋 豊, 平田敏樹, 佐藤敦夫, 八木 健, 森田 浩, 中野 豊, 糸井和美, カレッド・レシャード: 原発性肺癌における重複癌7例の検討. 同上学会 (61. 11).

糸井和美, 平田敏樹, 佐藤敦夫, 八木 健, 森田 浩, 中野 豊, 高橋 豊, カレッド・レシャード: 当院におけるⅢ期肺癌症例の検討. 同上学会 (61. 11).

有安哲哉, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 長谷川誠紀, 吉谷 信, 大久保憲一, 秋山文弥: 胸壁原発悪性腫瘍に対する切除後胸壁再建の1例. 同上学会 (61. 11).

平田敏樹, 森田 浩, 高橋 豊, 糸井和美, カレッド・レシャード: 食道壁内に見られた cyst の1例. 同上学会 (61. 11).

奥村典仁, 福瀬達郎, 桑原正喜: 成人に発生した縦隔内神経芽細胞腫の1例, 第28回日本胸部疾患学会関西地方会 (61.11).

山下直己, 北野司久, 辰巳明利, 山中 晃, 松井輝夫, 他2名: 小腸転移でイレウスを発症した肺明細胞癌の1例. 同上学会 (61.11).

江崎 寛, 寺町政美, 岡田賢二, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 経過中に Schönlein-Henoch 紫斑病を呈した肺大細胞癌の1例. 第49回中部肺癌学会 (61.11).

鈴木 清, 高橋 豊, 平田敏樹, 森田 浩, 中野 豊, 糸井和美, カレッド, レシャード: 胸水中の扁平上皮癌関連抗原 (SCC 抗原) 測定の診断的意義. 同上学会 (61.11).

糸井和美, 平田敏樹, 佐藤敦夫, 八木 健, 森田 浩, 中野 豊, 高橋 豊, カレッド・レシャード: 高齢者肺癌に対する外科手術の検討. 同上学会 (61.11).

畠中陸郎, 榎堀 徹, 塙 健, 小鯖 寛, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: パンコースト腫瘍の外科治療. 第48回日本臨床外科医学会総会 (61.11).

奥村典仁, 福瀬達郎, 桑原正喜: 縦隔腫瘍44例の臨床的検討. 同上学会 (61.11).

伊藤元彦: 胸腺腫におけるリンパ球の誘導・分化に関する研究. 厚生省がん研究助成金正岡班班会議 (61.11).

前里和夫, 源河圭一郎ほか4名: 接着剤による肺癌術後気管支瘻の1治験例. 第9回九州気管支研究会 (61.11).

前里和夫, 源河圭一郎ほか4名: 肺癌を合併した気管支軟化症の1例. 第21回日本胸部疾患学会九州地方会 (61.11).

岡田賢二, 寺町政美, 江崎 寛, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美他1名: 縦隔腫瘍摘出術における腫瘍捺印細胞診の意義. 第25回日本臨床細胞学会秋季大会 (61.11).

岡田英彦, 河原崎茂孝: 胸腺小細胞癌の1例. 第29回日本胸部外科学会関西地方会 (61.11).

## 2. 腺 線・免 疫

光岡明夫, 伊藤元彦, 三宅正幸, 人見滋樹: 成齡期胸腺摘除術後の免疫機能の再検討. 第26回日本胸部疾患学会総会 (61.4).

青木 稔, 三宅正幸, 山崎文郎, 五十部 潤, 池 修, 中村達雄, 千原幸司, 住友伸一, 光岡明夫, 田村康一, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹: 術前よりステロイド大量投与を行った重症筋無力症胸腺摘除例の臨床及び病理組織学的検討. 同上学会 (61.4).

岡田賢二, 寺町政美, 奥村典仁, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 胸腺腫の核内 DNA ヒストグラムの解析——リンパ球との相関関係について——, 同上学会 (61.4).

中野 豊, カレッド・レシャード, 森田 浩, 高橋 豊, 坂本益雄, 糸井和美, 乾 健二: サルコイドーシスの自験例での気管支鏡による診断について. 第9回日本気管支学会 (61.7).

三宅正幸, 伊藤元彦, 他1名: SSEA-1 抗原と肺腺癌の亜分類. 第5回末舛班班会議 (61.7).

光岡明夫, 伊藤元彦, 人見滋樹: 同種および異種移植免疫反応の定量法と免疫抑制への応用. 第22回日本移植学会 (61.8).

光岡明夫, 伊藤元彦, 人見滋樹: 移植免疫寛容の定量的検討. (1) F<sub>1</sub> 細胞を用いた同種免疫寛容導入による解析. 同上学会 (61.9).

青木 稔, 李 民実, 乾 健二, 山崎文郎, 神頭 徹, 和田洋己, 人見滋樹: 自家肺移植に及ぼす温阻血の影響——病理組織学的検討——. 同上学会 (61.9).

山崎文郎, 李 民実, 乾 健二, 神頭 徹, 青木 稔, 和田洋己, 人見滋樹: 犬自家肺移植における温阻血の影響, 同上学会 (61.10).

瀧 俊彦, 辻 宏明, 竹田秋郎, 倉田昌彦, 三宅正幸, 光岡明夫, 伊藤元彦, 人見滋樹: 肺癌患者における胸腺リンパ球サブセットの検討. 第27回日本肺癌学会総会 (61.10).

光岡明夫, 三宅正幸, 千原幸司, 伊藤元彦, 人見滋樹, 寺田泰二, 松延政一, 外村聖一: 抗癌剤のリンパ球サブセットへの選択的影響の肺癌化学療法における評価. 同上学会 (61.10).

桑原正喜, 福瀬達郎, 奥村典仁: 前縦隔悪性腫瘍17例の臨床的検討——特に TSPB 法の有用性について——. 同上学会 (61. 10).

辰巳明利, 山下直己, 松井輝夫, 山中 晃, 北野司久: 前縦隔原発悪性奇形腫群腫瘍の治療経験. 同上学会 (61. 10).

山崎文郎, 李 民実, 乾 健二, 神頭 徹, 青木 稔, 和田洋巳, 人見滋樹: 犬自家肺移植における温阻血時間 (WIT) の影響. 同上学会 (61. 9).

伊藤元彦, 三宅正幸, 光岡明夫, 蕭 金宝, 田村康一, 和田洋巳, 人見滋樹, 瀧 俊彦: 機能と形態からみた胸腺腫の検討. 第39回日本胸部外科学会総会 (61. 10).

瀧 俊彦, 千葉 渉, 三宅正幸, 住友伸一, 光岡明夫, 伊藤元彦, 人見滋樹: 気管同種移植の基礎的実験. 同上学会 (61. 10).

光岡明夫, 伊藤元彦, 三宅正幸, 人見滋樹, 瀧 俊彦: 同種および異種移植における免疫寛容の検討. (1) 胸腺摘除術の有用性. 同上学会 (61. 10).

青木 稔, 李 民実, 乾 健二, 山崎文郎, 神頭 徹, 和田洋巳, 人見滋樹: 犬自家移植肺の病理組織学的検討. 同上学会 (61. 10).

三宅正幸, 伊藤元彦, 光岡明夫, 人見滋樹, 他 3 名: 肺腺癌の細胞型分類と SSEA-1 抗原の免疫組織学的検索. 同上学会 (61. 10).

三宅正幸, 伊藤元彦, 光岡明夫, 乾 健二, 五十部潤, 人見滋樹, 他 3 名: 前縦隔悪性胚細胞腫の腫瘍マーカーとしての NSE および SSEA-1 抗原. 同上学会 (61. 10).

三宅正幸, 伊藤元彦, 人見滋樹, 他 3 名ヒト, マウスハイブリドーマによる肺癌モノクローナル抗体. 同上学会 (61. 10).

和田洋巳, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 伊藤元彦, 人見滋樹: 11年目に再発を発見され再手術した胸腺腫の 1 例. 第 5 回胸腺研究会, 東京 (61. 10).

カレッド・レシャード, 鈴木 清, 高橋 豊, 平田敏樹, 中野 豊, 糸井和美: 胸水における各種パラメーターの検索 (CEA, FERRITIN, Sialic Acid, 第 1 報). 第 6 回腫瘍マーカー研究会 (61. 10).

鈴木 清, 高橋 豊, 平田敏樹, 森田 浩, 中野 豊, 糸井和美, カレッド・レシャード: 胸水における各種パラメーターの検索 (TPA, M<sub>2</sub>MG, ADA, 第 2 報). 同上学会 (61. 10).

神頭 徹, 他 8 名: KOLT-2 抗原の発現調節, その IL-2-R 発現との関連について. 第 16 回日本免疫学会総会 (61. 12).

### 3. 結 核

和田洋巳, 吉谷 信, 平田敏樹, 山崎文郎, 三宅正幸, 池 修, 五十部潤, 中村達雄, 住友伸一, 千原幸司, 青木 稔, 光岡明夫, 渡部 智, 田村康一, 伊藤元彦, 人見滋樹: 外科治療を行なった気管支結核の検討. 第 61 回日本結核病学会総会 (61. 4).

五十部潤, 平田敏樹, 吉谷 信, 三宅正幸, 山崎文郎, 池 修, 中村達雄, 住友伸一, 千原幸司, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 和田洋巳, 伊藤元彦, 人見滋樹, 水野 浩, 渡部 智, 清水慶彦: 非定型抗酸菌症に対する外科療法の経験. 同上学会 (61. 4).

松原義人, 塙 健, 榎堀 徹, 安田雄司, 小鯖 覚, 宮本好博, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌との鑑別診断のため手術を行った肺感染症の臨床的検討. 第 3 回呼吸器外科研究会 (61. 5).

桑原正喜, 福瀬達郎, 小林 淳, 人見滋樹: 肺化膿症の手術例の検討. 同上学会 (61. 5).

乾 健二, 高橋 豊, 中野 豊, 坂本益雄, 糸井和美, カレッド・レシャード: 当院における肺腫瘍症例の検討. 同上学会 (61. 5).

松井輝夫, 山下直己, 辰巳明夫, 藤尾 彰, 北野司久: 胸囲結核に対する有茎性腹直筋皮弁移植術の 2 治療例. 第 139 回近畿外科学会 (61. 5).

T. Teramatsu, S. Tateishi, N. Migamoto: Surgery for pulmonary Aspergillitis, VWBC, Lio de Janeiro (1986.6).

高井晶子, 倉田昌彦, 永井 彰, 友田恒典: 過去10年間に行った結核血清反応の成績と評価. 第57回結核病学会 (61.6).

カレッド・レシャード, 糸井和美, 中野 豊, 高橋 豊, 平田敏樹, 森田 浩: 気管支結核の5例の検討. 第49回胸部疾患学会東海地方会 (61.6).

辰巳明利, 北野司久, 藤尾 彰, 桜井輝夫, 山下直己: 有茎性大網で気管支瘻および胸壁瘻を閉鎖し得た慢性膿胸の2手術例. 第29回日本日本胸部科学会関西地方会 (61.6).

和田洋己, 山崎文郎, 五十部潤, 池 修, 三宅正幸, 中村達雄, 住友伸一, 千原幸司, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 渡部 智, 伊藤元彦, 人見滋樹: 外科対象となった気管支結核. 第9回日本気管支学会総会, (61.7).

桑原正喜, 小林 淳, 福瀬達郎, 他2名: 肺膿瘍症例の術前・術中対策——患側区域気管支閉塞法——. 同上学会 (61.7).

カレッド・レシャード, 坂本益雄, 中野 豊, 高橋 豊, 糸井和美, 平田敏樹, 森田 浩: 経気管支的に診断した粟粒結核症例の検討. 同上学会 (61.7).

カレッド・レシャード, 乾 健二, 糸井和美, 高橋 豊, 中野 豊, 平田敏樹: 喀血の治療における気管支動脈結術の経験 (追加発言). 同上学会 (61.7).

高嶋義光, 大野暢宏, 他3名, 渡部 智: 気管支結核症の3例. 同上学会 (61.7).

北野司久, 藤尾 彰, 辰巳明利, 松井輝夫, 山中 晃, 山下直己: 慢性膿胸に対する外科療法の検討——有茎性大網弁充填法を中心にして——. 第39回日本胸部外科学会総会 (61.10).

住友伸一, 李 永浩, 塩田哲広, 塙 健, 榎堀 徹, 小鯖 覚, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: Round atelectasis を伴った陳旧性胸膜炎の1例. 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (61.11).

榎堀 徹, 李 永浩, 塩田哲広, 塙 健, 小鯖 覚, 住友伸一, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 肺クリプトコッカス症の1例. 同上学会 (61.11).

寺町政美, 江崎 寛, 岡田賢二, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 出血性病変を有する特殊型胸膜炎の2例. 第68回日本結核病学会東海地方学会, 第50回日本胸部疾患学会東海地方学会 (61.11).

吉谷 信, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 長谷川誠紀, 有安哲哉, 大久保憲一, 秋山文弥: 先天的気管支食道瘻に膿胸を合併した1例. 同上学会 (61.11).

榎堀 徹, 塙 健, 小鯖 覚, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 巨大肺嚢胞症に合併した気胸, 感染例の外科治療. 第48回日本臨床外科医会 (61.11).

高橋 豊, 平田 敏樹, 森田 浩, 中野 豊, 糸井和美, カレッド・レシャード: 大量喀血に対する気管支動脈結紮術の経験. 第140回静岡外科医会 (61.12).

#### 4. 人工材料

清水慶彦: 呼吸不全治療のための人工肺の開発. 京都大学医用高分子研究センター5周年記念講演会 (61.2).

清水慶彦: 医用材料の進歩. 姫路市医師会講演会 (61.2).

島本光臣, 篠崎 拓, 上野陽一郎, 河原崎茂孝, 長谷川誠紀, 田辺 一, 有安哲哉, 秋山文弥: ITP を合併した心内膜炎後僧帽弁閉鎖不全症に対する人工弁置換術の1例. 静岡輸血懇話会第1回学術集会 (61.3).

松原義人, 塙 健, 安田雄司, 小鯖 覚, 宮本好博, 二宮和子, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 気管分岐部切除後の人工気管による気道再建術. 第86回日本外科学会総会 (61.4).

Koichi Tamura, Osamu Ike, Jun Isobe, Shigeki Hitomi, Yasuhiko Shimizu and et al. New hydrogel and its medical application. The 32nd Annual Meeting of American Society of Artificial Internal Organs. (May, 1986 Anaheim).

清水慶彦: ECOM, ECLA の現状と将来の展望. 第7回呼吸管理研究会 (61.7).

清水慶彦: 最近の医用材料の進歩について. 昭和61年度京大関係病院長協議会定例総会講演 (61.7).

清水慶彦: 人工材料による外科. 上海胸外医院研究所講演会 (61.9).

清水慶彦: 人工肺の開発. 復旦大学化学研究院講演会 (61.9).

清水慶彦: 組織親和性材料の開発. 南開大学化学研究所講演会 (61.9).



清水慶彦：組織親和性医療用線維．日本学術振興会国際協同研究，北京化学繊維研究所講演会（61. 9）．

渡部 智，中村達雄，五十部 潤，清水慶彦，河原崎茂孝，池 修，千原幸司，水野 浩，田村康一，他 1 名：医用合成高分子材料の表面改質——シリコーンゴム製尿道カテーテル表面への抗菌活性及び粘滑性の付与——．第24回日本人工臓器学会大会（61. 9）．

田村康一，河原崎茂孝，池 修，水野 浩，人見滋樹，中村達雄，五十部潤，渡部 智，清水慶彦：Polyurethane を素材とする人工血管の開発．同上学会（61. 9）．

千原幸司，河原崎茂孝，寺田泰二，松延政一，水野 浩，五十部 潤，清水慶彦，人見滋樹，屋ヶ田和彦，野口康夫，三上 隆：陰圧式人工呼吸器の開発．同上学会（61. 9）．

五十部潤，河原崎茂孝，水野 浩，寺田泰二，中村達雄，千原幸司，渡部 智，松延政一，清水慶彦：ガス側 Oscillation による膜型人工肺のガス交換効率の検討．同上学会（61. 9）．

T. Nakamura, S. Watanabe, Y. Shimizu, S. Hitomi, et al: Surgical Application of Biodegradable films prepared from lactide-caprolactone copolymers, European Congress on Biomaterials (61. 9).

中村達雄，五十部潤，池 修，渡部 智，清水慶彦，他 3 名：気管縫合用吸収性プレジェットの実験的検討．第39回日本胸部外科学総会（61. 10）．

中村達雄，五十部潤，池 修，渡部 智，清水慶彦，加藤弘文，他 3 名：ハイドロキシアパタイト含有生体内吸収性骨接合ビンの実験的研究．第24回日本人工臓器学会大会（61. 10）．

池 修，渡部 智，清水慶彦，和田良一，田畑泰彦，玄 丞然，筏 義人：アドリアマイシン・ポリ乳酸マイクロスフェアの生体内での溶出および分解について．第8回日本バイオマテリアル学会大会（61. 11）．

中村達雄，渡部 智，清水慶彦，他 3 名：ポリ-L-乳酸およびポリグリコール酸メッシュの生体内分解．同上学会（61. 11）．

T. Nakamura, S. Watanabe, Y. Shimizu, S. Hitomi, et al: Bioabsorbable Polymers for Clinical Use in Thoracic Surgery, IEEE Engineering in Medicine and Biology Society 8th Annual Conference (61. 11).

清水慶彦：臨床医用高分子材料の応用と問題点＜レビュー講演会＞世界における高分子研究の動向．高分子学会関西支部（61. 12）．

## 5. 心・血 管

秋山文弥，篠崎 拓，島本光臣，上野陽一郎，河原崎茂孝，長谷川誠紀，田辺 一，有安哲哉：IHSS に対する経大動脈中隔心筋切除術—手技上の工夫—(ビデオクリニック)．第16回日本心臓血管外科学会学術総会(61. 2)．

島本光臣，篠崎 拓，上野陽一郎，河原崎茂孝，長谷川誠紀，田辺 一，有安哲哉，秋山文弥：Unstable Angina に対する CABG の成績．同上学会（61. 2）．

上野陽一郎，篠崎 拓，島本光臣，河原崎茂孝，長谷川誠紀，田辺 一，有安哲哉，秋山文弥：Cell Saver 及び Hollow Fiber 型残留血濃縮器使用症例の比較検討．同上学会（61. 2）．

寺町政美，奥村典仁，岡田賢二，井上律子，伊東政敏，小林君美，他 2 名：体外循環時の溶血について．第33回国立療養所循環器疾患研究会（61. 3）．

田辺 一，篠崎 拓，島本光臣，上野陽一郎，河原崎茂孝，長谷川誠紀，有安哲哉，秋山文弥：右室—肺動脈 Extracardiac Conduit 再置換の 1 例．第137回静岡県外科医会集談会（61. 3）．

伊東政敏，寺町政美，奥村典仁，江崎 寛，岡田賢二，井上律子，小林君美：高度肺高血圧を合併した PDA 親子の手術治験例．第 29 回日本胸部外科学会関西地方会（61. 6）．

島本光臣，篠崎 拓，上野陽一郎，長谷川誠紀，田辺 一，有安哲哉，吉谷 信，秋山文弥：血小板減少性紫斑病 (ITP) を合併する心内膜炎後僧帽弁閉鎖不全に対する人工弁置換術の 1 例．同上学会（61. 6）．

島本光臣，篠崎 拓，上野陽一郎，長谷川誠紀，田辺 一，有安哲哉，吉谷 信，秋山文弥：急性 I 型解離性大動脈瘤に対し右冠動脈への A-C バイパスを併せ行った人工血管置換術の 1 例．同上学会（61. 6）．

上野陽一郎，篠崎 拓，島本光臣，長谷川誠紀，田辺 一，有安哲哉，吉谷 信，秋山文弥：冠動脈バイパス術後収縮性心膜炎の 1 例．同上学会（61. 6）．

横見瀬裕保，中山正吾，青田正樹，大頭信義：左腕頭静脈瘤を合併した上大静脈瘤の 1 例．同上学会（61. 6）．

有安哲哉, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 長谷川誠紀, 田辺 一, 吉谷 信, 秋山文弥: 三尖弁前尖欠損による三尖弁閉鎖不全症の1例. 同上学会 (61.6).

長谷川誠紀, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 田辺 一, 有安哲哉, 吉谷 信, 秋山文弥: 高令者嚢状胸部大動脈瘤に対する切除・パッチ閉鎖の2例. 第138回静岡県外科医会集談会 (61.6).

有安哲哉, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 長谷川誠紀, 田辺 一, 吉谷 信, 秋山文弥: 腎動脈直下位の腹部大動脈瘤の手術経験. 同上学会 (61.6).

Fumio Kitamura, Kanji Inoue, Takasumi Nakamura, Nobuaki Miyamoto: A Successful Case of Emergent Pulmonary Embolism, 6TH ASEAN CONGRESS OF CARDIOLOGY (1986, 6, JAKARTA).

伊東政敏, 寺町政美, 江崎 寛, 岡田賢二, 井上律子, 小林君美, 他3名: 僧帽弁膜症進行例の手術経験. 第33回岐阜循環器疾患研究会 (61.7).

寺町政美, 江崎 寛, 岡田賢二, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美, 他8名: 先天性2弁性大動脈弁狭窄症と合併した感染性心内膜炎の1症例. 同上学会 (61.7).

島本光臣, 篠崎 拓, 上野陽一郎, 河原崎茂孝, 長谷川誠紀, 田辺 一, 有安哲哉, 秋山文弥: 右室-肺動脈 Extracardiac Conduit 再置換の1例. 第22回日本小児循環器学会総会 (61.7).

寺町政美, 江崎 寛, 岡田賢二, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 巨大左房を呈した MSR-TR の1手術例. 三重大学胸部外科学教室第32回研究総会 (61.8).

井上寛治, 中村隆澄, 北村文夫, 宮本信昭, 他2名: 経皮的経静脈的僧帽弁交連裂開術——中国における臨床経験——. 第39回日本胸部外科学会総会 (61.10).

島本光臣, 篠崎 拓, 上野陽一郎, 長谷川誠紀, 田辺 一, 有安哲哉, 古谷 信, 秋山文弥: 胸部大動脈瘤に対する Thromboexclusion 法の検討——遠隔期成績をふくめて——. 同上学会 (61.10).

伊東政敏, 寺町政美, 江崎 寛, 岡田賢二, 井上律子, 小林君美, 他3名: ASD に合併した MR-TR-PH の1治験例. 第41回国立病院療養所総合医学会 (61.11).

伊東政敏, 他9名: 先天性2弁性大動脈弁狭窄症に感染性心内膜炎を合併した1治験例. 同上学会 (61.11).

伊東政敏, 寺町政美, 江崎 寛, 岡田賢二, 井上律子, 小林君美, 他4名: 弁置換を要した ASD-MR complex の2例. 第34回岐阜循環器疾患研究会 (61.11).

Kanji Inoue, Takane Owaki, Takasumi Nakamura, Fumio Kitamura, Nobuaki, Miyamoto: Chuanrong Chen (Provincial Cardiovascular Institute, Guangghou, Peoples Republic of China): Transvenous Mitral Commissurotomy: Longterm followup and recent modification, AMERICAN HEART ASSOCIATION 40TH ANNUAL MEETING (1986, 11, DALLAS).

中村隆澄, 井上寛治, 北村文夫, 宮本信昭: Prosthetic Valve Endocarditis の外科治療—特に房室弁位の Translocation 法について—. 第48回日本循環器学会中国四国地方会 (61.11).

## 6. 一般的胸部疾患

カレッド・レシャード: 胸部疾患における CT の役割と応用. 榛原医師会 (61.1).

森田 浩, 坂本益雄, 中野 豊, 高橋 豊, 糸井和美, 乾 健二, カレッド・レシャード: 胸部X線上, びまん性陰影を呈し, 自然軽快示した1症例. 第10回びまん性肺疾患研究会 (61.2).

人見滋樹, 三上理一郎: びまん性肺疾患の鑑別診断をめぐる最近の諸問題. 臨床と解剖セミナー (61.3.18).

船津武志, 塙 健, 安田雄司, 小鯖 覚, 宮本好博, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 池田貞雄: 巨大肺嚢胞症の治療. 第26回日本胸部疾患学会総会 (61.4).

桑原正喜, 小林 淳, 福瀬達郎: 前縦隔病変に対する新しい診断的アプローチ Transsternal punch biopsy (TSPB) の評価. 同上学会 (61.4).

山中 晃, 高橋憲太郎, 加藤弘文, 岡田慶夫: 気道上皮及び気管支腺の再生過程に関する実験的研究. 同上学会 (61.4).

千原幸司, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 室 恒太郎, 呉 俊雄, 寺田泰二, 松延政一, 外村聖一, 清水慶彦: 肺全摘後の横隔膜・胸郭運動の検討. 同上学会 (61.4).

千原幸司, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 和田洋巳, 伊藤元彦, 人見滋樹, 室 恒太郎, 呉 俊雄, 寺田泰二, 松延政一, 外村聖一, 清水慶彦: 巨大ブラ症の横隔膜・胸郭運動の検討. 同上学会 (61. 4).

住友伸一, 三宅正幸, 山崎文郎, 池 修, 中村達雄, 千原幸司, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 和田洋巳, 伊藤元彦, 人見滋樹, 松延政一, 五十部潤, 渡部 智, 清水慶彦: 開胸手術の胸郭運動への影響. 同上学会 (61. 4).

塙 健, 安田雄司, 小鯖 覚, 宮本好博, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 気管軟化症の実験的研究. 同上学会 (61. 4).

瀧 俊彦, 辻 宏明, 竹田秋郎, 倉田昌彦: 中葉症候群手術例の検討. 第3回呼吸器外科研究会 (61. 5).

糸井和美, カレッド・レシャード, 乾 健二, 高橋 豊, 平田敏樹: 高齢者の開胸術の検討. 同上学会 (61. 5).

北野司久, 辰巳明利, 藤尾 彰: 小児胸郭変形症に対する外科療法の検討——特に PLA 利用上の術式の改良について. 第23回日本小児外科学会総会 (61. 5).

辻 宏明, 倉田昌彦, 瀧 俊彦, 竹田秋郎: 自然気胸の女性症例. 第139回近畿外科学会 (61. 5).

桑原正喜: 自然気胸の診断と治療. 第48回大阪呼吸器疾患懇話会 (61. 5).

カレッド・レシャード: びまん性陰影の読影のポイント. 医師会講演 (61. 5).

人見滋樹: 気管吻合のコツ. 第26回手術手技研究会 (61. 6. 7).

朝田完二, 中村隆澄, 宮本信昭, 他6名: 肺犬糸状虫症の1例. 第21回日本胸部疾患学会中国四国地方会 (61. 6).

吉谷 信, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 長谷川誠紀, 田辺 一, 有安哲哉, 秋山文弥: 両側性胸郭出口症候群の1例. 第138回静岡県外科医会集談会 (61. 6).

平田敏樹, 高橋 豊, 糸井和美, カレッド・レシャード: 術後乳び胸の治療経験. 同上医会 (61. 6).

桑原正喜, 福瀬達郎, 奥村典仁, 小林 淳: 化膿性縦隔炎の1治療例——Parasternd 縦隔ドレナージ法——. 第29回日本胸部外科学会関西地方会 (61. 6).

玉田二郎, 和澤 仁, 小林 淳, 千葉 渉: 気管支嚢腫を伴う気管支閉鎖症の1切除例. 同上学会 (61. 6).

岡田賢二, 寺町政美, 江崎 寛, 奥村典仁, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 急速にのう胞を形成し, 自然気胸をくり返した若年気胸の1例と, 肺一胸壁癒着への一考察. 同上学会 (61. 6).

住友伸一, 三宅正幸, 山崎文郎, 池 修, 五十部 潤, 中村達雄, 千原幸司, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 和田洋巳, 伊藤元彦, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦: 両肺同時手術症例の胸郭運動. 同上学会 (61. 6).

千原幸司, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 和田洋巳, 伊藤元彦, 人見滋樹, 室 恒太郎, 呉 俊雄, 寺田泰二, 松延政一, 外村聖一, 清水慶彦: 骨性胸郭に手術侵襲を加えた症例の横隔膜・胸郭運動の検討. 同上学会 (61. 6).

山崎文郎, 河原崎茂孝, 乾 健二, 池 修, 五十部 潤, 千原幸司, 三宅正幸, 住友伸一, 中村達雄, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 和田洋巳, 伊藤元彦, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦: 肺分画症6例の検討. 同上学会 (61. 6).

糸井和美, カレッド・レシャード, 平田敏樹, 高橋 豊, 乾 健二: 虚血性心疾患既往者に対する胸部外科手術の経験. 同上学会 (61. 6).

塙 健, 榎堀 徹, 安田雄司, 小鯖 覚, 宮本好博, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 自然血気胸18例の検討. 同上学会 (61. 6).

榎堀 徹, 塙 健, 安田雄司, 小鯖 覚, 宮本好博, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 船津武志, 池田貞雄: 感染を合併した巨大肺嚢胞症の検討. 同上学会 (61. 6).

中野 豊, カレッド・レシャード, 平田敏樹, 森田 浩, 高橋 豊, 糸井和美: 当院における気管支喘息患者の血中ネオフィリンの日内変動について. 第49回日本胸部疾患学会東海地方会 (61. 6).

森田 浩, カレッド・レシャード, 中野 豊, 平田敏樹, 高橋 豊, 糸井和美, 梅宮正志: プレオマイシン投与後の肺線維症の1例. 同上学会 (61. 6).

糸井和美, 平田敏樹, 高橋 豊, 乾 健二, カレッド・レシャード: 気管支形成術の経験. 同上学会 (61. 6).

倉田昌彦, 竹田秋郎, 瀧 俊彦, 辻 宏明, 久保勝彦, 室本 仁, 田中螢子, 水谷 哲, 鍵岡 均: 肺癌患者

における Bronchoalveolar Lavage (BAL) 液の中の腫瘍マーカーの成績について (特に CA19-9 を中心にして). 第9回日本気管支学会総会 (61.7).

北野司久, 松井輝夫, 山中 晃, 辰己明利, 藤尾 彰: 気管および肺門部気管支の狭窄に対する治療方針. 同上学会 (61.7).

畠中陸郎, 塙 健, 安田雄司, 宮本好博, 小鯖 覚, 松原義人, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 気管支鏡による術後無気肺の治療. 同上学会 (61.7).

青木 稔, 和田洋己, 乾 健二, 山崎文郎, 人見滋樹: レーザードップラー法による気管支粘膜血流測定 of 検討. 同上学会 (61.7).

小鯖 覚, 塙 健, 榎堀 徹, 安田雄司, 宮本好博, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 気管および主気管支の狭窄症例に関する臨床的検討. 同上学会 (61.7).

乾 健二, カレッド・レシャード, 高橋 豊, 中野 豊, 坂本益雄, 糸井和美, 平田敏樹, 神頭 徹, 和田洋己, 人見滋樹: 小児気道内異物症例7例の検討. 同上学会 (61.7).

高橋 豊, 平田敏樹, 森田 浩, 中野 豊, 糸井和美, 坂本益雄, 乾 健二, カレッド・レシャード: 術後持続気漏に対する経気管支鏡的処置の試み. 同上学会 (61.7).

塙 健, 榎堀 徹, 安田雄司, 小鯖 覚, 宮本好博, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 気管軟化症の実験的研究. 同上学会 (61.7).

岡田賢二, 寺町政美, 江崎 寛, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 開胸術の動機 of 検討. 第48回中部肺癌学会 (61.7).

江崎 寛, 寺町政美, 岡田賢二, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: CT による葉間胸膜の描出について. 三重大学胸部外科学教室第32回研究総会 (61.8).

千原幸司, 人見滋樹: 肺のう胞症の開胸下ブラ内圧 of 検討. 第28回気胸研究会 (1986.9).

長谷川誠紀, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 有安哲哉, 吉谷 信, 大久保憲一, 秋山文弥: 特発性血気胸3例 of 検討. 同上学会 (61.9).

寺町政美, 江崎 寛, 岡田賢二, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 自然気胸に対する開胸術について. 同上学会 (61.9).

平田敏樹, 森田 浩, 高橋 豊, 中野 豊, 糸井和美, カレッド・レシャード: HFJV 換気中に発生した両側気胸の1例. 同上学会 (61.9).

辻 宏明, 瀧 俊彦, 竹田秋郎, 倉田昌彦: 当院における自然気胸の疫学的検討. 同上学会 (61.9).

池田貞雄, 松原 義人, 小鯖 覚, 榎堀 徹, 塙 健, 安田雄司, 宮本好博, 二宮和子, 畠中陸郎, 船津武志: 気管3リング, 左主気管支6リング切除を行った右肺管状切除の1例. 第39回日本胸部外科学会総会 (61.10).

田村康一, 三宅正幸, 山崎文郎, 乾 健二, 池 修, 五十部潤, 千原幸司, 住友伸一, 青木 稔, 光岡明夫, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 中村達雄, 渡部 智, 清水慶彦: 気管の腫瘍性病変に対する手術術式の検討. 同上学会 (61.10).

山中 晃, 朝倉庄志, 高橋憲太郎, 加藤弘文, 渡辺和郎, 中村良雄, 田畑良宏, 森 渥視, 岡田慶夫: 胸部CT 画像を応用した左右別肺機能および肺切除術前後の肺機能 of 検討. 同上学会 (61.10).

千原幸司, 河原崎茂孝, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 渡部 智, 室 恒太郎, 呉 俊雄, 寺田泰二, 松延政一, 外村聖一: 巨大ブラ症の病態生理の換気力学的検討. 同上学会 (61.10).

住友伸一, 三宅正幸, 山崎文郎, 乾 健二, 池 修, 五十部潤, 中村達雄, 千原幸司, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦: 漏斗胸手術の胸郭運動へ及ぼす影響. 同上学会 (61.10).

住友伸一, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 渡部 智, 清水慶彦: 肺切除が術後の胸郭運動に及ぼす影響についての検討. 同上学会 (61.10).

松井輝夫, 山下直己, 山中 晃, 辰己明利, 北野司久: 胸郭変形に対するポリ乳酸プレート (PLA) を用いた胸郭矯正術8例 of 検討. 同上学会 (61.10).

塙 健, 榎堀 徹, 安田雄司, 小鯖 覚, 宮本好博, 松原義人, 他 2 名: 気管軟化症の実験的研究. 同上学会 (61. 10).

江崎 寛, 寺町政美, 岡田賢二, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 胸部 CT における 2 mm スライス間数 3 の有用性について. 第68回日本結核病学会東海地方会, 第50回日本胸部疾患学会東海地方会 (61. 11).

森田 浩, 平田敏樹, 中野 豊, 高橋 豊, 糸井和美, カレッド・レシャード: 当院における DPB 症例の臨床的検討. 同上学会 (61. 11).

鈴木 清, カレッド・レシャード: 胸水における各種マーカーの検索 (特別報告). 同上学会 (61. 11).

平田敏樹, 佐藤敦夫, 八木 健, 森田 浩, 高橋 豊, 中野 豊, 糸井和美, カレッド・レシャード: 呼吸不全を呈した気管支内異物の 1 例. 同上学会 (61. 11).

高井晶子, 倉田昌彦, 瀧 俊彦, 竹田秋郎, 友田恒典: 気管支肺胞洗浄液中の secretory IgA について. 第28回日本胸部疾患学会近畿地方会 (61. 11).

大野暢宏, 高嶋義光, 他 3 名: 当院における自然気胸手術例の検討. 第33回日本結核病学会北陸地方会, 第22回日本胸部疾患学会 (61. 11).

岡田賢二, 寺町政美, 江崎 寛, 井上律子, 伊東政敏, 小林君美: 選択的葉気管支内加圧による遷延性無気肺の治療. 第41回国立病院療養所総合医学会 (61. 11).

大野暢宏, 高嶋義光, 他 3 名: 当院における自然気胸手術例, 検討, 第 7 回日本気管支学会合同北陸地方会 (61. 11).

桑原正喜, 福瀬達郎, 奥村典仁: カニの肉による気管支内異物症. 第28回近畿気管支鏡懇話会 (61. 12).

桑原正喜: 両側気胸の臨床的検討. 第 7 回京阪神呼吸器疾患勉強会 (61. 12).

カレッド・レシャード: 胸部疾患の特殊検査について. 榛原医師会 (61. 12).

平田敏樹, 森田 浩, 高橋 豊, 中野 豊, 糸井和美, カレッド・レシャード, 高齢者における自然気胸および気腫性肺嚢胞症の治療経験. 第27回気胸研究会 (61. 12).

## 〔著 書〕

人見滋樹: 喫煙と健康. 運動医学, 金芳堂, 1986. 4.

人見滋樹, 古瀬清行, 福岡正博編: 気管支ファイバースコピーの実際. 金芳堂, 1986. 7.

人見滋樹他: 臨床呼吸器病学, 金芳堂改訂第 2 版, 1986. 9.

源河圭一郎, 他 1 名: 高齢者に発見された巨大な先天性気管食道嚢 (p. 109-110), 気管支ファイバースコピーの実際. 近畿気管支鏡懇話会編, 金芳堂 (1986).

伊藤元彦: 肺・縦隔腫瘍. 日本外科学会教育委員会編「癌における腫瘍マーカー」94-116, 1986.

Wada, H. and Matsunobe, S.: Cancer and Immunotherapy-Effects of a Hemolytic Streptococcal Preparation, Ok-432: Enhancement of Splenic NK cell Activity p. 90-98, Mechanisms of antitumor effects of Ok-432, ed. by Hoshino, T., Excerpta Medica, Amsterdam, 1986.

Yasuhiko Shimizu: Medical Application of Microbiol Cells Entrapped in Polymers (145~148), Design of Multiphase Biomedical Materials 1986, (61.3).

清水慶彦: 甲状腺癌における気管合併切除 (86~87). 外科診療 Question & Answers 第11号, 六法出版, (61. 4. 18).

清水慶彦: 気管・食道 (394~400). 最新医用材料開発利用便覧, R&D プランニング (61. 7. 31).

光岡明夫 (分担執筆): 気管支トイレット (p. 147-148), 気管支ファイバースコピーの実際. 近畿気管支鏡懇話会編, 金芳堂 (1986).

桑原正喜: フラッターバルブによるドレナージ法 (p. 217-223), 自然気胸. 気胸研究会編, 鳳鳴堂書店(1986).

前里和夫: サルコイドーシス (p. 106-108), 気管支ファイバースコピーの実際. 近畿気管支鏡懇話会編, 金芳堂 (1986).

〔誌 上 発 表〕

1. 腫 瘍

藤尾 彰, 北野司久, 朝倉庄志, 松井輝夫: 心外膜より発生した悪性線維性組織球腫の1例. 日本胸部外科学会雑誌, 34(2): 133-137, 1986.

高橋 豊, カレッド・レシャード, 乾 健二, 竹内吉喜: 横隔膜神経鞘腫の1例. 日本胸部外科学雑誌, 34(4): 80, 1986.

三宅正幸, 伊藤元彦, 和田洋己, 瀧 俊彦, 光岡明夫, 人見滋樹: HCG 産生原発性肺癌の2例. 日本胸部外科学会雑誌, 34(4): 519, 1986.

三宅正幸, 伊藤元彦, 瀧 俊彦, 光岡明夫, 和田洋己, 人見滋樹: AFP 産生原発性肺癌の2切除例. 日本胸部外科学会雑誌, 34(6): 914, 1986.

山中 晃, 加藤弘文, 高橋憲太郎, 岡田慶夫, 伊藤元彦, 人見滋樹: 胸部に原発した Malignant Fibrous Histiocytoma の検討. 日本胸部外科学会雑誌, 34: 210-2128, 1986.

三宅正幸, 伊藤元彦, 和田洋己, 光岡明夫, 人見滋樹, 渡部 智: ミオグロビンの証明により, 確定診断できた肺原発横紋筋肉腫の1例. 日本胸部外科学会雑誌, 34(12): 2134, 1986.

小林君美, 他30名: 肺大細胞癌切除例の臨床像と手術成績. 肺癌, 26(3): 267, 1986.

山中 晃, 高橋憲太郎, 加藤弘文, 岡田慶夫, 他1名: 膿胸壁に接した胸壁原発 Malignant Fibrous Histiocytoma. 肺癌26: 699-705, 1986.

岡野昌彦, カレッド・レシャード, 乾 健二, 神頭 徹, 和田洋己: 右下葉全域に浸潤した Diffuse Fibroelastomas Hamartoma の1例. 肺癌, 26(4): 427, 1986.

松原義人, 二宮和子, 安田雄司, 塙 健, 八木一之, 宮本好博, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌における腫瘍マーカーの臨床的評価——TPA を中心として——. 日本癌治療学会誌, 21(4): 744-751, 1986.

松原義人, 安田雄司, 塙 健, 宮本好博, 二宮和子, 畠中陸郎, 船津武志, 池田貞雄: 肺癌における SCC 抗原. 日本癌治療学会誌, 21(5): 1036-1048, 1986.

藤尾 彰, 北野司久, 松井輝夫, 朝倉庄志, 辰己明利: Bis (chloromethyl) ether 被暴露者に発生した肺癌の2症例. 日本胸部疾患学会雑誌, 24(1): 79-82, 1986.

松原義人, 塩貝国雄, 池田貞雄: Tennessee antigen. 臨床成人病, 16(6): 215-218, 1986.

山中 晃, 岡田慶夫: 各種腫瘍における腫瘍マーカーの検出と意義——肺癌——. 臨床成人病 16 (6): 1001-1006, 1986.

松原義人, 桑原正喜, 池田貞雄: 肺癌の免疫学的診断法. 呼吸, 5(2): 190-196, 1986.

北野司久, 松井輝夫, 辰己明利: 肺癌細胞の in vivo 制癌剤感受性テスト. 呼吸, 5(5): 550-556, 1986.

池田貞雄, 松原義人, 畠中陸郎, 船津武志: [特集] 肺癌の外科・肺癌の手術. 外科診療, 28(8): 923-931, 1986.

北野司久, 辰己明利, 山中 晃, 松井輝夫, 山下直己, 他2名: 肺癌における制癌剤感受性試験. 外科診療, 28(8): 958-963, 1986.

伊藤元彦: 転移性肺腫瘍の治療——外科の立場から. 外科治療, 55(1): 55-60, 1986.

Kitano M, 他3名: AUC-dependant cytotoxicity of cyclophosphamide against human tumors transplanted into nude mice, J. Clin. Biochem. Nutr. 1(2): 171-179, 1986.

伊藤元彦: 肺癌に対する隣接臓器合併切除. カレントセラピー, 4(12): 1472-1475, 1986.

松原義人, 小鯖 覚, 塙 健, 安田雄司, 宮本好博, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞雄: 縦隔嚢状リンパ管腫の3例. 日本胸部臨床, 45(7): 611(615), 1986.

玉田二郎, 人見滋樹: 末期癌管理上の問題点・癌性胸水. 臨床と研究, 63(3): 826, 1986.

カレッド・レシャード, 乾 健二, 高橋 豊, 糸井和美, 中野 豊, 坂本益雄, 鈴木 清: 原発性肺癌における扁平上皮癌関連抗原 Squamous Cell Carcinoma-Related Antigen の臨床的意義. 日本胸部疾患学会雑誌, 24(8): 878: 1986.

カレッド・レシャード：癌性胸膜炎の補助診断に有用な腫瘍マーカーについて. Medical Tribune, 19(51): 10, 1986.

K. Reshad, K. Inui, T. Takeuchi, M. Kitano, S. Hitomi: Successful Management of Malignant Pleural Effusion with Intrapleural Instillation of Chemoimmunotherapeutic Agents, Clinical application of OK-432 for control of cancer, 167, 1986.

人見滋樹：胸部悪性腫瘍に対する Challenging Operation. 京都外科医報, 8. 7～10. 1986.

源河圭一郎, 前里和夫, 他 9 名：沖縄県における胃癌死亡と肺癌死亡の逆転とその背景. 国療沖縄病院医学雑誌, 7(1): 27, 1986.

Kuwabara M, Matsubara Y, Ikeda S: A human tumor-specific antigen from lung cancer ——A new purification method——. 京大胸部研紀要, 19: 43, 1986.

小林 淳, 福瀬達郎, 奥村典仁, 桑原正喜, 他 1 名：無気肺を呈する肺癌の X 線写真所見. 大阪から肺がんをなくす会会報, 15(2): 9, 1986.

人見滋樹：学術集会のあり方について——意義と発表形式——. 気管支学, 8(4): 405-406, 1986,

## 2. 胸線, 免疫

伊藤元彦：胸腺の外科——腫瘍学と免疫学の接点. 日本胸部疾患学会雑誌, 24(3): 209-210, 1986.

伊藤元彦：縦隔腫瘍——胸腺関連腫瘍を中心に. 日本胸部外科学会雑誌, 34(5), 691-693, 1986.

伊藤元彦：重症筋無力症に対する外科的胸腺摘除の意義. 医学のあゆみ, 137(11): 873, 1986.

伊藤元彦：胸腺関連腫瘍. 医学のあゆみ, 139(12, 13), 972-973, 1986.

青木 稔, 和田洋己, 乾 健二, 山崎文郎, 人見滋樹：レーザードップラー法による気管支粘膜血流測定の検討. 気管支学, 8(4): 622, 1986.

## 3. 結 核

桑原正喜, 小林 淳, 岡田賢二：慢性膿胸開窓術後の前鋸筋による胸壁再建, 臨床胸部外科, 6(1): 86, 1986.  
船津武志, 塙 健, 安田雄司, 榎堀 徹, 小鯖 寛, 住友伸一, 二宮和子, 畠中陸郎, 松原義人, 池田貞雄：非結核性膿胸. 臨床胸部外科, 6(6): 44-47, 1986.

和田洋己, 千原幸司, 人見滋樹：慢性膿胸の問題点——胸部一横隔膜運動・呼吸機能の観点から——. 臨床胸部外科, 6(6)523, 1986.

辰巳明利, 北野司久, 藤尾 彰, 朝倉庄志, 松井輝夫：気管支瘻を伴う胸壁穿孔性慢性膿胸に対する有茎性大網移植片の使用経験. 日本胸部外科学会雑誌, 34(8): 110-113, 1986.

藤尾 彰, 松井輝夫, 朝倉庄志, 辰巳明利, 北野司久：全葉剤耐性肺核症の全摘後気管支瘻・膿胸に対する大網及び筋肉弁充填による 1 治験例. 日本胸部外科学会雑誌, 34(8): 110-113, 1986.

和田洋己, 人見滋樹, 青木 稔, 光岡明夫, 田村康一, 伊藤元彦：外科的対象となった気管支結核. 気管支学, 8(2), 263, 1986.

カレッド・レシャード, 高橋 豊, 糸井和美, 中野 豊, 森田 浩, 平田敏樹, 島田恒治：気管支結核の治験例の検討. 結核, 61(10): 491, 1986.

## 4. 人 工 材 料

渡部 智, 五十部潤, 清水慶彦, 他 2 名：バイオリアクター用酵素含有マイクロカプセルの作製. 人工臓器, 15(1): 243, 1986.

田村康一, 中村達雄, 池 修, 水野 浩, 岡田賢二, 人見滋樹, 清水慶彦, 寺松 孝：高含水ポリビニルアルコールゲルの医用材料としての基礎的研究——生体内埋植後の変化および腸管癒着防止膜としての応用——. 人工臓器, 15(1): 260～263, 1986.

清水慶彦, 渡部 智, 五十部潤, 他 2 名：Bioactive material としてのコラーゲン合成高分子複合体——気管モデルによる観察——人工臓器, 15(1), 299, 1986.

清水慶彦, 他1名: 呼吸不全の新しい治療法——Extracorporeal Lung Assist (ECLA)——. 医学のあゆみ, 136(8), 593, 1986.

松原義人, 池田貞雄: 人工気管による気管再建. 医学のあゆみ, 136(10), 721, 1986.

池田貞雄, 松原義人, 小鯖 覚, 八木一之, 塙 健, 榎堀 徹, 住友伸一, 二宮和子, 畠中陸郎, 船津武志, 桑原正喜, 宮本好博, 安田雄司: 人工気管による気道再建の現況と将来. 気管支学, 8(4): 421-431, 1986.

清水慶彦: 外科領域における組織接着剤 Adhesives for surgery. 日本接着協会誌, 22(2), 131, 1986.

Koichi Tamura, Hiroshi Mizuno, Kenji Okada, Hirofumi Katoh, Shigeki Hitomi Teramatsu Takashi, Yasuhiko Shimizu: Experimental application of polyvinyl alcohol-silica for small artificial vessels. Biomaterial Medical Devices and Artificial Organs 13 (3&4): 133-152, 1985-1986.

Koichi Tamura, Osamu Ike, Shigeki Hitomi, Jun Isobe, Yasuhiko Shimizu: A New Hydrogel and Its Medical Application. Transaction of American Society for Artificial Internal Organs 32(1): 605-608 (1986).

T. Nakamura, S. Watanabe, Y. Shimizu, S. Hitomi: Bioabsorbable Polymers for Clinical Use in Thoracic Surgery, IEEE Transactions on Biomedical Engineering, II, 726, 1986.

## 5. 心・血 管

山崎文郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 河原崎茂孝, 長谷川誠紀, 田辺 一, 有安哲哉, 秋山文弥: 人工透析中の慢性腎不全合併例に対する弁置換術2例の検討. 日本心臓血管外科学会雑誌, 15(4): 403, 1986.

島本光臣, 篠崎 拓, 上野陽一郎, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 長谷川誠紀, 田辺 一, 有安哲哉, 秋山文弥: 補助循環, IABP の臨床—IABP 臨床9年間の成績検討—. 日本心臓血管外科学会雑誌, 15(5): 442, 1986.

上野陽一郎, 篠崎 拓, 島本光臣, 山崎文郎, 河原崎茂孝, 長谷川誠紀, 田辺 一, 有安哲哉, 秋山文弥: 高希釈体外循環における血中ヘパリン濃度測定の意義. 日本心臓血管外科学会雑誌, 15(5): 525, 1986.

島本光臣, 篠崎 拓, 上野陽一郎, 河原崎茂孝, 長谷川誠紀, 田辺 一, 有安哲哉, 秋山文弥: Unstable Angina に対する CABG の成績. 日本心臓血管外科学会雑誌, 16(2): 128, 1986.

秋山文弥, 篠崎 拓, 島本光臣, 上野陽一郎, 河原崎茂孝, 長谷川誠紀, 田辺 一, 有安哲哉: IHSS に対する経大動脈中隔心筋切除術——手技上の工夫——. 日本心臓血管外科学会雑誌, 16(2): 165, 1986.

神谷喜作, 秋山文弥ほか: OP-1206・ $\alpha$ -CD の閉塞性血栓血管炎(バージャー病)に対する治療効果の検討. 現代医療, 18(2): 228, 1986.

伊東政敏, 奥村典仁, 糸井和美, 五十部潤, 井上律子, 小林君美: 解剖学的修正大血管位置異常症の1手術治療例. 日本胸部外科学会雑誌, 34(7): 1017, 1986.

## 6. 一般胸部疾患

田村康一, 中村達雄, 住友伸一, 光岡明夫, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 門 政男, 渡部 智, 清水慶彦, 和沢 仁: 気管支内に突出したポリプ状異常血管の1治療例——レーザー照射中の大量出血例——. 胸部外科, 39(5): 376-380, 1986.

住友伸一, 三宅正幸, 中村達雄, 光岡明夫, 瀧 俊彦, 田村康一, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 清水慶彦: 小児気管支内異物の1手術治療例. 胸部外科, 39(9), 727-730, 1986.

藤尾 彰, 北野司久, 他5名: 気管腕頭動脈瘤の1救命例. 胸部外科, 39(12): 990-992, 1986.

渡部 智, 清水慶彦, 光岡明夫, 田村康一, 和田洋己, 伊藤元彦, 人見滋樹, 高嶋義光, 松延政一, 加藤弘文: アルミナセラミック肋骨接合ピンの臨床的検討——特に胸部外傷における有効性について——. 日本胸部外科学会雑誌, 34(2): 220, 1986.

呉 俊雄, 寺田泰二, 松延政一, 外村聖一, 千原幸司, 清水慶彦: セラミック肋骨ピンにより胸壁再建を行った外傷性多発肋骨骨折の2症例. 日本胸部外科学会雑誌, 34(12): 1986.

三宅正幸, 伊藤元彦, 瀧 俊彦, 住友伸一, 有安哲哉, 人見滋樹, 清水慶彦, 他1名: Intravascular Bronchioloalveolar Tumor の1例. 日本胸部疾患学会雑誌, 24(1): 74, 1986.

安田雄司, 塙 健, 八木一之, 小鯖 覚, 宮本好博, 松原義人, 畠中陸郎, 二宮和子, 船津武志, 池田貞



雄：オウム病の5症例．日本胸部疾患学会雑誌，24(9)：1018-1022，1986．

秋山文弥，篠崎 拓，島本光臣，上野陽一郎，河原崎茂孝，長谷川誠紀，田辺 一，有安哲哉，高橋憲太郎，山崎文郎：漏斗胸に対する腹直筋有茎性胸骨翻転術の遠隔成績——とくに Plastron の生着発育性に関する検討——．臨床胸部外科，6(1)：18，1986．

光岡明夫，人見滋樹，伊藤元彦，和田洋巳，青木 稔，加藤弘文，渡部 智，清水慶彦：漏斗胸に対する腹直筋有茎性胸骨翻転術とその非翻転変法．臨床胸部外科，6(1)：43-47，1986．

高井晶子，室本 仁，倉田昌彦，他2名：補体フィルムを用いた結核補体結合反応の臨床応用．結核，61(6)：327，1986．

人見滋樹，和田洋巳，秋山文弥，カレッド・レシャード，小林君美，高嶋義光，青木幸平，外村聖一，松延政一，池田貞雄，松原義人，岡田英彦，生島宏彦，金城 明，北野司久，桑原正喜，倉田昌彦，山本博昭，玉田二郎，源河圭一郎：Dibekacin 吸入療法に関する検討——吸入後の肺組織内および血中薬剤濃度の経時的变化を中心に——．基礎と臨床，20(4)：699，1986．

人見滋樹：びまん性肺疾患の鑑別診断をめぐる最近の問題点．臨床と解剖セミナー(84)，医学のあゆみ，139(8)：600-608，1986．

伊藤春海，人見滋樹，他16名：間質性肺病変のCT像．画像診断，6：8-14，1986．

朝倉庄志，北野司久，松井輝夫，辰巳明利，藤尾 彰，他3名：診断に難渋した肺の post inflammatory pseudotumor の1切除例．小児外科，8(6)：793-798，1986．

伊藤元彦：気管支腺の異常と疾患．肺と心，33(1)，34-40，1986．

朝田完二，中村隆澄，宮本信昭，他7名：肺犬糸状虫症の1例．呼吸，6(1)：1986．

玉田二郎，人見滋樹：乳癰胸—この症例の治療方針．外科，48(6)：554，1986．

桑原正喜，小林 淳，福瀬達郎，岡田賢二：新しい胸腔ドレナージ器具の考察とその臨床応用．日本胸部臨床，45(11)：1998，1986．

Minoru Aoki, Kei-Ichi Hirai, Motohiko Itoh, and Kazuo Ogawa: Peroxidase Activity in Rat Tracheal Epithelium and Gland. Experimental and Molecular Pathology. 44(1): 83, 1986.

桑原正喜，福瀬達郎，奥村典仁：関西電力病院の胸腔ドレナージ．ドクターズレビュー，2(7)：3，1986．

桑原正喜，福瀬達郎，奥村典仁：胸腔ドレナージ器具の開発．ドクターズレビュー，2(7)：8，1986．

松延政一，室 恒太郎，呉 俊雄，寺田泰二，外村聖一：Morgagni 孔ヘルニアの1手術経験．天津市医師会誌，Vol. 9 (1986. 3)．

松延政一：胸部X線読影について(I)．天津市医師会誌 Vol. 9 (1986. 7)．

松延政一：胸部X線読影について(II)．天津市医師会誌：Vol. 9 (1986. 10)．

桑原正喜：バルブを用いた胸腔ドレナージ法．関西電力病院医学雑誌，17(1, 2)：7，1985．

カレッド・レシャード，鈴木 清，島田恒治：シアル酸および IAP の呼吸気疾患における炎症のパラメーターとしての検討．京大胸部研紀要，19：56，1986．

カレッド・レシャード，糸井和美，高橋 豊，中野 豊，森田 浩，平田敏樹，鈴木 清：呼吸器疾患における血清シアル酸の意義．シアル酸レポート，11. 1986．

#### 〔胸部外科学部門主催講演会〕

F. G. Pearson, M. D. (Surgeon in Chief, Toronto General Hospital, Canada): Present State of Lung Transplantation in the Clinical Field (61. 7. 20)．

Wu. Song Chang, M. D. (Chief Surgeon of Thoracic Surgery Consultation of Shanghai Lung Chest Hospital, P. R. of China): Experiences of Treatment of Lung Cancer in Shanghai (61. 10)．

## 病 理 学 部 門

### 1. 老化・結合組織研究グループ

#### 〔学 会 発 表〕

米津智徳, 樋口京一, 小岸久美子, 竹田俊男, 綱沢 進, 崎山文夫: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究 XXII, マウス老化アミロイド蛋白質 (AS<sub>SAM</sub>) 及びその共通抗原性物質 (apo SAS<sub>SAM</sub>) の一次構造. 第75回日本病理学会 (昭61.4).

樋口京一, 米津智徳, 小岸久美子, 竹田俊男, 国貞隆弘, 青田伸一, 山岸秀夫, 綱沢 進, 崎山文夫: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究 XXIII, マウス老化アミロイド線維蛋白 (AS<sub>SAM</sub>) cDNA の単離. 第75回日本病理学会 (昭61.4).

松下 睦, 坪山直生, 笠井隆一, 奥村秀雄, 山室隆夫, 樋口京一, 米津智徳, 宇谷厚志, 竹田俊男, 山本逸雄: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究 XXIV, 骨粗鬆症系 SAM-R/3 と P/6 の血中 Ca, P, PTH, vitD<sub>3</sub> の変化. 第75回日本病理学会 (昭61.4).

秋山治彦, 川又敏男, 杉山 博, 秋口一郎, 松下 睦, 樋口京一, 細川昌則, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) に関する実験的研究 XXV, 中枢神経系の形態学的変化(2). 第75回日本病理学会 (昭61.4).

秋山治彦, 川又敏男, 杉山 博, 秋口一郎, 亀山正邦, 竹田俊男, 木村 宏: 老化促進モデルマウス: SAM-P/8 の脳に多発する PAS 染色陽性で, 免疫グロブリン親和性を持つ顆粒状特異構造について. 第27回日本神経学会総会 (昭61.5).

秋山治彦, 川又敏男, 杉山 博, 秋口一郎, 亀山正邦, 松下 睦, 細川昌則, 竹田俊男, 木村 宏: PAS 染色陽性で免疫グロブリンに親和性を持つ顆粒状構造について——老化促進モデルマウスにおける多発——. 第27回日本神経病理学会学術研究会 (昭61.6).

松下 睦: 老化促進モデルマウス (SAM) における加齢に伴う諸病変とホメオスタシス—特に老化アミロイドーシスと骨粗鬆症について. シンポジウム<ホメオスタシスと老化>日本基礎老化学会第10回大会 (昭61.7).

八木秀雄, 松下隆寿, 梅沢真樹子, 竹田俊男, 坪山直生, 松下 睦, 秋山治彦, 秋口一郎: コンベンショナル飼育下 SAM-P/8 系における受動的回避反応と脳幹の海綿状変性について. 日本基礎老化学会第10回大会 (昭61.7).

花田敬吾, 梅沢真樹子, 細川友秀, 細野正道, 光岡明夫, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) の免疫応答能: SAM 系統間における比較. 日本基礎老化学会第10回大会 (昭61.7).

内木宏延, 樋口京一, 米津智徳, 松下 睦, 小岸久美子, 竹田俊男, SAM における HDL 代謝—とくにapo A-II クリアランスと AS<sub>SAM</sub> 沈着との関連について. 日本基礎老化学会第10回大会 (昭61.7).

坪山直生, 松下 睦, 笠井隆一, 奥村秀雄, 山室隆夫, 樋口京一, 米津智徳, 宇谷厚志, 竹田俊男, 山本逸雄: 自然発症骨粗鬆症モデルマウス (SAM-P/6) における血中 Ca, P, PTH, vitD<sub>3</sub> 値の変化. 日本基礎老化学会第10回大会 (昭61.7).

米津智徳, 樋口京一, 国貞隆弘, 青田伸一, 山岸秀夫, 綱沢 進, 崎山文夫, 小岸久美子, 内木宏延, 細川昌則, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス (SAM) にみるマウス老化アミロイド症の分子遺伝学的研究. 日本基礎老化学会第10回大会 (昭61.7).

細川昌則: 老化促進モデルマウス (SAM) の開発とその老化諸特性. 招待講演・三菱化成生命科学研究所 (昭61.8).

秋山治彦, 川又敏男, 杉山 博, 秋口一郎, 亀山正邦, 竹田俊男: 老化促進モデルマウス SAM-P/8 において加齢とともにみられる astrocyte の増加について. 第5回老年期脳障害研究会 (昭61.9).

Kimura, T., Akiyama, H., Sugiyama, H., Kawamata, T., Nakamura, S., Akiguchi, I., Kameyama, M. and Takeda, T.: Morphological changes in the central nervous system of SAM-P/8 (Senescence Accelerated Mouse-P/8). X International Congress of Neuropathology, 1986 (Stockholm, Sweden Sept. 7-12).

Higuchi, K. and Takeda, T.: Animal Models. International Course on Amyloidosis, 1986 (Groningen, The

Netherlands Oct. 10-11).

Higuchi, K. and Takeda, T.: Amyloidogenic Proteins in Mice. International Course on Amyloidosis, 1986 (Groningen, The Netherlands Oct. 10-11).

〔誌 上 発 表〕

Hosokawa, M., Phillips, P. D. and Cristofalo, V. J.: The effect of dexamethasone on epidermal growth factor binding and stimulation of proliferation in young and senescent WI38 cells, *Exp. Cell Res.* 164 : 408-414 (1986).

Ozasa, H., Tominaga, T. and Takeda, T.: Evidence of an estrogen-like effect of dehydroepiandrosterone on lysyl oxidase activity in the mouse cervix, *Acta Obstet. Gynecol. Scand.* 65 : 543-545 (1986).

Yonezu, T., Higuchi, K., Tsunasawa, S., Takagi, S., Sakiyama, F. and Takeda T.: High homology is present in the primary structures between murine senile amyloid protein (AS<sub>SAM</sub>) and human apolipoprotein A-II, *FEBS Letters* 203 : 149-152 (1986).

Kunisada, T., Higuchi, K., Aota, S., Takeda, T. and Yamagishi, H.: Molecular cloning and nucleotide sequence of cDNA for murine senile amyloid protein : nucleotide substitutions found in apolipoprotein A-II cDNA of senescence accelerated mouse (SAM), *Nucleic Acids Res.* 14 : 5729-5740 (1986).

Higuchi, K., Yonezu, T., Kogishi, K., Matsumura, A., Takeshita, S., Higuchi, K., Kohno, A., Matsushita, M., Hosokawa, M. and Takeda, T.: Purification and characterization of a senile amyloid-related antigenic substance (apo SAS<sub>SAM</sub>) from mouse serum, *J. Biol. Chem.* 261 : 12834-12840 (1986).

Miyamoto, M., Kiyota, Y., Yamazaki, N., Nagaoka, A., Matsuo, T., Nagawa, Y. and Takeda, T.: Age-related changes in learning and memory in the senescence-accelerated mouse (SAM), *Physiology and Behavior*. 38 : 399-406 (1986).

Matsushita, M., Tsuboyama, T., Kasai, R., Okumura, H., Yamamuro, T., Higuchi, K., Higuchi, K., Kohno, A., Yonezu, T., Utani, A., Umezawa, M. and Takeda, T.: Age-related changes in bone mass in the Senescence Accelerated Mouse (SAM): SAM-R/3 and SAM-P/6 as new murine models for senile osteoporosis, *Am. J. Pathol.* 125 : 276-283 (1986).

Higuchi, K., Yonezu, T., Tsunasawa, S., Sakiyama, F. and Takeda, T.: The single proline-glutamine substitution at position 5 enhances the potency of amyloid fibril formation of murine apo A-II, *FEBS Letters*. 207 : 23-27 (1986).

Akiyama, H., Kameyama, M., Akiguchi, I., Sugiyama, H., Kawamata, T., Fukuyama, H., Kimura, H., Matsushita, M. and Takeda, T.: PAS-positive, granular structures increase in the brain of Senescence Accelerated Mouse (SAM), *Acta neuropathol.* 72 : 124-129 (1986).

Higuchi, K., Matsumura, A., Takeshita, S., Yonezu, T., Honma, A., Higuchi, K., Hosokawa, M. and Takeda, T.: A new senile amyloid fibril protein and its putative precursor in Senescence Accelerated Mouse (SAM). In Glenner G. G. et al. (ed) *Amyloidosis*. Plenum Publishing Corporation, New York, pp. 669-677 (1986).

Shimizu, K., Ishii, M., Kasai, R., Matsushita, M., Yamamuro, T., Higuchi, K. and Takeda, T.: Amyloid deposition in the articular structures of senescence accelerated mouse (SAM), In Glenner G. G. et al. (ed) *Amyloidosis*. Plenum Publishing Corporation, New York, pp. 679-682 (1986).

Higuchi, K. and Takeda, T.: Animal models. In *Amyloidosis*. Martinus Nijhoff Publishers, Kluwer Academic Publishers Group, Dordrecht/Boston/Lancaster, pp. 283-291 (1986).

Higuchi, K. and Takeda, T.: Amyloidogenic Proteins in Mice. In *Amyloidosis*. Martinus Nijhoff Publishers, Kluwer Academic Publishers Group, Dordrecht/Boston/Lancaster, pp. 311-316 (1986).

## 2. 肺表面活性物質研究グループ

### 〔学 会 発 表〕

鈴木康弘, 小岸久美子, 藤田葉子: 豚肺サーファクタントアポ蛋白に対するモノクローナル抗体の作成. 第75回日本病理学会総会 (昭61年4月).

藤田葉子, 小岸久美子, 鈴木康弘, 大川欣一: 豚肺表面活性物質アポ蛋白に対するモノクローナル抗体産生ハイブリドーマ移植マウスの肺所見. 同上.

大川欣一, 鈴木康弘: ナジ反応に関する研究 (第8報)・本態についての再検討——ヒト白血球ペルオキシダーゼ並にウシ肝カタラーゼの関与——. 同上.

大川欣一, 鈴木康弘: ラット大腸上皮細胞の細胞化学的研究(1), ペルオキシダーゼ分布の消長——骨髓性白血病との対比——. 同上.

### 〔誌 上 発 表〕

Y. Suzuki, K. Kogishi, Y. Fujita, T. Kina and S. Nishikawa: A monoclonal antibody to the 15,000 dalton protein associated with porcine pulmonary surfactant. *Exp. Lung Res.* 11: 61-73, 1986.

Y. Suzuki, K. Kogishi, Y. Fujita: Ultrastructural localization and its possible role on the surface activity of the 15,000 dalton protein associated with pig Pulmonary surfactant. *J. Jpn Med Soc. Biol. Interface* 17: 76-82, 1986.

Y. Suzuki, T. Curstedt, G. Grossmann, T. Kobayashi, R. Nilsson, K. Nobara, and B. Rebertson: The role of low-molecular weight ( $\leq 15,000$  daltons) apoproteins of pulmonary surfactant. *Eur. J. Respir. Dis* 69: 336-345, 1986.

中井栄一, 鈴木康弘: 赤血球・膜における膜内粒子 (IMP) 分布の分析. *日本界面医学会雑誌*, 17: 53-60, 1986.

## 細菌血清学部門

### 〔学 会 発 表〕

桂 義元, 西川伸一, 雨貝 孝: T細胞系幹細胞の絶対数の測定. 第48回日本血液学会総会, 昭61年4月, 福島.

西川伸一, 桂 義元: 長期骨髓細胞培養中のB前駆細胞の頻度について. 同上学会.

Katsura, Y., Kina, T., Amagai, T., Tsubata, T., Takaoki, M. and Nishikawa, S.: Limiting dilution analysis of stem cells for T-cell lineage. 6th International Congress of Immunology. July 1986, Canada.

Hosono, M., Kina, T., Takaoki, Y. and Katsura, Y.: Neonatal tolerance to Mls antigens in the thymus: Antigen specificity and effects of MHC-haplotypes of tolerance-inducing cells and chimerism of thymic lymphocytes. 6th International Congress of Immunology. July 1986 Canada.

Nishikawa, S., Hirayoshi, K., Kina, T., and Katsura, Y.: Transition from Dexter's long term bone marrow culture to long term B cell culture. 6th International Congress of Immunology. July 1986, Canada.

Kina, T., Nishikawa, S., Hirayoshi, T., Takaoki, Y. and Katsura, Y.: Enrichment of T-stem cells in the spleen of irradiated and marrow reconstituted mouse. July 1986, Canada.

Tsubata, T., Nishikawa, S., Katsura, Y., Kumagai S., and Imura, H.: Selection of B cell repertoire reactive against DNA in normal mice. 6th International Congress of Immunology. July 1986, Canada.

Hirayoshi, K., Nishikawa, S., Kina, T. and Katsura, Y.: Characterizations of B cell precursors in Dex-

ter's long term bone marrow culture. 6th International Congress of Immunology. July 1986, Canada.

桂 義元, 喜納辰夫, 高沖悠子, 西川伸一: T細胞系幹細胞の解析と定量. 第16回日本免疫学会総会, 昭61年12月, 東京.

細野正道, 喜納辰夫, 桂 義元: MHC クラスII反応性胸腺細胞における新生仔免疫寛容誘導. 免疫寛容と胸腺細胞キメラリズムとの関連について. 同上学会.

西川伸一, 鏑田武志, 喜納辰夫, 桂 義元: Idiotope 及び anti-idiotope による idiotope 産生の増強—まず network の法則の現象論的把握に向けて. 同上学会

喜納辰夫, 雨貝 孝, 西川伸一, 広川勝彦, 桂 義元: 全身及び部分照射マウスにおける T細胞機能分化の解析. 同上学会.

鏑田武志, 西川伸一, 桂 義元, 熊谷俊一, 井村裕夫: 正常マウスおよびループスマウスにおける抗 DNA 抗体産生B細胞レパートアの研究. 同上学会.

平芳一法, 喜納辰夫, 西川伸一, 桂 義元: *In vitro* での B細胞の分化と免疫グロブリン遺伝子の多様化. 同上学会.

小川峰太郎, 北村幸彦, 平芳一法, 喜納辰夫, 西川伸一, 桂 義元: 長期骨髓培養を用いた Scid マウスの異常についての解析. 同上学会.

雨貝 孝, 喜納辰夫, 西川伸一, 今西二郎, 桂 義元: 単一幹細胞に由来する胸腺細胞の機能的分化(続報). 同上学会.

Tsubata, T., Nishikawa, S., Kumagai, S., Imamura, H. and Katsura, Y.: Study of anti-DNA repertoire in normal and lupus mice. New horizons in animal models for autoimmune disease. March 1986, Tokyo.

鏑田武志, 桂 義元, 井村裕夫: 抗 DNA レパートアの研究——交差反応性の起源について. 第36回日本アレルギー学会総会, 昭61年10月, 岐阜.

### 〔誌 上 発 表〕

桂 義元: Tリンパ球系幹細胞, Medical Immunology, 12(1), 9-17, 1986.

Katsura, Y., Kina, T., Amagai, T., Tsubata, T., Hirayoshi, K., Takaoki, Y., Sado, T. and Nishikawa, S.: Limiting dilution analysis of the stem cells for T cell lineage. J. Immunol., 137, 2434-2439, 1986.

Hosono, M., Kina, T., Hosokawa, T. and Katsura, Y.: Neonatal tolerance induction in the thymus to MHC-class II-associated antigens. I. Preferential induction of tolerance to Mls antigens and resistance to allo-MHC antigens. Cell. Immunol., 103, 1-10, 1986.

Hosono, M. and Katsura, Y.: Neonatal tolerance induction in the thymus to MHC-class II-associated antigens. II. Significance of MHC-antigens in anti-Mls tolerance. Cell. Immunol., 103, 11-18, 1986.

Hosono, M., Fujiwara, M. and Katsura, Y.: Age-related change of spleen cells participating in MHC-homozygous F<sub>1</sub> anti-parent mixed lymphocyte reactions. Dev. Comp. Immunol., 10, 585-595, 1986.

Nishikawa, S., Sasaki, Y., Kina, T., Amagai, T. and Katsura, Y.: A monoclonal antibody against Igh6-4 determinant. Immunogenetics, 23, 137-139, 1986.

鏑田武志, 西川伸一: B細胞の初期分化. 臨床免疫, 8, 227-233, 1986.

平芳一法, 西川伸一: 細胞遺伝子・免疫——バイオテクノロジーの基本——, Stem cell の長期培養とB系細胞のクローニング. 医学のあゆみ別冊, 139-145, 1986.

### 〔 著 書 〕

西川伸一, 鏑田武志: B細胞の分化. 免疫の研究 (山村雄一編), 同文書院, 191~203, 1986.

桂 義元: 遅延型過敏症を媒介するT細胞 (T<sub>DTH</sub>). 免疫の研究 (山村雄一編), 同文書院, 173-187, 1986.

## 細胞化学部門

### 〔学会発表〕

K. M. Yamada, K. Nagata, S. Saga, B. A. Bernard, S. S. Yamada, D. W. Kennedy, W.-T. Chen, and S. K. Akiyama: Membrane Interactions with fibronectin and collagen. The 26th annual meeting of the American society for cell biology. 1986. 11月, Washington, D. C., USA.

K. M. Yamada, S. K. Akiyama, M. J. Humphries, K. Nagata, S. Saga, S. S. Yamada, T. Hasegawa, D. W. Kennedy, K. Olden and W.-T. Chen: Fibronectin—A molecular analysis of cell adhesion. Lecture in Linderstrom-lang conference, 1985, 11月, Helsinki, Finland.

永田和宏:細胞—フィブロネクチン相互作用におけるコラーゲンの関与. 日本動物学会ワークショップ「動く—その機構と制御」, 昭和61年7月, 東京.

K. Nagata and K. M. Yamada: Phosphorylation and transformation sensitivity of a major membrane-associated, collagen-binding protein of fibroblasts. 第45回日本癌学会総会, 昭和61年10月, 札幌.

永田和宏, 佐賀信介, K. M. Yamada: コラーゲン結合能を持った細胞膜蛋白質は, 新しい heat shock 蛋白質である. 第39回日本細胞生物学会, 昭和61年10月, 東京.

大川欣一, 鈴木康弘: ナゼ反応に関する研究 (第8報) 本態についての再検討——ヒト白血球ペルオキシダーゼ並びにウシ肝カタラーゼの関与——. 61年度第75回日本病理学会総会 (於東京).

大川欣一, 鈴木康弘: ラット大腸上皮細胞の細胞化学的研究. (1)ペルオキシダーゼの分布の消長——骨髓性白血球との対比. 61年度第75回日本病理学会総会 (於東京)

K. Ohkawa and Y. Suzuki: M-Nadi reaction in leucocytes as revealed by electron microscopy. XXI Congress of the International Society of Haematology (1986; in Sydney, Australia)

K. Ohkawa and Y. Suzuki: Occurrence of gigantic peroxisomes in aged female rat hepatocytes (Falk Symposium, 1986 Liver Week; Basel Switzerland.)

Umehara H, Kumagai S., Namiuchi S., Ishida H., Fujita T., Suginoshita T., Imura H., and Maeda M.: Abnormalities of IL-2 production in MCTD, PSS and SLE patients assayed by a novel human T-cell clone. 6th International Congress of Immunology, Toronto, Canada. July, 1986.

Sano H., Kumagai S., Yodoi J., Uchiyama T., Maeda M., and Imura H.: Antibodies to IL-2 receptor in sera of SLE patients. 6th International Congress of Immunology, Toronto, Canada., July 1986.

梅原久範, 熊谷俊一, 波内俊三, 石田 博, 藤田 宗, 杉之下俊彦, 前田道之, 井村裕夫: PSS における IL-2 産生能の異常—IL-2 依存性ヒト T 細胞を用いた解析. 第16回日本免疫学会総会, 東京, 1986年12月.

熊谷俊一, 波内俊三, 佐野 統, 鏑田武志, 梅原久範, 石田 博, 東 二郎, 杉田昌彦, 井村裕夫, 淀井淳司, 板村繁之, 畑中正一, 前田道之: 全身性エリテマトーデス (SLE) 患者における HTLV-I 感染の意義. 同上.

多賀谷温, 笠原 忠, 前田道之, 近藤信雄, 羽室淳爾, 淀井淳司: ADF (ATL-derived factor): Heterogeneity and target cell specificity. 同上.

前田道之, 有馬直道, 岡本祐之, 柏原万里, 城野憲二, 松岡雅雄, 服部俊夫, 高月 清, 内山 卓, 生田宏一, 清水 章, 本庶 佑, 淀井淳司: 成人 T 細胞白血病 (ATL) 細胞の IL-2 依存性および非依存性増殖の ATL 発症における意義. 第45回日本癌学会総会, 札幌, 1986年10月.

笠原勝幸, 山室隆夫, 山本逸雄, 前田道之, 多賀谷温, 淀井淳司: 培養 ATL 細胞における骨吸収促進因子の産生. 同上.

多賀谷温, 岡田雅文, 野間隆文, 中邨智之, 堀 利行, 前田道之, 内山 卓, 本庶 佑, 笠原 忠, 淀井淳司: ATL 由来因子 (ADF) の heterogeneity: ADF と IL-1 $\alpha$  の関係について. 同上.

梅原久範, 熊谷俊一, 波内俊三, 石田 博, 藤田 宗, 井村裕夫, 杉之下俊彦, 前田道之: 自己免疫疾患における IL-2 産生能の異常—IL-2 依存性ヒト T 細胞株を用いた解析. 第14回日本臨床免疫学会総会, 東京, 1986年6月.

前田道之：成人T細胞白血病(ATL)細胞の増殖とIL-2受容体の発現異常. 第2回東洋紡分子生物学研修会, 京都, 1986年7月.

〔誌 上 発 表〕

K. M. Yamada, S. K. Akiyama, T. Hasegawa, E. Hasegawa, M. J. Humphries, D. W. Kennedy, K. Nagata, H. Urushihara, K. Olden and W.-T. Chen: Recent advances in research on fibronectin and other cell attachment proteins. *J. Cell. Biochem.* 28: 79-97 (1985).

T. Hashida, J. Sagara, Y. Ichikawa and K. Nagata: Plasma membranes purified from myeloid leukemia cells before and after differentiation. I. Characterization of spectrin-like proteins and increased association of actin. *Exptl. Cell Res.* 164: 481-491 (1986).

K. Nagata and K. M. Yamada: Phosphorylation and transformation sensitivity of a major collagen-binding protein of fibroblasts. *J. Biol. Chem.* 261: 7531-7536 (1986).

K. Nagata, S. Saga and K. M. Yamada: A major collagen-binding protein of chick embryo fibroblasts is a novel heat shock protein. *J. Cell Biol.* 103: 223-229 (1986).

永田和宏：コラーゲンレセプターとレセプター間相互作用. 蛋白質核酸酵素, 32(3): 227-238 (1987).

Sano, H., Kumagai, S., Namiuchi, S., Uchiyama, T., Yodoi, J., Maeda, M., Takatsuki, K., Sugimoto, T. and Imura, H.: Systemic lupus erythematosus sera anti-lymphocyte reactivity: Detection of antibodies to Tac antigen positive T cell lines. *Clin. Exp. Immunol.*, 63: 8-16, 1986.

Kondo, S., Shimizu, A., Maeda, M., Tagaya, Y., Yodoi, J. and Honjo, T.: Expression of functional human interleukin 2 receptor in mouse T cells by cDNA transfection. *Nature*, 320: 74-77, 1986.

Sabe, H., Kondo, S., Shimizu, A., Tagaya, Y., Yodoi, J., Kobayashi, N., Hatanaka, M., Matsunami, N., Maeda, M., Noma, T. and Honjo, T.: Properties of human interleukin-2 receptors expressed on non-lymphoid cells by cDNA transfection. *Mol. Biol. Med.*, 2: 379-396, 1984.

Namiuchi, S., Kumagai, S., Sano, H., Yodoi, J., Uchiyama, T., Ikai, K., Imura, H. and Maeda, M.: A human T cell line established from a patient with Sezary syndrome: Application for assay of human interleukin 2(IL-2). *J. Immunol. Methods*, 94: 215-224, 1986.

Noma, T., Nakamura, T., Maeda, M., Okada, M., Taniguchi, Y., Tagaya, Y., Yaoita, Y., Yodoi, J. and Honjo, T.: Interleukin 1 mRNA in virus-transformed T and B cells. *B. B. R. C.*, 139: 353-360, 1986.

前田道之, 淀井淳司: IL-2 と IL-2 レセプターの遺伝子支配. 生体防御, 3: 31-41, 1986.

前田道之: 成人T細胞白血病(ATL)細胞の増殖とIL-2受容体の発現異常. 実験医学, 10: 905-907, 1986.

〔著 書〕

永田和宏: 白血病細胞のアクチン. 「続生化学実験講座」(日本生化学会編), 第6巻(細胞骨格の構造と機能), 東京化学同人, 112-116 (1985).

永田和宏: 白血病細胞のアクチン結合タンパク質. 同上第6巻, 259-266 (1985).

K. M. Yamada, S. K. Akiyama, T. Hasegawa, E. Hasegawa, M. J. Humphries, D. W. Kennedy, K. Nagata, H. Urushihara, K. Olden and W.-T. Chen: Recent advances in research on fibronectin. in "Extracellular matrix: structure and function" Alan R. Liss, Inc. 199-217 (1985).

## 臨床肺生理学部門

### 〔学会・研究会〕

久野健志：各種肺疾患．＜座長発言＞第26回日本胸部疾患学会総会，1986. 4.

大井元晴，陳 和夫，栗山隆信，平井正志，久野健志，佐川弥之助，奥井克治，堀川禎夫：過換気後の睡眠時における無呼吸の型の変化．第26回日本胸部疾患学会総会，1986. 4.

陳 和夫，大井元晴，平井正志，栗山隆信，山岡新八，西川忠男，松尾晃次，平田博通，久野健志，佐川弥之助：低酸素負荷の睡眠時呼吸に及ぼす影響．第26回日本胸部疾患学会総会，1986. 4.

平井正志，大井元晴，栗山隆信，陳 和夫，中村吉法，木村哲郎，福井基成，久野健志，佐川弥之助：閉塞性無呼吸に対する鼻 CPAP の有効性．同上，1986. 4.

川上賢三，平林正孝，三嶋理晃，中川正清，久野健志：ランダム波オシレーション法による COPD における気道および肺胸郭インピーダンスの周波数特性の解析．同上，1986. 4.

川添隆司，加藤幹夫，他：びまん性肺出血の1症例（肺・腎生検とその免疫状体法による検討）．同上，1986. 4.

山岡新八，栗山隆信，平井正志，大井元晴，陳 和夫，久野健志，佐川弥之助，他：肺性心の病態評価（<sup>201</sup>Tl 心筋シンチ SPECT の導入）．同上，1986. 4.

大井元晴：睡眠時呼吸障害．第7回胸部疾患セミナー，1986. 4.

平井正志，大井元晴：睡眠時無呼吸症候群の治療等に対する睡眠時の呼吸の変化．佐島カンファレンス，1986. 4.

越久仁敬，大井元晴，久野健志：呼吸調節系のダイナミックレバンス特性．京阪神肺機能研究会，1986. 5.

安田隆三郎，吉田 仁，他：Stanford A 型解離性大動脈瘤の手術経験について．第21回滋賀県循環器疾患研究会，1986. 5.

坪井裕志：大阪日赤の肺癌の5年生存例について．大阪から肺癌をなくす会，1986. 5.

新林成介，高橋康広：ツベルクリン反応陰性化を伴った成人百日咳の1例．第27回日本胸部疾患学会近畿地方会，1986. 6.

平田博通，竹内 亮，李 勝弘，久野健志，佐川弥之助：胸部腎の1症例．同上，1986. 6.

福井基成，吉田 仁，栗山隆信，佐藤公彦，越久仁敬，久野健志，佐川弥之助：胸腺ならびに胸腺腫摘出1年半後に発症した重症筋無力症の1例．同上，1986. 6.

福永隆文，大井元晴，平井正志，陳 和夫，栗山隆信，久野健志，佐川弥之助：睡眠時高度の CO<sub>2</sub> 蓄積を認めた脊椎カリエスによる慢性呼吸不全の1例．同上，1986. 6.

木村哲郎，松尾晃次，栗山隆信，平井正志，祝 爾誠，陳 和夫，山岡新八，李 勝弘，大井元晴，久野健志，佐川弥之助：アルミトリンと肺理学療法が奏効した結核後遺症慢性呼吸不全の1例．同上，1986. 6.

堀川禎夫，平井正志，栗山隆信，陳 和夫，祝 爾誠，大井元晴，久野健志，佐川弥之助：Acetazolamide が奏効した閉塞型睡眠時無呼吸症候群の1例．第27回日本胸部疾患学会近畿地方会，1986. 6.

白川太郎，梅宮正志，加藤幹夫，他：超合金喘息の原因物質の検討（Ⅲ）．同上，1986. 6.

梅宮正志，加藤幹夫，川上賢三，中川正清，他：Inflammatory Pseudotumor の1例．同上，1986. 6.

福田正悟，鎌苅邦彦，土肥佳郎：肺アスペルギルス症術後に発症したアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の1例．第29回日本胸部外科学会関西地方会，1986. 6.

渡田正二，安田隆三郎，吉田 仁，西川忠男：大動脈弁原発腫瘍の1例．同上，1986. 6.

鎌苅邦彦，福田正悟，土肥佳郎：1期肺小細胞癌の2例．大津赤十字病院集談会，1986. 6.

鎌苅邦彦，福田正悟，土肥佳郎：呼吸不全を伴った急性発症の重症肺炎の1例．滋賀県感染症懇話会，1986. 6.

加藤幹夫：＜特別講演＞低酸素性肺血管収縮反応．第25回日本肺癌学会中国四国地方会，第21回日本胸部疾患学会中国四国地方会，1986. 6.



加藤幹夫：酸塩基平衡．第4回実践肺機能講座，1986. 6.

鎌苅邦彦，福田正悟，土肥佳郎：I期肺小細胞癌の2例．第26回滋賀呼吸器疾患談話会，1986. 7.

加藤幹夫：＜教育講座＞人工呼吸と換気血流比．第8回人工呼吸研究会，1986. 7.

加藤幹夫：血液ガス・酸塩基調節．第26回臨床肺機能講習会，1986. 8.

加藤幹夫：クリニカルフィジオロジー，肺結核（含術後）．同上，1986. 8.

安田隆三郎，他：高令者（70才以上）開心術症例の検討．第23回京滋奈良循環器懇和会，1968. 8.

藤田 準，小中義照，水谷 哲，鍵岡 均，田中瑩子，藤田正憲，福井基成：肺内に多発性結節を反復した Non-Hodgkin Lymphoma の1例．第120回日本内科学会近畿地方会，1986. 9.

田中瑩子，福井基成，鍵岡 均，藤田正憲：Medical Bullectomy が奏効した，Vanishing Lung による急性呼吸不全の1症例．第28回気胸研究会，1986. 9.

福田正悟，鎌苅邦彦，土肥佳郎：肺アスペルギルス症術後に発症したアレルギー性気管支肺アスペルギルス症の1例．大津赤十字病院集談会，1986. 9.

市谷勉雄，弘野慶次郎，坪井裕志，大谷 博：巨大ブラと気道との交通について．第39回日本胸部外科学会総会，1986. 10.

坪井裕志，市谷勉雄，弘野慶次郎，木下 隆：肺癌手術125例の検討—特に予後とそれを左右する因子について．第27回日本肺癌学会総会，1986. 10.

### 〔学 会 発 表〕

大井元晴：シンポジウム睡眠と呼吸，睡眠時無呼吸の上気道の開存性について．第23回日本臨床生理学会総会，1986. 10.

越久仁敬，大井元晴，久野健志，佐川弥之助：呼吸調節系のダイナミック・レスポンス特性．第23回日本臨床生理学会総会，1986. 10.

川上賢三，平林正孝，中川正清，三嶋理晃，久野健志：ランダム波オシレーション法による COPD における気道および肺胸郭インピーダンスの周波数特性の解析．同上，1986. 10.

越久仁敬，久野健志，佐川弥之助：呼吸調節系のダイナミック・レスポンス特性．呼吸調節研究会，1986. 10.

越久仁敬，佐川弥之助：肺小細胞癌の化学療法．滋賀医学会，1986. 10.

久野健志：ランダム波オシレーション法を用いた呼吸器系の換気力学的検査．第4回「呼吸の ME 研究会」1986. 11.

三嶋理晃，川上賢三，福永隆文，山岡新八，久野健志：樹脂キャストによる実測気管支分岐に基づく肺の換気力学特性の研究．同上，1986. 11.

三嶋理晃，福永隆文，山岡新八，久野健志： $^{133}\text{Xe}$  持続注入法による肺の換気血流分布の測定．第28回日本胸部疾患学会近畿地方会，1986. 11.

陳 和夫，大井元晴，平井正志，栗山隆信，祝 爾誠，山岡新八，松尾晃次，関野 一，久野健志：過換気発作回復過程に低酸素血症を呈した過換気症候群の1例．同上，1986. 11.

平井正志，栗山隆信，陳 和夫，大井元晴，祝 爾誠，福永隆文，平田博通，中村吉法，田中嘉人，久野健志：手術により中枢型無呼吸の消失をみた Arnold-Chiari malformation の1例．同上，1986. 11.

平林正孝，吉田 仁，川上賢三，三嶋理晃，中川正清：肺胞蛋白症の1例．同上，1986. 11.

福永隆文，川上賢三，山岡新八，三嶋理晃，久野健志，気道および肺胸郭インピーダンスに対する呼吸相の影響について．同上，1986. 11.

鍵岡 均，的崎早智子，田中瑩子，水谷 哲，福井基成，藤田正憲：両側肺炎及び呼吸不全を呈した高度の気管・気管支狭窄を認める Tracheobronchopathia osteochondroplastica の1例．同上，1986. 11.

足立規子，市谷勉雄，坪井裕志，他：ステロイド治療にもかかわらず2年の経過で肺機能障害の進行した過敏性肺炎の1例．同上，1986. 11.

河北誠三郎，梅宮正志，加藤幹夫，他：血性心嚢液で心シンボナーデを呈した結核性心膜炎の1例．同上，1986. 11.

- 藤村直樹, 梅宮正志, 加藤幹夫, 他: びまん性肺散布影を伴った結核性腹膜炎の1症例. 同上, 1986. 11.
- 白川太郎, 梅宮正志, 加藤幹夫, 他: 気道過敏性測定法の比較検討. 同上, 1986. 11.
- 田中 茂, 梅宮正志, 加藤幹夫, 他: リンパ球刺激テストにより, セファゾリン (CEZ) による薬剤誘起性肺臓炎と推定された1例. 同上, 1986. 11.
- 梅宮正志, 加藤幹夫, 他: 高槻赤十字病院における在宅酸素療法の検討. 同上, 1986. 11.
- 川添隆司, 梅宮正志, 加藤幹夫, 他: 経気管支鏡的アンフォテリシンB注入による肺アスペルギローマの2治療例. 同上, 1986. 11.
- 川添隆司, 梅宮正志, 加藤幹夫, 他: Malignant Schwannoma のびまん性肺転移と考えられた1症例. 同上, 1986. 11.
- 的崎早智子, 福井基成, 鍵岡 均, 田中瑩子, 小中義照, 藤田正憲: M. Kansaii 症の治療中に縦隔腫瘍の形成をみた CML の1症例. 同上, 1986. 11.
- 木下 隆, 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志: Tracheobronchopathia osteoplastica の2例. 同上, 1986. 11.
- 越久仁敬, 佐川弥之助, 他: 横隔膜破裂の1例. 滋賀呼吸器疾患談話会, 1986. 11.
- 木下 隆, 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志: 心嚢憩室症の1例. 第140回近畿外科学会, 1986. 11.
- 木下 隆, 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志: 気管支カルチノイドの2例. 第22回日本赤十字社医学会総会, 1986. 11.
- 坪井裕志, 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 木下 隆: 肺癌手術125例の予後とそれを左右する因子についての検討. 同上, 1986. 11.
- 市谷勉雄: 肺癌の症状と胸部X線. 大阪から肺癌を無くす会, 1986. 11.
- 藤田正憲: 喀痰分離株の各種ニューキノロン MIC 比較—ニューキノロンの基礎と臨床. 第1部「タリビッドの臨床検討」, 1986. 11.
- 稲垣暢也, 南方 保, 福井基成, 水谷 哲, 鍵岡 均, 田中瑩子, 藤田正憲: 急性呼吸不全, DIC, 急性腎不全を呈するも救命しえた粟粒結核の1例. 第121回日本内科学会近畿地方会, 1986. 11.
- 安田隆三郎, 他: 自然気胸手術症例の臨床的検討. 第27回滋賀呼吸器疾患談話会, 1986. 11.
- 前川豊行, 鎌苅邦彦, 福田正悟, 土肥佳郎: CT にて経過を観察し得た多発性肺膿瘍の1例. 同上, 1986. 11.
- 杉田隆彰, 安田隆三郎: 解離性大動脈瘤 (De BAKEY III型) の一緊急手術例について. 第4回滋賀救急医療研究会, 1986. 11.
- 川上賢三, 平林正孝, 吉田 仁, 中川正清: ランダム波オシレーション法による COPD における気道および肺胸郭インピーダンスの周波数特性の解析. 第1回兵庫県立病院学術集談会, 1986. 11.
- 平井正志, 陳 和夫, 栗山隆信, 祝 爾誠, 大井元晴, 久野健志: 閉塞型無呼吸症候群に対する, 酸素投与効果の投与前評価に関する検討. 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班総会, 1986. 12.
- 越久仁敬, 佐川弥之助: 呼吸調節系のダイナミック・レスポンス特性. 西部肺機能同好会, 1986. 12.
- 前川豊行, 鎌苅邦彦, 福田正悟, 土肥佳郎: CT にて経過を観察し得た多発性肺膿瘍の1例. 大津赤十字病院集談会, 1986. 12.
- 加藤幹夫: 呼吸調節異常と肺機能. 第5回実践肺機能講座, 1986. 12.
- 田中嘉人, 平井正志, 大井元晴, 井村真理: Relapsing polychondritis の1例. 第9回臨床肺生理学部門研究会, 1986. 12.
- 鍵岡 均, 的場早智子, 福井基成, 水谷 哲, 田中瑩子, 藤田正憲: 両側肺炎および呼吸不全を呈した高度の気管支狭窄を認める Tracheobronchopathia osteochondroplastica の1例. 同上, 1986. 12.
- 大成功一: 慢性呼吸不全に合併した SIADH の1例. 同上, 1986. 12.
- 新林成介: 慢性呼吸不全の外来管理について——自験4例を中心に——. 1986. 12.
- 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 西川忠男, 稲葉宣雄, 鍵岡 朗, 奥井克治: LMOX の気管支組織内濃度. 同上, 1986. 12.
- 平林正孝, 吉田 仁, 川上賢三, 中川正清, 三嶋理晃: CDDP 投与時の消化器症状に対する対策について. 同上, 1986. 12.

福田正悟, 鎌苅邦彦, 前川豊行, 土肥佳郎: malignant teratoma の brain meta に対する VAN 療法の一著効例. 同上, 1986. 12.

吉田 仁, 平林正孝, 川上賢三, 中川正清, 武田善樹: 縦隔原発の胎児性癌 1 症例. 同上, 1986. 12.

西川忠男, 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 稲葉宣雄, 鍵岡 朗: 肺胞上皮癌の 1 例. 同上, 1986. 12.

鎌苅邦彦, 前川豊行, 福田正悟, 土肥佳郎: 肺腫瘍陰影と間違われた下行大動脈蛇行の 1 例. 同上, 1986. 12.

越久仁敬, 柴垣昌史, 山田紀彦, 佐川弥之助: 横隔膜破裂の 1 例. 同上, 1986.

島田一恵: 低酸素負荷及び肺血管床減少の血管外肺水分量に及ぼす影響. 同上, 1986. 12.

安井浩明: ヒト肺におけるインターフェロンによるインドールアミン酸素添加酵素の誘導とその意義. 1986. 12.

三嶋理晃: Studies on the Peripheral Pulmonary Circulation Time in COPD. 同上, 1986. 12.

山岡新八, 栗山隆信, 平井正志, 久野健志, 他: 慢性肺気腫とびまん性汎細気管支炎の肺性心と肺循環諸量に関する検討. 第32回閉塞性肺疾患研究会, 1987. 1.

川上賢三, 平林正孝, 吉田 仁, 中川正清, 三嶋理晃, 久野健志: Asymmetrical branching model を用いた呼吸インピーダンスの周波数特性の解析. 第32回閉塞性肺疾患研究会, 1987. 1.

久野健志: 第 1 回近畿呼吸器疾患談話会当番幹事及び司会. 1987. 2.

吉田 仁, 川上賢三, 平林正孝, 中川正清: Klinefelter 症候群を合併した前縦隔発生胎児性癌の 1 例. 第 46 回日本肺癌学会関西地方会, 1987. 2.

川上賢三, 吉田 仁, 平林正孝, 中川正清, 安田隆三郎: 化学療法が奏効し切除し得た胸壁原発 MFH の 1 例. 同上, 1987. 2.

田中 茂, 梅宮正志, 加藤幹夫, 他: 血中 VIP 高値を伴い, WDHA 症候群を呈した肺小細胞癌の 1 例. 同上, 1987. 2.

安田隆三郎: 破裂性腹部大動脈瘤の 2 手術治療例. 第 5 回滋賀救急医療研究会, 1987. 2.

#### 〔臨床肺生理学部門主催講演会〕

Clifford W. Zwillich, M. D.: Professor of Medicine The Milton S Hersey Medical Center the Pennsylvania State University. 慢性閉塞性肺疾患の鑑別診断について, 1986. 9. 18.

于 潤江: 中国医科大学呼吸内科教授, 中国におけるサルコイドーシスについて, 1986. 10. 24.

#### 〔誌 上 発 表〕

佐川弥之助: 滝島 任編集, 臨床医のための病態生理学講座. 呼吸器, 分担執筆, 22, 肺水腫, メジカルビュー社, 東京, 1986.

佐川弥之助: 透過性肺水腫. 臨床水電解質, 1-1, 113~118, 1987.

佐川弥之助, 久野健志, 加藤幹夫, 浅井信明, 佐藤公彦, 大井元晴: 臨床呼吸器病学・第 2 報 (分担執筆), 1986.

久野健志: CO<sub>2</sub> ナルコーシス, 今日の治療指針. 302~304, 1986.

久野健志: <話題の新薬> 塩酸ナロキソン. 現代医療, Vol. 19: 440~447, 1987.

久野健志, 佐川弥之助: Bohr 効果. 臨床水電解質, Vol. 6(3): 300~301, 1986.

加藤幹夫: 換気促進剤. 臨床水電解質, Vol. 5: 257~260, 1986.

加藤幹夫, 肺水腫・病態分類と治療法. 麻酔科 Q and A, 岡田和夫, 沼田克雄編, 78~81, 金原出版, 1986.

大井元晴: 第 7 回胸部疾患セミナーテキスト睡眠時呼吸障害. 1986.

大井元晴, 陳 和夫, 栗山隆信, 平井正志, 久野健志, 佐川弥之助, 石村孝夫, 若林 章: 過換気後の低酸素血症. 呼吸, 6: 95~100, 1987.

成瀬 矛, 八木晴夫, 三谷恒雄, 段野貴一郎, 今村貞夫, 福井基成, 大井元晴: 間質性肺炎を合併した皮膚筋炎. 皮膚科紀要, 82: 157~163, 1987.

市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志: 巨大ブラの手術後に認められた呼吸機能の改善について. 呼吸5: 99~104, 1986.

周防正史, 岡田憲夫, 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 坪井裕志, 樋渡章二, 佐々木正道, 高橋睦長: 胸腔内甲状腺腫の1例. 日本胸部臨床, 45: 343~347, 1986.

弘野慶次郎, 市谷勉雄, 坪井裕志: 胸水のX線像. 大阪から肺癌を無くす会会報14, 1986.

佐藤公彦: 肺胞気道系の感染防御機構—物理的防御機構と粘液線毛系. 日本臨床, Vol. 45, No. 3, 450~455, 1987.

佐藤公彦: ARDS. 現代医療, Vol. 18, 1599, 1986.

佐川弥之助, 佐藤公彦, 越久仁敬, 吉田 仁, 市谷勉雄, 坪井裕志, 弘野慶次郎, 中川正清, 三嶋理晃, 川上賢三, 平林正孝, 安田隆三郎, 他: 胸部外科領域における術後 NA 872 液の投与経験. 薬理と治療, Vol. 15, No. 1, 395~405, 1987.

三嶋理晃, 川上賢三, 福永隆文, 山岡新八, 久野健志: 樹脂キャストによる実例気管支分岐に基づく肺の換気力学特性の研究. 第4回「呼吸の ME 研究会」誌, 1986.

中川正清, 吉田 仁, 平林正孝, 川上賢三: NA872 液の呼吸器疾患に対する治療経験. 薬理と治療, Vol. 15 No. 2, 371~379, 1987.

山岡新八, 平井正志, 栗山隆信, 大井元晴, 久野健志, 佐川弥之助, 他: COPD における運動負荷時の心機能の検討 (RI 心プールスキャンによる). 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班 (昭和60年度研究報告), 104~107.

坪井裕志, 市谷勉雄, 弘野慶次郎, 佐々木正道: Tracheobronchopathia osteoplastica の2例. 日本胸部疾患学会雑誌, 24: 1151~1154, 1986.

堀川禎夫, 鈴木雄二郎, 西山秀樹, 前川暢夫, 平井正志, 栗山隆信, 陳 和夫, 祝 爾誠, 大井元晴, 久野健志, 佐川弥之助: Acetazolamide が有効であった閉塞型睡眠時無呼吸症候群の1例. 和歌山赤十字病院医学雑誌, 第4号, 62~67, 1986.

平井正志, 大井元晴, 栗山隆信, 陳 和夫, 久野健志, 佐川弥之助: 睡眠時における経皮  $PCO_2$  の変化. 厚生省特定疾患「呼吸不全」調査研究班 (昭和60年度研究報告), 45~49.

平井正志: 酸素吸入の睡眠時呼吸異常に及ぼす影響. 呼吸, Vol. 5. (10), 1150~1155, 1986.

平井正志, 大井元晴, 栗山隆信, 陳 和夫, 祝 爾誠, 久野健志: 睡眠時無呼吸にどう対応するか. 呼吸と循環, 34巻12号, 1275~1282, 1986.

## 薬 剤 部 門

### 〔学 会 発 表〕

岸本育子, 谷川原祐介, 安原真人, 奥村勝彦, 堀 了平, 川勝一雄, 西村浩一, 川合 満, 武山正治, 山岡清: 疾患時の薬物動態と薬効(20) — ベイジアン推定法における採血時間および母集団パラメータの影響 —. 日本薬学会第106年会 (1986. 4. 3. 千葉).

川勝一雄: 薬物血中濃度モニタリングと薬物相互作用 — テオフィリン. 第2回近畿病院薬剤師会 TDM 懇話会 (1986. 7. 5. 大阪).

国府典子, 岩川精吾, 奥村勝彦, 堀 了平, 武山正治, 石田俊彦: ガベキサート, 修飾ゼラチンによる皮下投与とインスリン安定化と作用増強. 日本薬学会第2年会 (1986. 9. 25. 東京).

千熊正彦, 西嶋三栄子, 半井達弥, 市川佳代, 斎藤 寛, 田中善正, 門 政男, 泉 孝英, 武山正治, 川勝一雄: クロマズロール S を用いる気管支肺洗液中のアルブミンの蛍光定量. 日本分析化学会第35年会 (1986. 10. 11. 岡山).

川勝一雄, 武山正治, 川合 満: 市販徐放性テオフィリン製剤の吸収特性に関する比較検討. 第8回日本病院薬剤師会近畿学術大会 (1987. 1. 31. 奈良).

〔誌 上 発 表〕

川合 満, 川勝一雄, 武山正治: 気管支拡張薬の進歩と治療の現況. Therapeutic Research, 4(6), 1157-1177 (1986).

森川則文, 武山正治, 中野 節, 戸崎洋子, 上藤哲郎, 小栗顯二: Thiamylal の体内動態と脳波. 臨床薬理, 17, 13-14 (1986).